

ゼミ名	上原第一ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《マーケティングコース》	募集学年	新2年生 15名程度	担当教員	上原 義子
選考方法	志望理由書、面談						
研究テーマ	マーケティング						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p><概要> マーケティングに関して理論的および実践的に学びながら、調査や研究に必要なスキル、プレゼンテーション能力、社会人になった時に求められる能力などの体得を目指します。</p> <p><進め方> ゼミナールの良いところは、学生参加型であり、学生が自主的に活動を行えることです。したがって、仲間との議論やフィールドワークなどを通じた学生主導型、参加型の授業になります。とはいえ、これはあくまで基本方針であり、適宜、その年のメンバーの様子に合わせて最も効果的なスタイルを取り入れていきます。</p> <p>当面の大きな目標は、秋に実施されるプレゼン大会に向けて、講義で習ったマーケティングの知識や先輩からのアドバイスをもとに発表の準備をしていくことです。具体的には、各自で関心のあるマーケティング事例などを持ち寄り、それに関して発表やディスカッションを行いながら大会準備を進めていきます。このプロセスを経ることで、マーケティングの基本的な知識をより一層強固なものとして身につけられると考えています。</p> <p>共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎		○		○			
担当科目	市場調査論 A/B 消費者行動論 A/B	関係する科目	マーケティング論 A/B 市場調査論 A/B、消費者行動論 A/B				
テキスト	開講時に指示する。						
参考書	開講時に指示する。						
成績評価方法	通年で評価する						
年間授業計画	(春学期) プレゼン大会に向けたグループワーク	(秋学期) 大会終了後には、ゼミ内で新たなプレゼンを実施します。もしくは、読書会(輪読)を実施します。					

ゼミ名	上原第二ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《マーケティングコース》	募集学年	募集なし	担当教員	上原 義子
選考方法	—						
研究テーマ	卒業論文作成						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p><概要> マーケティングに関して理論的および実践的に学びながら、調査や研究に必要なスキル、プレゼンテーション能力、社会人になった時に求められる能力などの体得を目指します。</p> <p><進め方> ゼミナールの良いところは、学生参加型であり、学生が自主的に活動を行えることです。したがって、仲間との議論やフィールドワークなどを通じた学生主導型、参加型の授業になります。とはいえ、これはあくまで基本方針であり、適宜、その年のメンバーの様子に合わせて最も効果的なスタイルを取り入れていきます。</p> <p>マーケティングの基本的な知識を身につけるために、全員でマーケティングのテキストを読み、それに対して発表やディスカッションを行います。また、各自で関心のあるマーケティング事例などを持ち寄り、それに関して発表やディスカッションを行います。あわせて、消費者主体のマーケティング活動を行うために必要なスキルを身につけるため、リサーチ・スキルを身につけていきます。たとえば、自分自身で実際に商品の企画を行い、それに対する消費者の反応をリサーチします。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎		○		○			
担当科目	市場調査論 A/B 消費者行動論 A/B	関係する科目	マーケティング論 A/B 市場調査論 A/B				
テキスト	開講時に指示する。						
参考書	開講時に指示する。						
成績評価方法	通年で評価する						
年間授業計画	(春学期) テキストの輪読とディスカッションなど。	(秋学期) ゼミの総括として、論文の執筆を行います。					

ゼミ名	嘉瀬第一ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《マーケティングコース》	募集学年	新2年生 8名 新3年生 0名	担当教員	嘉瀬 英昭
選考方法	記述試験と面接試験						
研究テーマ	運輸業と観光業に関する研究						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>本ゼミナールは、主に運輸業について研究する。また、関連の深い観光業についても対象とする。</p> <p>研究対象である運輸業とは、自動車、鉄道、航空機、船舶などを利用し、移動サービスを提供する事業者のことである。物を対象とする物流業と、人を対象とする交通業に分けられる。また、観光業は交通業と密接に関わりがあり、交通分野の研究と併せて行われることも多い。本ゼミでは主にこれからの分野に属する企業等について研究を進めていく。</p> <p>2年次と3年次においては、年度初めに関心がある領域ごとにグループ分けを行い、学生が自ら研究テーマを決定する。さらに、それらの理解を深めるため基礎データや既存研究の収集と分析を行う。最終的には、ゼミ発表等で成果を発表する。</p> <p>ゼミ内では上級生が下級生を指導する役割を担う。</p> <p>【授業の方法】</p> <p>運輸業や観光業に関する研究は、理論研究に加え現実の世界を知ることがより重要となる。したがって、可能な限り企業や施設等を訪問・見学することとする。また、フィールドワークを実施することもある。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要/○重要)						
	(1) 常に半歩先立つ進歩性	(2) 考えて行動する力			(3) ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	○	○	○	◎		
担当科目	物流論、流通論、観光マーケティング論	関係する科目	サービスマーケティング論、地域ビジネス論				
テキスト	開講時に指示する						
参考書	開講時に指示する						
成績評価方法	ゼミ単位取得のためには、特別な理由のない限り欠席および遅刻をしないことが最低限必要となる。評価についてはゼミ活動全般に対しての積極性により行う。						
年間授業計画	(春学期) ・オリエンテーション ・研究テーマの決定とグループ分け ・既存の研究の収集と基礎知識の整理 ・ゼミ合宿等を利用したフィールドワークの実施			(秋学期) ・グループ研究 ・ゼミ発表と準備 ・企業訪問等			

ゼミ名	嘉瀬第二ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《マーケティングコース》	募集学年	募集なし	担当教員	嘉瀬 英昭
選考方法	—						
研究テーマ	運輸業と観光業に関する研究						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>本ゼミナールは、主に運輸業について研究する。また、関連の深い観光業についても対象とする。第一ゼミから継続して履修する4年が対象となる。</p> <p>【授業の方法】 4年次は、個人研究と卒業論文の作成が中心となる。また、後輩への指導も行う。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要/○重要)						
	(1) 常に半歩先立つ進歩性	(2) 考えて行動する力			(3) ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	○		○	○		
担当科目	物流論、流通論、観光マーケティング論		関係する科目	サービスマーケティング論、地域ビジネス論			
テキスト	開講時に指示する						
参考書	開講時に指示する						
成績評価方法	単位取得のためには、卒業論文の提出が必要となる。評価についてはゼミ活動全般に対する積極性により行う。						
年間授業計画	(春学期) ・オリエンテーション ・卒業論文のテーマ決定 ・下級生の指導			(秋学期) ・卒業論文の調査 ・卒業論文の準備と作成			

ゼミ名	齋藤典晃第一ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《マーケティングコース》	募集学年	新2年生 20名程度 新3年生 若干名	担当教員	齋藤 典晃
選考方法	エントリーシート 面接						
研究テーマ	マーケティング戦略論						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【目標】 本ゼミナールは、マーケティング理論に関する基礎的な知識を習得することを目的としています。またマーケティングの基礎的な知識を身につけた上で、実践に役立つマーケティングの知識を習得することを目的とします。具体的には、世の中の流れを読み、その事象をマーケティングの視点から考えることができるようになることを目標とします。</p> <p>【概要】 マーケティングの基礎的な知識、実践的な知識を身につけるだけでなく、その知識を活かすためのスキルを身につけていきます。例えば、プレゼンテーションやディスカッションなどを通じて、マーケティングの知識をより有用に活用できるようにしていきます。</p> <p>【方法】 講義形式ではなく、プレゼンテーションやディスカッションなど、学生の自主的、積極的な参加を求めます(アクティブ・ラーニング)。グループワークが中心になります。</p> <p>【その他】 ゼミ活動に積極的に参加する『サービス精神旺盛』な学生を募集します。 大人数の中でも物怖じせず積極的に自分の意見を主張できる学生でないと厳しいかもしれません(現状、何か発表等をしてもらう時は60人近いゼミ生の前で報告してもらうこととなります)。 マーケティングや広告をテーマにすることは、身近な話題を研究することでもあります。 自分自身が興味関心のあるテーマをとことん追求・研究してほしいと思います。 ゼミ活動を通じて、簡単と思われる課題や「当たり前」のことを聞くことがあるかもしれませんが、そういうディスカッションに積極的に参加してください(大人数の前で意見を言うのは恥ずかしいですが、それを『サービス精神』で補ってほしいと思います)。 勤勉であること、一生懸命になることが美しいと思える価値観を持ってください。 共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	○	◎	○	◎	
担当科目	マーケティング論、広告論		関係する科目	マーケティング論、広告論、その他関連科目			
テキスト	開講時に指示する。						
参考書	必要に応じて指示する。						
成績評価方法	受講態度 グループ活動やその他の活動への積極性						
年間授業計画	(春学期) ・マーケティングの基礎知識の習得 ・プレゼンテーション			(秋学期) ・マーケティングの基礎知識の習得 ・プレゼンテーション ・研究テーマの選定			

ゼミ名	齋藤典晃第二ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《マーケティングコース》	募集学年	募集なし	担当教員	齋藤 典晃
選考方法	エントリーシート 面接						
研究テーマ	マーケティング戦略論						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【目標】 本ゼミナールは、マーケティングの理論に関する基礎的な知識を習得することを目的としています。またマーケティングの基礎的な知識を身につけた上で、実践に役立つマーケティングの知識を習得することを目的とします。具体的には、世の中の事象をマーケティングの視点から考えることができるようになることを目標とします。</p> <p>【概要】 マーケティングの基礎的な知識、実践的な知識を身につけるだけでなく、その知識を活かすためのスキルを身につけていきます。例えば、プレゼンテーションやディスカッションなどを通じて、マーケティングの知識をより有用に活用できるようにしていきます。また卒業論文作成に向けたテーマの選定や、マーケティングの研究の方法についても習得していきます。</p> <p>【方法】 講義形式ではなく、プレゼンテーションやディスカッションなど、学生の自主的、積極的な参加を求めます（アクティブ・ラーニング）。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要／○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	○	◎	○	◎	
ゼミ担当科目	マーケティング論、広告論		関係する科目	マーケティング論、広告論、その他関連科目			
テキスト	開講時に指示する。						
参考書	必要に応じて指示する。						
成績評価方法	受講態度 グループ活動やその他の活動への積極性						
年間授業計画	(春学期) ・マーケティングの基礎知識の習得 ・プレゼンテーション ・研究テーマの選定			(秋学期) ・マーケティングの基礎知識の習得 ・プレゼンテーション ・研究テーマの選定 ・研究方法			

ゼミ名	庄司第一ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《マーケティングコース》	募集学年	新2年生 15名 新3年生 若干名	担当教員	庄司 真人
選考方法	エントリーシート 面接による総合評価						
研究テーマ	マーケティング						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>庄司第一ゼミはマーケティング論に関する基礎知識やマーケティングの考え方を身につけることを目標とする。庄司第一ゼミは2年生および3年生から構成される。</p> <p>2年次には①基礎的なテキストの輪読、②マーケティングの調査技法を身につけることが中心となる。3年次にはグループを5つ程度に分け、グループ別にテーマを設定し、研究を行う。テーマは各グループで設定することになる。教員や他のゼミ員からのアドバイスを受けて、グループ活動を進めてもらうことになる。</p> <p>＜これまでのゼミ生の研究テーマ＞ 参考までに過年度のゼミ発表のテーマは以下のとおりである。 (2022年度)「百貨店」「DXによる営業」「聖地巡礼」「SDGs」「拡張現実」 (2021年度)「インターネットショッピング」「キャッシュレス社会」「ファッション」「フードロス」「アニメーション」「情報リテラシー」 (2020年度)「コロナ禍における観光」「バルミューダ」「保育とマーケティング」「AR, VR」「アフターコロナ」 (令和元年度)「大学の喫煙マナー」「オリンピック効果」「AI・IoTで未来を見る」 (平成30年度)「星野リゾート」「おひとり様に向けた水族館」「マーケティング・コミュニケーション」 (平成29年度)「学割」「健康登山」「ブックシェア」 (平成28年度)「友だちの日」「健康経営と自動販売機」「動物園」 (平成27年度)「カジノ」「健康スイーツ」「複合施設」 (平成26年度)「オリンピックと地方活性化」「コンプレックス」 (平成25年度)「ご当地キャラを使って募金活動」「旅行のきっかけ作り」「ライフコースに合わせた新しい趣味」 (平成24年度)「ひとまち（一人向けマーケティング）」「QOCL（大学生生活充実）」「自動販売機」</p> <p>＜活動内容とアドバイザー制度＞ 本ゼミでは、「社会に有用な人材育成」という事を目標としているため、グループワークや調査、合宿（春・夏）を行う。また、本学のアドバイザー制度の趣旨に基づき、就職活動に対する相談も3年時より行う。</p> <p>＜社会とのつながり＞ 本ゼミでは、外部講師を呼び、マーケティングの現状について解説を行ってもらうこともある。また、ゼミ活動を通じて積極的にインタビュー調査を実施してもらうことになる。</p> <p>【授業の方法】 ケース教材を用いたディスカッション、インタビュー・アンケート調査等のアクティブラーニング形式で行われる。共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	
担当ゼミ教員	マーケティング論 A/B、流通経営論 A/B、商学特別講義、地域ビジネス論	関係する科目	マーケティング論の他、マーケティングに関連する科目				
テキスト	開講時に指示する。 新津重幸・庄司真人〔編〕『マーケティング論』（改訂版）白桃書房、ラッシュ・バーゴ著井上崇通監訳『サービス・ドミナント・ロジックの発想と応用』同文館出版などを利用する。						
参考書	徳永豊他編『詳解マーケティング辞典』同文館出版、バロン著『リレーションシップ・マーケティング』同友館、井上崇通・村松潤一編『ベーシック流通論』同文館出版、原田保他『食文化のスタイルデザイン』大学教育出版、経営学検定協議会〔編〕『マーケティング』中央経済社など。						
成績評価方法	<p>① 受講態度 ゼミへの出席はもちろんのこと、サブゼミや合宿（春・夏）、各種懇親会への参加が求められる。無断欠席は厳禁である。</p> <p>② グループ活動への積極的関与 自らが積極的に提案したり、調査したりする姿勢を特に重視する。</p>						
年間授業計画	<p>(春学期) ＜2年次＞ ・マーケティングの基礎研究（輪読） ・フィールド調査 ＜3年次＞ ・ゼミ発表会、インナー大会に向けた準備</p>			<p>(秋学期) ＜2年次＞ ・マーケティングの基礎研究（輪読） ・各種調査の実施 ・3年次のゼミ発表会に向けたグループ活動 ＜3年次＞ ・インナー大会およびゼミ発表会への参加・発表</p>			

ゼミ名	庄司第二ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《マーケティングコース》	募集学年	募集なし	担当教員	庄司 真人
選考方法	—						
研究テーマ	マーケティング						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>庄司第二ゼミは、現代企業のマーケティング戦略の構造を実証的に明らかにしていくことを目的とする。</p> <p>まず、マーケティング戦略の構造に対して、仮説を設定することから始まる。仮説は各種文献および観察などによって得られる。また、場合によっては企業に直接インタビューすることで、さまざまな問題点が浮かび上がってくるであろう。設定された仮説をもとに、実証的研究を行う。そして、そこで得られた成果を卒業論文によって発表してもらうことになる。</p> <p>このゼミでは、マーケティングの動向を理解するために外部講師の方に話をしてもらうことを予定している。</p> <p>なお、アドバイザー制度の一貫として、進路等を踏まえた個別面談を行う。</p> <p><活動内容とアドバイザー制度> 本学のアドバイザー制度の趣旨に基づき、就職活動に対する相談を逐次行う。</p> <p>【授業の方法】 卒業論文作成過程において、インタビュー・アンケート調査等を行うことになる。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	◎	◎	○	◎	
担当科目	マーケティング論 A/B、流通経営論 A/B、商学特別講義、地域ビジネス論	関係科目	マーケティング論の他、マーケティングに関連する科目				
テキスト	開講時に指示する。						
参考書	新津重幸・庄司真人〔編〕『マーケティング論』白桃書房、原田保『世界遺産の地域価値創造戦略』芙蓉書房、徳永豊他編『詳解マーケティング辞典』同文館出版、R. ラッシュ、S. バーゴ著『サービス・ドミナント・ロジックの発想と応用』同文館出版、バロン著『リレーションシップ・マーケティング』同友館、井上崇通・村松潤一編『ベーシック流通論』同文館出版、経営学検定協議会〔編〕『マーケティング』中央経済社、原田保他編『食文化のスタイルデザイン』大学教育出版など。						
成績評価方法	① 受講態度 ゼミへの出席はもちろんのこと、サブゼミや合宿（春・夏）、各種懇親会への参加が求められる。無断欠席は厳禁である。 ② グループ活動への積極的関与 自らが積極的に提案したり、調査したりする姿勢を特に重視する。						
年間授業計画	(春学期) 4月から6月 テキスト輪読・面談 7月から9月 卒論テーマ設定・文献調査			(秋学期) 10月から11月 作成した論文の読み合わせ及び検討 ゼミ発表会に向けた第一ゼミへのアドバイス 11月から1月 卒論中間発表 卒論提出			

ゼミ名	永井第一ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《マーケティングコース》	募集学年	新2年生 20名 新3年生 若干名	担当教員	永井 竜之介
選考方法	面接						
研究テーマ	マーケティング情報論 (Digital Marketing)						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>本ゼミでは、大企業、ベンチャー企業、中小企業という幅広いプレーヤーによるマーケティング戦略について、マーケティング情報論 (Digital Marketing) の視点から分析を行っていきます。デジタル・マーケティングと聞くとネットサービス企業が思い浮かぶかもしれませんが、現在、あらゆる企業活動、マーケティング戦略にはデジタル・マーケティングが密接に関わっています。</p> <p>環境と消費者の変化が加速していく中で、「優れたモノ (サービス) を作る、売る、広める」といったマーケティング戦略もまた、急速に変化を続けています。本ゼミは、現在進行形で変わっていくマーケティングの最前線について、問題意識を持ち、知り、考えていく場です。</p> <p>また、本ゼミを通じて「自分の人生のマーケティング」についての知見と考え方を養っていただきます。現在の自分が知っている世界に留まらずに、これまで知らなかった企業、マーケティング、世界、生き方について学び、人生の選択肢や価値観を広げていきましょう。そのために、通常のゼミ活動に加えて、外部講師によるゲスト講演や、企業訪問、施設視察等を予定しています。2・3年生は大企業とベンチャー企業を対象とした事例研究、4年生は中小企業を対象としたフィールドワークが研究活動の中心となる予定です。</p> <p>企業へ取材を実施し、課題発見と解決提案を行う産学連携活動や、ビジネスプランを0から考え、創りあげて発表していく外部コンテストなどに参加する機会を設けています。</p> <p>[授業の方法] 個人で作成したレポートについて、プレゼンとディスカッション、 またグループワークに基づく研究発表とディスカッション、 さらには外部ゲスト講演や企業訪問といったアクティブラーニングを実施する。 共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	◎	◎	◎	○	
担当科目	マーケティング情報論 A/B マーケティング論 A/B	関係する科目	左記およびマーケティング関連科目				
テキスト	特になし						
参考書	必要に応じて紹介していきます。						
成績評価方法	ゼミ活動における出席状況、参加姿勢、グループワークでの働き等を総合的に評価します。						
年間授業計画	(春学期)			(秋学期)			
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 個人での課題レポートへの取り組み ■ 課題レポートのゼミ発表 ■ マーケティング・トレンドの共有 ■ グループ決めと研究テーマ選び 			<ul style="list-style-type: none"> ■ グループワークの経過報告 ■ ディスカッション ■ 各研究テーマの最終発表 			

ゼミ名	永井第二ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《マーケティングコース》	募集学年	募集なし	担当教員	永井 竜之介
選考方法	—						
研究テーマ	マーケティング情報論 (Digital Marketing)						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>本ゼミでは、大企業、ベンチャー企業、中小企業という幅広いプレーヤーによるマーケティング戦略について、マーケティング情報論 (Digital Marketing) の視点から分析を行っていきます。デジタル・マーケティングと聞くとネットサービス企業が思い浮かぶかもしれませんが、現在、あらゆる企業活動、マーケティング戦略にはデジタル・マーケティングが密接に関わっています。</p> <p>環境と消費者の変化が加速していく中で、「優れたモノ (サービス) を作る、売る、広める」といったマーケティング戦略もまた、急速に変化を続けています。本ゼミは、現在進行形で変わっていくマーケティングの最前線について、問題意識を持ち、知り、考えていく場です。</p> <p>また、本ゼミを通じて「自分の人生のマーケティング」についての知見と考え方を養っていただきます。現在の自分が知っている世界に留まらずに、これまで知らなかった企業、マーケティング、世界、生き方について学び、人生の選択肢や価値観を広げていきましょう。そのために、通常のゼミ活動に加えて、外部講師によるゲスト講演や、企業訪問、施設視察等を予定しています。2・3年生は大企業とベンチャー企業を対象とした事例研究、4年生は中小企業を対象としたフィールドワークが研究活動の中心となる予定です。</p> <p>[授業の方法] 個人で作成したレポートについて、プレゼンとディスカッション、またグループワークに基づく研究発表とディスカッション、さらには外部ゲスト講演や企業訪問といったアクティブラーニングを実施する。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	◎	◎	◎	○	
担当科目	マーケティング情報論 A/B マーケティング論 A/B	関係する科目	左記およびマーケティング関連科目				
テキスト	特になし						
参考書	必要に応じて紹介していきます。						
成績評価方法	ゼミ活動における出席状況、参加姿勢、グループワークでの働き等を総合的に評価します。						
年間授業計画	(春学期) <ul style="list-style-type: none"> ■ 個人での課題レポートへの取り組み ■ 課題レポートのゼミ発表 ■ マーケティング・トレンドの共有 ■ グループ決めと研究テーマ選び 			(秋学期) <ul style="list-style-type: none"> ■ グループワークの経過報告 ■ ディスカッション ■ 各研究テーマの最終発表 			

ゼミ名	内田第一ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《金融コース》	募集学年	新2年生 5名程度 新3年生 若干名	担当教員	内田 稔
選考方法	志望理由の事前提出（400字以内）と面接（新3年生は金融総論 and/or 国際金融論履修者に限る）						
研究テーマ	国際金融論						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 本ゼミナールでは、社会に出てからも役立つ実践的かつ幅広い金融の知識習得と向上を目指す。</p> <p>【ゼミナールの概要】 本ゼミでは、国際金融の要である外国為替のほか、株式や債券（金利）、コモディティ市場、金融・財政政策などを幅広く扱い、金融、経済に対する理解を深める。</p> <p>【授業の方法】 日々、変化する現実のマーケットに目を向け、その動きを振り返りながら、幅広い金融の知識を身につける。教材として、国際金融論や金融総論のレジュメを用いるほか、日本経済新聞や経済専門誌、経済番組などからタイムリーな記事や専門家のコメントなども採り上げ、それらを独力で理解できる力を養う。また、それぞれが定めたテーマに関して調べた内容を発表し、積極的なディスカッションも行う。尚、2023年度は、野村證券と日本経済新聞社共催の「日経ストックリーグ」に参加した（2024年度以降は未定）。</p> <p>新2年生については、共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨する。また、受験結果に基づいた面談も実施する。</p>						
⑧到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	◎	◎	○		
担当科目	金融総論 A/B, 国際金融論 A/B			関係する科目	国際金融論、金融総論、マクロ経済学、証券論、金融論、金融工学		
テキスト	適宜指示する						
参考書	適宜指示する						
成績評価方法	出席状況、受講態度、積極性、プレゼン力、理解度による総合評価						
年間授業計画	(春学期) 毎週、為替、株、金利などマーケット動向を振り返り、値動きの背景を考察する。この繰り返しによって、金融全般への知識と理解を深める。			(秋学期) 春学期の内容を継続しつつ、各自（またはグループ）で簡単な研究テーマを定め、調べた内容をまとめる。内容に関して全員でディスカッションを行う。頻度やペースは、全体の理解度等を勘案して適宜調整する。3年生は卒論のテーマ策定も徐々に意識する。尚、2023年度は日経ストックリーグに参加した。			

ゼミ名	内田第二ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《金融コース》	募集学年	新4年生 募集なし	担当教員	内田 稔
選考方法	募集なし						
研究テーマ	国際金融論						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 本ゼミナールでは、社会に出てからも役立つ実践的かつ幅広い金融の知識習得と向上を目指す。</p> <p>【ゼミナールの概要】 本ゼミでは、国際金融の要である外国為替のほか、株式や債券（金利）、コモディティ市場、金融・財政政策などを幅広く扱い、金融、経済に対する理解を深める。</p> <p>【授業の方法】 日々、変化する現実のマーケットに目を向け、その動きを振り返りながら、幅広い金融の知識を身につける。教材として、国際金融論や金融総論のレジュメを用いるほか、日本経済新聞や経済専門誌、経済番組などからタイムリーな記事や専門家のコメントなども採り上げ、それらを独力で理解できる力を養う。また、それぞれが定めたテーマに関して調べた内容を発表し、積極的なディスカッションも行う。尚、2023年度は、野村證券と日本経済新聞社共催の「日経ストックリーグ」に参加（2024年度以降は未定）。</p>						
⑧到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	◎	◎	○		
担当科目	金融総論 A/B, 国際金融論 A/B		関係科目	国際金融論、金融総論、マクロ経済学、証券論、金融論、金融工学			
テキスト	適宜指示する						
参考書	適宜指示する						
成績評価方法	出席状況、受講態度、積極性、プレゼン力、理解度による総合評価						
年間授業計画	(春学期) 現実に起きている様々な経済や金融の時事問題に目を向け、卒論テーマの選定を行う。			(秋学期) 卒論作成に取り組む。			

ゼミ名	恩蔵第一ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《金融コース》	募集学年	新2年生 10名 新3年生 0名	担当教員	恩蔵 三穂
選考方法	面接						
研究テーマ	リスクと保険						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>私たちの身のまわりには、地震や水害などの自然災害、火災、病気、ケガなど、たくさんのリスクがあります。生活していく上で、これらのリスクをうまく対処していく重要な手段として「保険」があります。学生の頃は「保険は関係ない」と思っている、例えば一人暮らしでマンションを借りると、火災リスク等をカバーしてくれる「火災保険」などに加入する必要があります。自動車保険（自賠責保険）についてみると、車の所有者は全員加入しなくてはなりません。生命保険においては、世帯加入率が約90%であり、多くの国民が保険に加入しています。いまや保険は私達の生活に必要な不可欠なものといえるでしょう。</p> <p>さて金融コースには、金融業界を目指す学生を対象とした「ファイナンシャルマスター・プログラム」が設置されています。このプログラムの重要な一つとして、「ファイナンシャル・プランナー（FP）」があげられます。生活に密着したお金に関する分野を扱うFPの資格は、保険はもちろん、銀行や証券などの金融業界、住宅メーカーなどの不動産業界において大いに役立っています。実際、今まで多くのゼミ生がFPの資格を取得しています。（ゼミでは、学生から要望があれば、ファイナンシャル・プランナーの資格取得のための保険分野に関する学習を行う場合があります）。</p> <p>本ゼミナールでは、リスクと保険の本質を正しく理解してもらうとともに、身近なリスクに焦点をあて、リスクマネジメントや保険に関する実際のケースを取り上げて議論していきたいと思えます。具体的には、グループに分かれて、興味あるテーマを選定してもらい、報告の進捗状況によって、ゼミ内で発表してもらいます。さらにゼミで議論することによって、研究内容を深めてもらい、最終的には、秋学期の学生発表会で報告してもらいます。「プレゼンコンテスト」では「最優秀賞」「優秀賞」を受賞しています。</p> <p>一方、外部委託研究については、毎年、こくみん共済coop（全労済）からの依頼を受け、保険の類似制度である「共済」に関するマーケティングについて研究します。本研究に関し、他大学（明治大学および日本大学）と研究交流をすることができます。2017年度に委託研究を受託して以来、全労済から毎年、「奨励賞」が授与されており、実務に近い研究が評価され、就職活動にも大いに役立っています。</p> <p>なお、本ゼミでは外部講師を招聘する場合があります。 共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	○		◎		○	
ゼミ教員担当科目	保険論、リスクマネジメント論	関係する科目	保険論、リスクマネジメント論、ファイナンシャル・プランニング論				
テキスト	必要に応じて指示します。						
参考書	必要に応じて指示します。						
成績評価方法	ゼミへの貢献度（出席状況や活動内容など）によって評価します。						
年間授業計画	(春学期) ゼミ生自身で研究テーマを決めて、グループ発表をしてもらいます。この作業は、秋の学生発表会（プレゼンコンテスト）におけるプレゼンテーション及び論文の作成を最終目標としています。 なお、外部委託研究を受けた場合は、委託先が提示した研究テーマに基づき、研究します。			(秋学期) ゼミ生自身で研究テーマを決めて、グループ発表をもらいます。この作業は、秋の学生発表会におけるプレゼンテーション及び論文の作成を最終目標としています。			

ゼミ名	恩蔵第二ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《金融コース》	募集学年	募集なし	担当教員	恩蔵 三穂
選考方法	—						
研究テーマ	リスクと保険						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>恩蔵第一ゼミナールでの研究をもとに、各自、自分たちの研究テーマを設定し、卒業論文を完成することを目標としています。</p> <p>まず、春学期に研究計画書を提出してもらい、本ゼミナールでプレゼンテーションしてもらいます。各プレゼンテーションにつき、ゼミ生同士で議論するなどして研究内容を深めてもらいます。ゼミ生の進捗状況に応じて、何度かこの過程を繰り返すことにより、卒業論文をまとめることとなります。先輩が受賞した「論文賞」(学部で優秀と認められた論文に贈られる賞) 受賞を目指し、卒業論文を作成してもらいたいと考えています。</p> <p>[授業の方法]</p> <p>アクティブ・ラーニングの一環として、2017年度よりこくみん共済 coop (全労済) からの委託研究を受け、保険の類似制度である共済のマーケティングについて研究中です。本研究に関し、他大学との研究交流(明治大学および日本大学)があります。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎				○	
ゼミ教員担当科目	保険論、リスクマネジメント論		関係する科目	保険論、リスクマネジメント論、 ファイナンシャル・プランニング論			
テキスト	必要に応じて指示します。						
参考書	必要に応じて指示します。						
成績評価方法	ゼミへの貢献度(出席状況や活動内容など)によって評価します。						
年間授業計画	(春学期) ゼミ生自身で研究テーマを決めて、発表してもらいます。この作業は、卒業論文の作成を最終目標としています。			(秋学期) ゼミ生自身で研究テーマを決めて、発表してもらいます。この作業は、卒業論文の作成を最終目標としています。			

ゼミ名	楠美第一ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《金融コース》	募集学年	新2年生 15名 新3年生 5名	担当教員	楠美 将彦
選考方法	面接。事前に自己紹介シートを提出してもらう。						
研究テーマ	ファイナンス論						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 このゼミナールでは、金融の中でもファイナンスに関わる事象を学び、研究していく。単なる知識の蓄積にとどまらず、なぜそのような行動になるのか、なぜそのような変化が起きたのかなどの検討を行っていく。</p> <p>【ゼミナールの概要】 授業内容は、春学期はファイナンス・金融に関わる基本的な知識の蓄積を目的とする。金融の知識は、金融業を目指す学生だけに留まらず、多くの学生にとって必須なものとなってきている。一方で、多くの金融の事象は専門用語や相互作用によって仕組みがわかりづらくなっている。ファイナンスは、金融の中でも投資や資金調達など、投資家や企業の立場から金融を理解する分野とみなせる。 このゼミナールではゼミ生自身が報告や質疑応答を行い、金融に関する理解を深めていく。具体的なテーマやテキストは第1回目に相談して決める。秋学期はゼミ発表会に向け何らかのテーマを研究していく。ゼミ発表会後は1本のレポートを書くために、テーマ選択、内容検討を行っていく。 上記の内容に平行して、1年間を通じて株式投資の検討も行っていく。単に、株式選択をするのではなく、なぜその銘柄を選択したのかを相互に検討し、株式や企業に対する理解を深めていく。</p> <p>主な年間行事は、ゼミナール発表会への参加、夏期ゼミ合宿（学内でのサブゼミに代替することがある）である。 また、楠美第二ゼミナールへの参加も義務とする。</p> <p>【授業の方法】 授業はゼミ生による報告形式ですすめていく。担当者はパワーポイントでレジュメを作成し、報告を進めていく。報告担当者以外は積極的に質問・コメントして欲しい。</p> <p>共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨する。また、受験結果に基づいた面談を実施する。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	○	◎	◎	○	
担当ゼミ教員	金融総論、金融論、金融工学		関係する科目	経済学、ミクロ経済学、銀行論、ファイナンシャルプランニング論、証券論、金融論などの金融関連科目			
テキスト	第1回目の授業で決定する。 昨年度は、企業評価に関するファイナンスを題材にしたテキストの輪読を行った。						
参考書	授業内で適宜指示する。						
成績評価方法	出席は義務とする。授業やチーム作業への参加姿勢などから総合的に評価を行う。 授業の理解度以上に、取り組み姿勢を重要視する。						
年間授業計画	(春学期) 第1回目に決定した教科書をもとに報告を順次行ってもらおう。秋開催のゼミ発表会を見据えて、基本的な知識の習得、研究方法の習得などを行っていく。			(秋学期) 11月まではゼミ発表会に向けて共同で研究を進めてもらう。それ以後は、各個人がテーマを自由に1つ選び、経過報告し、1月末にレポートを提出してもらう。			

ゼミ名	楠美第二ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《金融コース》	募集学年	募集なし	担当教員	楠美 将彦
選考方法	—						
研究テーマ	ファイナンス論						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 卒業論文の完成を目標とする。</p> <p>【ゼミナールの概要】 楠美第二ゼミナールでは、3年生までに培った金融や経済に関する知識を基に、卒論完成に向けての研究を進めてもらう。テーマは金融や経済に関するものであればどのようなものでもかまわないが、単なる情報の集積ではなく、何らかの疑問点に対する考察を行ってもらう。</p> <p>卒論の進行に合わせて報告を行ってもらう。ただし、就職活動の状況に応じて、取り組み計画を調整する。</p> <p>【授業の方法】 各自のテーマに沿って、論文もしくはレジュメを作成し、報告する。ゼミでは質疑応答を行う。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎				
担当科目	金融総論、金融論、金融工学	関係する科目	経済学、ミクロ経済学、銀行論、ファイナンシャルプランニング、論、証券論、金融論などの金融関連科目				
テキスト	特に指定しない。						
参考書	各人の研究テーマにあわせて適宜指示する。						
成績評価方法	基本的に、卒論の執筆は義務とする。ただし、進捗は就職活動の状況を考慮する。作成途中での取り組み姿勢や卒論内容などから総合的に評価を行う。						
年間授業計画	(春学期) 過去の学習・研究・進級レポートをもとに、卒論のテーマを決定する。さらにテーマに関する基本的文献の調査・理解に努めてもらう。学期終了までに卒論の基本的な部分をまとめることを目指す。			(秋学期) 卒論完成に向けて研究経過を逐次報告してもらう。卒論では、基礎研究の検討が十分か、独自の視点があるか、論理的な展開ができていないかといった点を重視する。卒論の提出を最終目標とする。			

ゼミ名	柴田第一ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《金融コース》	募集学年	新2年生 10名 新3年生 5名	担当教員	柴田 舞
選考方法	面接						
研究テーマ	証券市場分析						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>本ゼミでは、証券市場の仕組み、および証券・経済の分析について勉強します。</p> <p>証券市場は金融を支える重要な市場です。市場に直接関わる人たちだけのものではありません。広く経済に関わる人たちは、経済の動向を知る手がかりとして、市場情報を見ています。本ゼミでは、証券や経済に関連するテーマについて、勉強していきます。</p> <p>春学期には証券市場に関する知識を増やすために、本や資料を読みます。また、個人やグループで研究テーマの発表を行います。他の参加者は質問やコメントをしてゼミに積極的に参加してください。お互いのコミュニケーションによって専門的理解を深めます。その後、学内のゼミナール発表会へ向けて研究を始めます。</p> <p>春学期の後半から秋学期には、ゼミナール発表会へ向けて研究を深めます。発表では各自が積極的に役割を担ってください。発表会後は個人でテーマを決めて、レポートをまとめます。</p> <p>ゼミの目標は、証券市場に関する知識を得て、自分で分析ができることです。また、関連する金融や経済の理解も、目標に掲げます。</p> <p>【授業の方法】 興味のある研究テーマについて、個人もしくはグループで調べて、発表し、レポートにまとめる。</p> <p>共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	○	◎	○	○	
ゼミ教員 担当科目	証券論、経済学(マイクロ基礎)、経済学(マクロ基礎)		関係する 科目	証券論、経済学(マイクロ基礎)、経済学(マクロ基礎)、金融総論。			
テキスト	指定しません。授業内で資料を配布します。						
参考書	指定しません。授業内で資料を配布します。						
成績評価方法	出席状況やゼミへの貢献度(討議への参加程度、発表など)を総合的に評価します。						
年間授業計画	(春学期)			(秋学期)			
	個別テーマ調べ。 資料の読み込み。 班別研究テーマ設定。			個人またはグループで研究を進めて、成果を発表します。 秋学期終了時には個人でレポートをまとめます。 学内のゼミナール発表会における発表を目標として準備を進めます。			

ゼミ名	柴田第二ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《金融コース》			募集学年	募集なし	担当教員	柴田 舞
選考方法	—								
研究テーマ	証券市場分析								
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>本ゼミでは、3年生までに勉強した研究テーマを基にして、さらに研究を進め、最終的には卒業論文を執筆します。研究内容は3年生までにゼミで取り組んだ内容を発展させます。 参加学生は適宜、ゼミ内で研究進捗状況を発表します。</p> <p>【授業の方法】 個人で掲げたテーマに向けて調べて、卒業論文にまとめます。春学期は論文の構成を考えて、その時点における卒業論文の方向性を発表します。秋学期には執筆と推敲を繰り返すことで卒業論文を完成させます。</p>								
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要/○重要)								
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力				
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任		
◎	◎	◎	○	◎	○	○			
ゼミ教員 担当科目	証券論、経済学(マイクロ基礎)、経済学(マクロ基礎)			関係する 科目	証券論、経済学(マイクロ基礎)、経済学(マクロ基礎)、金融総論				
テキスト	適宜、指示します。								
参考書	適宜、指示します。								
成績評価方法	出席状況やゼミへの貢献度(討議への参加程度、発表など)を総合的に評価します。								
年間授業計画	(春学期) 3年生までの研究テーマの復習と、その研究の発展可能性を確認します。論文執筆に必要な資料を集めます。				(秋学期) 論文を執筆します。適宜、発表します。発表に対してコメントをもらい、書き直します。この作業を繰り返し、論文を完成させます。				

ゼミ名	石井第一ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《会計コース》	募集学年	新2年生 8名 新3年生 0名	担当教員	石井 康彦
選考方法	エントリーシート・面接						
研究テーマ	企業の財務報告						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>多くの利害関係者にとって、企業活動の全てを直接目で見たり、体験したりすることは非常に困難である。そこで企業の報告をもとにその企業活動を評価し、今後の関わり方についての意思決定を行う。したがって、利害関係者にとって、企業の活動報告は必要不可欠な存在であるといつてよい。</p> <p>企業が行う報告のなかでも、有価証券報告書をはじめとする財務報告は重要性の高いものひとつと一般に考えられている。このゼミでは、企業の財務報告書を材料として、どのように企業活動の分析・評価を行うのか、ということテーマとする。</p> <p>【授業の方法】 財務報告をもとに企業活動を評価するためには、まず、報告される財務情報はどのように生産されるかを理解する必要がある。なぜなら、どのように作られたかがわからなければ、提供された財務情報の特徴もわからず、これをどう加工しても、そこから企業活動を想像することは不可能だからである。財務情報の生産のしくみとは、具体的には簿記システムと会計ルールである。つぎに、財務情報の特徴についての基本的な理解をもとに、財務情報の分析方法について理解する。2つのステップの成果をもとに、実際の財務報告書をもちいた企業評価を試みる。</p> <p>共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
⑧到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
○	○	◎	◎	◎	◎		
担当科目	経営分析、税理士・財務諸表論	関係科目	財務会計論、経営分析などの会計関連科目 企業金融論などの金融関連科目				
テキスト	開講時に指示する。						
参考書	開講時に指示する。						
成績評価方法	ゼミへの貢献度をもとに評価する。無断欠席をはじめ、チームワークを乱すような行為に対しては厳しく対処する。						
年間授業計画	(春学期) 経営分析に関する文献の輪読。			(秋学期) 実際の有価証券報告書等をもとにした財務分析を行い、ゼミ発表会で発表する。			

ゼミ名	石井第二ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《会計コース》	募集学年	募集なし	担当教員	石井 康彦
選考方法	—						
研究テーマ	企業の財務報告						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>第1ゼミナールでの学習を前提として、有価証券報告書を主たる情報源とした企業評価を行う。第2ゼミでは、単なる財務分析にとどまることなく、有価証券報告書以外の企業情報や業界に係わる情報をもとに、総合的な評価を試みたい。</p> <p>【授業の方法】 秋学期がスタートするまでには、各自で対象企業を1社選定したうえで企業評価を行い、卒業論文作成の準備を行う。</p>						
⑧到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
○	◎	◎	◎	○			
担当科目	経営分析、税理士・財務諸表論	関係する科目	財務会計論、経営分析などの会計関連科目 企業金融論などの金融関連科目				
テキスト	開講時に指示する。						
参考書	開講時に指示する。						
成績評価方法	卒業論文の内容で評価する。						
年間授業計画	(春学期) 上場会社の有価証券報告書を用いた財務分析(事例研究) 回帰分析等の統計処理の方法の学習、非財務情報の入手と分析方法の学習			(秋学期) 卒業論文の執筆			

ゼミ名	伊藤第一ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《会計コース》	募集学年	新2年生 8名 新3年生 0名	担当教員	伊藤 義之
選考方法	面接(状況等によっては Web 面接の場合もあります・本ゼミへの応募理由や動機等を伺います)						
研究テーマ	基礎的税務会計－租税法研究						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>〔目標〕 近年、我が国企業のグローバル化を背景に、会計面では国際会計基準(IFRS)の採用など国際的調和が図られつつあり、また、企業会計と密接な関係にある法人税法においても財源調達や課税の公平性確保のほか国際競争力をも考慮した税制の再構築が求められるほか、国際課税の新たなルールが合意(デジタル課税・最低法人税率 15%以上)され、実施に向けて各国とも現在その準備が行われるなど会計や法人税(法)を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。一方、我が国に目を転じてみますと、昨今の働き方の多様化(ウーバーイーツ等配達員など個人請負事業者の増加)に対応する形での基礎控除額のアップ財源として給与所得控除額等の見直しを始め、退職所得課税の適正化などが図られつつあります。このような内外の情勢を踏まえ、これまでに学習してきた簿記・会計の知識を基にした企業会計の一形態としての税務会計や我々の身近な生活に関わりの深い所得税法や消費税法など租税法の基礎的な研究を行います。</p> <p>〔概要〕 法人税法が企業会計とどのように関わっているかを最初に学ぶこととしますが、所得税法や消費税法などについても身近な我々との生活に関連付けて学習します。これらの学習を通じて税の意義・仕組み・役割を理解します。</p> <p>〔授業の方法〕 租税法全般について基本的な概要を学んだ後、ゼミ発表に向けたテーマ選定を行い、その後各グループが分担している箇所について順次報告・発表し、全員参加で議論・討論を行い、その成果をゼミ発表に生かします。また、授業の中では、日本経済新聞などに掲載された税務会計、税(法)や財政などに関する記事を取り上げ、記事解説や意見交換も併せて行い、当該記事の内容を深く掘り下げる研究・発表テーマの選定にも資するようにします。 共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	○	○	◎	○	◎	
ゼミ担当科目	税理士・税法(基礎) [税理士養成プログラム] 税務会計論 A/B		関係する科目	簿記・会計に関する科目及び民法や会社法などの私法(隣接科学)に関する科目			
テキスト	開講時以降に適宜指示します。						
参考書	開講時以降に適宜指示します。						
成績評価方法	出席やゼミへの貢献度(質疑・応答・意見など討論への参画状況や研究成果発表など)を総合的に評価します。なお、無断欠席は厳禁とします。						
年間授業計画	(春学期) 税の仕組み・役割や各税法などの概要を学んだ後、ゼミ発表会のテーマ選定を行い、各グループが収集した担当分野の参考資料等を始めパワポ(案)の概要を順次報告し、ゼミ発表に向けた準備を進めます。その他、毎時限、輪番で新聞記事内容を紹介し、教員による記事解説や全員参加による意見交換等を行います。			(秋学期) 各グループがゼミ発表会のテーマにおいて分担している事項を春学期に引き続き報告し合いながら準備(パワポ資料・発表シナリオ)を行いゼミ発表に臨みます。ゼミ発表後は、皆の関心の高い分野・領域の税法を学びます。その他、毎時限、輪番で新聞記事内容を紹介し、教員による記事解説や全員参加による意見交換等を行います。			

ゼミ名	伊藤第二ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《会計コース》	募集学年	0名	担当教員	伊藤 義之
選考方法	募集なし						
研究テーマ	応用的税務会計－租税法研究						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>[目標] 第二ゼミナールでは、これまでに学習してきた第一ゼミでの基礎的な税務会計－租税法研究を踏まえて、租税法の応用的な研究を行います。従って、第一ゼミから継続して履修した4年生が対象となります。</p> <p>[概要] 法人税法が企業会計とどのように密接に関わっているかを具体的な事例としての裁判例や審判所裁決事例などを検証して主に学ぶこととしますが、実のある学習を行うためにも簿記・会計の知識に加え、憲法を始め民法や会社法などの法律に関する専門的な知識も不可欠となります。 また、各人の関心に応じて、法人税法以外の税法の分野(例えば、所得税法、相続税法や消費税法など)についても弾力的に学びます。</p> <p>[授業の方法] 4年生は、個人の研究と卒業論文の作成が中心となりますが、論文の作成に当たっては、日頃から丹念に収集した参考文献を精読し、自身の思考を練り上げ、指導教員とのディスカッションを通じ、論理的で骨太な卒業論文の完成を目指します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要／○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	○	○	◎	
担当科目	税理士・税法(基礎)[税理士養成プログラム] 税務会計論 A/B		関係する科目	簿記・会計に関する科目及び民法や会社法などの私法(隣接科学)に関する科目			
テキスト	開講時以降に各人のテーマに即して適宜指示します。						
参考書	開講時以降に各人のテーマに即して適宜指示します。						
成績評価方法	卒業論文の提出が評価の大前提となりますが、ゼミにおける態度や論文の内容などを総合的に評価します。なお、無断欠席は厳禁とします。						
年間授業計画	(春学期) オリエンテーション 論文作成の作法の学修 卒業論文のテーマ選定 参考文献の収集と精読、指導教員との継続的なディスカッション テーマ選定に係るレジュメの作成・提出			(秋学期) 中間発表と初稿作成 完成に向けて指導教員と協議を継続しブラッシュアップ 卒業論文の完成・提出			

ゼミ名	川崎第一ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《会計コース》	募集学年	新2年生 約10名 新3年生 数名	担当教員	川崎 芙有
選考方法	エントリーシートと面接						
研究テーマ	財務会計の研究						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>[目標] 財務会計は、企業の日々の経済活動を認識、測定し、これをまとめた財務諸表というものを用いて、企業の状況（財政状態や経営成績）を様々な利害関係者に伝達するという行為です。 このゼミでは、財務会計の基礎的な知識、論理的な思考、プレゼンテーションの力、コミュニケーションの力を身に付けることを目標とします。</p> <p>[概要] 春学期には、財務会計の文献を輪読しディスカッションを行い、財務会計についての理解を深めます。 秋学期には、いくつかのグループに分かれて、グループごとに、学生自らの興味に基づき設定したテーマについて研究し、その成果を論文にまとめ、ゼミ発表会にて報告します。 なお、サブゼミについては、学生と相談のうえ決めます。</p> <p>[方法] 文献の輪読では、学生全員が、司会、報告者、質問者のいずれかの役割を担います。 学生が主体となり、自由闊達に議論してもらいます。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	○	◎	◎	○	
ゼミ担当科目	会計学総論 A/B 簿記 I/II 税理士・簿記論（基礎/応用）		関係する科目	簿記、会計学総論、財務会計論などの会計科目 金融総論などの金融科目			
テキスト	初回のゼミで指示します。						
参考書	適宜、紹介します。						
成績評価方法	ゼミへの貢献度（出席や発表など）により評価します。						
年間授業計画	(春学期) 財務会計についての文献の輪読。 ゼミ発表会の準備。			(秋学期) ゼミ発表会の準備。 財務会計についての文献の輪読または簿記検定合格のための学習。			

ゼミ名	川崎第二ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《会計コース》	募集学年	新4年生 0名	担当教員	川崎 芙有
選考方法	—						
研究テーマ	財務会計の研究						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>[目標] 財務会計は、企業の日々の経済活動を認識、測定し、これをまとめた財務諸表というものを用いて、企業の状況（財政状態や経営成績）を様々な利害関係者に伝達するという行為です。 このゼミでは、これまでのゼミ活動で身に付けた財務会計の知識や論理的な思考を基礎に、卒業論文を完成させることを目標とします。</p> <p>[概要] 各自、卒業論文を作成し発表します。</p> <p>[方法] 卒業論文の発表の際には、学生全員が、司会、報告者、質問者のいずれかの役割を担います。学生が主体となって自由闊達に議論してもらいます。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	○	○	○	
ゼミ担当科目	会計学総論 A/B 簿記 I/II 税理士・簿記論（基礎/応用）		関係する科目	簿記、会計学総論、財務会計論などの会計科目 金融総論などの金融科目			
テキスト	初回のゼミで指示します。						
参考書	適宜、紹介します。						
成績評価方法	ゼミへの貢献度（出席、発表、卒業論文の内容など）により評価します。						
年間授業計画	(春学期) 卒業論文の作成、発表。			(秋学期) 卒業論文の作成、発表。			

ゼミ名	住倉第一ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《会計コース》	募集学年	新2年生10名 新3年生0名	担当教員	住倉 毅宏
選考方法	面接						
研究テーマ	税法の基礎的研究—税法に親しんでみよう—						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>研究の内容</p> <p>我が国の財政を支え、広く国民に負担を求めていることから、その税負担は公平である必要があります。しかし、例えば所得税制を考えなくても、国民のそれぞれの所得を得る方法は様々で、所得の額にもかなりの差異があります。また、公平に対する考え方もそれぞれであり、そのよう中で、どのような制度とするのがより公平な制度と考えられるかについて、現行の制度を学びながら、皆さんと考えていきたいと思えます。</p> <p>授業の方法</p> <p>最初に、所得税法、相続税法、消費税法などの概要を学びます。その後に、各人あるいは各グループが選定したテーマについて、それぞれ報告を行い、その報告をもとに全員で議論をしていきます。それらの成果をもとにゼミ発表資料を作成し、ゼミ発表会に参加することとしています。</p> <p>これまでのゼミ発表のテーマは次のようなものでした。 ギグワーカーの所得税、消費税の軽減税率（「食べ歩きなら8%、ベンチなら10%ややこしい軽減税率」）、「日本人になじみのない税」脂肪税と犬税の紹介、脱税について（「脱税って何だろう？」）、ふるさと納税について</p> <p>共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	○	○			
ゼミ教員担当科目	税法A・B、税理士・税法（応用）		関係する科目	簿記会計の関する科目および法律学に関する科目（簿記又は民法の知識があると税法を理解しやすいという意味です。）			
テキスト	『プレップ租税法[第4版]』佐藤英明著 弘文堂（2021年）						
参考書	テーマにより異なるので、演習の中で適宜指示します。						
成績評価方法	ゼミで扱った税法に関する知識の習得度合い、ゼミ発表会へ向けての各自の努力、また、ゼミ部内での貢献度、積極性、出席状況などを総合的に勘案して評価します。ゼミナール活動を無断欠席した場合には単位を与えません。						
年間授業計画	(春学期) 下記1～3の順で演習を進めていきます。 1 税法全般の基礎的事項の習得 2 ゼミ発表会に向けた資料の収集と報告 3 ゼミ発表会での報告の方向性の決定			(秋学期) 下記1～3の順で演習を進めていきます。 1 ゼミ発表会に向けての報告の作成 2 ゼミ発表会 3 各人の興味のある分野の研究・発表			

ゼミ名	住倉第二ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《会計コース》	募集学年	0名	担当教員	住倉 毅宏
選考方法	—						
研究テーマ	税法の専門的研究—卒業論文の作成に向けて—						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>研究の内容</p> <p>第二ゼミナールは4年生のみを対象とします。第二ゼミは第一ゼミでの税法の基礎的研究を踏まえて、判例等の研究を中心に、税法全般に関する専門的研究を行い、そして、卒業論文の作成に向けて、各税法の個別的研究に進みます。具体的には、各ゼミ生は、これまでの税法の学習の中で特に関心の持ったテーマを卒業論文のテーマとして決定します。</p> <p>授業の方法</p> <p>卒業論文作成にあたり、重要なことは、論文の構成です。いかに論理的であり、わかりやすい構成にするか、各ゼミ生と十分に検討を重ねていきます。税法の研究のテーマは、主に判例の研究となります。多くの判例の中からその論文に必要な判例を選び十分にその内容を研究していきます。そして、最終的には各ゼミ生自身が大学生活の集大成として、十分に納得のいく卒業論文が作成できたという自信と満足感を持ってもらえることを目指します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	○	○			
担当科目	税法A・B、税理士・税法(応用)		関係科目	簿記会計に関する科目および法律学に関する科目(簿記又は民法の知識があると税法を理解しやすいという意味です。)			
テキスト	各自のテーマにより異なるので、演習の中で適宜指示します。						
参考書	金子宏著「租税法(第24版)」(弘文堂) 中里実他著「租税判例百選(第7版)」(有斐閣)						
成績評価方法	各自の卒業論文作成へ向けての努力の積み重ね、また、ゼミ部内での積極的貢献度、そして、卒業論文の完成度等を総合的に勘案して評価します。ゼミナール活動を無断欠席した場合には単位を与えません。						
年間授業計画	(春学期)			(秋学期)			
	下記1～3の順で演習を進めていきます。 1 税法全般の専門的研究(判例等の研究) 2 卒業論文テーマの指導、決定 3 論文構成の指導、検討			下記1～3の順で演習を進めていきます。 1 卒業論文初稿作成の指導 2 卒業論文内容の個別項目指導 3 卒業論文の完成、発表会の実施			

ゼミ名	成田第一ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《会計コース》	募集学年	2年生 10～15名 3年生 0名	担当教員	成田 博
選考方法	面接						
研究テーマ	管理会計・会計情報システム						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 企業会計の中でも、会計情報を経営管理に役立てることを目的とする管理会計領域について、特に情報システムの視点から研究し、それを理解・実践できるようになることを目標とする。</p> <p>【ゼミナールの概要】 ゼミナールのテーマ、目標との関係から、会計のほかに経営管理、コンピュータなど企業活動に関連する幅広い領域を学ぶことが必要となる。当然、簿記や原価計算などの知識を前提とするものであるため、初年度においてはそれらの習得を含む会計学の基礎を中心に学ぶ。2年次でもゼミ発表会に参加するが、とくに3年次には2年生と協力して管理会計の各論を対象として研究し、その研究成果をゼミ発表会で報告する。4年次では関心のあるテーマを選択し、研究し、卒業論文を作成する。 税理士資格取得希望の学生にとっても、税理士試験に直接的に関連するテーマではないが、企業のコンサルティング業務も担う税理士にとっては必要不可欠な学習分野である。 各人または各グループに対して事前にテーマを割り当て、その発表にもとづいて全員で議論するという形式で進めるが、発表担当者だけでなく、全員が各回のテーマについて事前に学んでおくことが要求される。サブゼミや合宿を実施するなど、学生諸君が積極的に楽しんで学ぶことのできるゼミナールとしたい。 各自の将来の目標設定、その目標達成へ向けての計画立案、具体的な活動など、学生諸君の大学生活がより充実したものとなるように、学問分野だけでなく、他の分野も含めた良きアドバイザーとしてサポートしていきたいと考えている。</p> <p>【授業の方法】 グループワークによる調査・研究を進め、報告、意見交換、討論を学生中心に進め、適宜、助言・指導する方法による。</p> <p>共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	○	◎	○	○	
担当科目	コンピュータ会計、原価計算論 会計情報システム論	関係科目	コンピュータ会計、原価計算論 管理会計論、会計情報システム論				
テキスト	演習の中で適宜指示する。						
参考書	必要に応じて紹介する。						
成績評価方法	このゼミナールは、学問的知識を深めることだけでなく、分析力、創造力、表現力などを培い、あわせてゼミナールの活動を通して自主性、社会性、協調性など、豊かな人間性を培うことも目的として考えている。何より欠席しないことが最低条件であり、学生諸君それぞれの、サブゼミ、合宿(春休み、夏休み期間中に実施)、コンパなどゼミナールに関連するすべての活動に対する参加の程度およびその姿勢を評価の対象とする。したがって、アルバイト優先の学生さんをご遠慮ください。						
年間授業計画	(春学期) 履修は新年度4月からではあるが、実質的活動は2月もしくは3月実施予定のゼミ合宿からスタートする。4月からの正規の授業では簿記・原価計算の知識を含む会計学の基礎的文獻を学び、それ以外にサブゼミも実施する。2、3年生混成の班ごとに、テーマを決めて研究を深めていく。2年生は学園祭にゼミとして模擬店を出店し、企業活動と会計との関係を体験学習することも考えている。	(秋学期) 2年生は学園祭での模擬店による体験学習を考えており、それとともに、各班において3年生とともにテーマ研究を深めていく。 3年生は、2年生の高千穂祭イベントをサポートするとともに、選択したテーマについて専門的研究を深めて、ゼミ発表会での報告も含めて、班の研究活動の成果をまとめる中心的な役割を担う。班ごとに2、3年生が協力し研究することとなる。					

ゼミ名	成田第二ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《会計コース》	募集学年	4年生 0名	担当教員	成田 博
選考方法	—						
研究テーマ	管理会計・会計情報システム						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 企業会計の中でも、会計情報を経営管理に役立てることを目的とする管理会計領域について、特に情報システムの視点から研究し、高度な知識を獲得し、それを実社会において実践できる能力を身に付けることを目標とする。</p> <p>【ゼミナールの概要】 2年次、3年次で修得した会計および情報技術に関する知識を前提として、管理会計領域の各論を研究し、その成果を卒業論文としてまとめることとなる。3年次の研究したテーマの中から関心のあるテーマを選択し、研究し、卒業論文を作成する。卒業論文については、進捗度に応じて報告する機会を設け、それぞれのテーマや関連項目を対象として積極的な意見交換、議論の場を設定する予定である。 学生諸君が積極的に参画する実りあるゼミナールとしたい。 各自の将来の目標設定、その目標達成へ向けての計画立案、具体的な活動など、学生諸君の大学生活がより充実したものとなるように、学問分野だけでなく、他の分野も含めた良きアドバイザーとしてサポートしていきたいと考えている。</p> <p>【授業の方法】 各人のテーマを対象に調査・研究を進め、報告、意見交換、討論を学生中心に進め、適宜、助言・指導する方法による。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	○	◎	○	○	
担当科目	コンピュータ会計, 原価計算論 会計情報システム論	関係する科目	コンピュータ会計, 原価計算論 管理会計論, 会計情報システム論				
テキスト	演習の中で適宜指示する。						
参考書	必要に応じて紹介する。						
成績評価方法	このゼミナールは、学問的知識を深めることだけではなく、分析力、創造力、表現力などを培い、あわせてゼミナールの活動を通して自主性、社会性、協調性など、豊かな人間性を培うことも目的として考えている。欠席しないことが最低条件であり、学生諸君それぞれの、サブゼミ、合宿、コンパなどゼミナールに関連するすべての活動に対する参加の程度およびその姿勢を評価の対象とする。						
年間授業計画	(春学期) 4年生は、2年生、3年生への指導・助言をおこなうとともに、各自の卒業論文完成へ向けての研究を進める。4年生は就職活動も実施無ければならないため、授業時間以外での個別指導でも対応していく予定である。			(秋学期) 4年生は、数回の中間報告を実施したうえで卒業論文を完成させる。			

ゼミ名	西山第一ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《会計コース》	募集学年	新2年生 15名	担当教員	西山 徹二
選考方法	エントリーシートおよび面接試験						
研究テーマ	財務会計論の基礎						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>〈研究の内容〉 財務会計論とは、企業が外部の利害関係者に対して会計情報を提供するために作成する財務諸表について研究する学問領域です。この財務会計論を理解するためには、簿記・会計に関する知識だけでなく、経済や企業に関するさまざまな知識が必要となります。そこで西山第一ゼミナールでは、財務会計の基礎を理解するために、まず会計や関連する分野に関するさまざまな知識を得ることを目的とします。また、秋に開催されるゼミナール発表会で財務会計論に関する発表を行うため、具体的な事例を研究します。</p> <p>〈学習方法〉 西山第一ゼミナールでの学習は、自分で「調べる」・「考える」・「発表する」ことが中心になります。通常の授業の様に担当教員がすべて教えるのではなく、個人やグループで調べることを重視します。グループでの作業が多くなりますので、協調性が求められます。また、正規のゼミの時間外に簿記の学習を行い、全員が日商簿記検定2級以上に合格することを目指します。</p> <p>〈授業の方法〉 ゼミナール活動では、テーマを設定し、それについて調査・検討し、プレゼンテーションを行うことが中心となります。</p> <p>共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	○		◎	○		
担当科目	会計学総論・財務会計論		関係科目	簿記Ⅰ/Ⅱ 高等簿記Ⅰ/Ⅱ 会計学総論 財務会計論 国際会計論 会計史 税理士簿記論基礎/応用 税理士財務諸表論基礎/応用			
テキスト	開講時に指示します。						
参考書	開講時に指示します。						
成績評価方法	すべてのゼミナール活動(合宿・コンパ等も含む)への参加態度で評価します。 ゼミナール活動を無断欠席した場合には単位を与えません。						
年間授業計画	(春学期) 3月 春合宿 4~6月 班別活動 7月 ゼミ発表準備 9月 夏合宿(ゼミ発表準備)			(秋学期) 10~11月 班別活動 12~1月 日商簿記検定対策			

ゼミ名	西山第二ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《会計コース》	募集学年	募集なし	担当教員	西山 徹二
選考方法	—						
研究テーマ	財務会計論						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>本ゼミナールでは、財務会計論をより実践的に研究して行くことを目標としています。そのため、3年次では、財務会計の制度を中心に学習し、その成果を発表するために本学のゼミ発表会に参加する予定です。4年次は、各自テーマを設定して卒業論文の作成を行うため、ゼミナールでは論文指導を中心に行う予定です。</p> <p>〈授業の方法〉 ゼミナール活動では、テーマを設定し、それについて調査・検討し、プレゼンテーションを行うことが中心となります。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	○		○			
担当科目	会計学総論・財務会計論	関係科目	簿記Ⅰ/Ⅱ 高等簿記Ⅰ/Ⅱ 会計学総論 財務会計論 国際会計論 会計史 税理士簿記論基礎/応用 税理士財務諸表論基礎/応用				
テキスト	開講時に指示します。						
参考書	開講時に指示します。						
成績評価方法	すべてのゼミナール活動(合宿・コンパ等も含む)への参加態度で評価します。 ゼミナール活動を無断欠席した場合には単位を与えません。						
年間授業計画	(春学期) ①研究の題材となる事例を決定し、調査・研究を行います。 ②3年生は、ゼミ発表会に向けて準備を行います。 ③4年生は、卒業論文を作成します。			(秋学期) ①3年生は、ゼミ発表会に向けて準備を行います。 ②4年生は、卒業論文を作成します。			

ゼミ名	榎谷第一ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《会計コース》	募集学年	新2年生 9名 新3年生 0名	担当教員	榎谷奎太
選考方法	エントリーシートと面接						
研究テーマ	企業経営と会計						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【目標】 本ゼミの目標は、次の3点にある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業行動を分析・理解するために、基礎的な会計知識を習得する 2. 問題設定、文献調査、分析などに関するリサーチ・マインドを習得する 3. 情報を分かりやすく、面白く伝える技術を習得する <p>【方法】 上記3点の目標達成に向け、次の方法でゼミを進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個人あるいはグループ単位で設定した研究テーマに関する自主的な研究活動 2. ゼミ開講時間における進捗報告（パワーポイント資料の作成とそれに基づく報告） 3. 研究内容や発表の作法などについての教員・ゼミ生からのフィードバック <p>学内のゼミ発表会や他大学との合同ゼミ発表会をゴールとし、この3点を繰り返しおこなう。</p> <p>【概要（特徴）】 本ゼミの特徴は、次の2点に集約される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発表機会・コメントを得る機会の多さ（少人数で開講するため） 2. 研究テーマの多様性（会計学にとられない学際的なテーマ設定） <p>本ゼミでの研究活動はそれなりに負荷がかかる。よって、ゼミ活動に意欲的な学生には良い場と考えている（逆に言えば、そうでない学生には向かない）。</p> <p>共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨する。また、受験結果に基づいた面談を実施する。</p>						
⑧到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	
ゼミ教員 担当科目	管理会計論, 工業簿記, 簿記		関係する 科目	管理会計論, 原価計算論など			
テキスト	適宜紹介する。						
参考書	適宜紹介する。						
成績評価方法	出席状況やゼミへの貢献度（研究活動に対する姿勢、発言など）を総合的に考慮し評価する。 無断での遅刻や欠席は認めない。						
年間授業計画	(春学期) 個人研究 グループ研究テーマの決定・グループ分け 研究の進捗発表、ディスカッション			(秋学期) 研究の進捗発表、ディスカッション 最終発表（学内ゼミ発表会、他大学との合同ゼミ発表会）			

ゼミ名	榎谷第二ゼミナール (Seminar)	学部	商学部《会計コース》	募集学年	募集なし	担当教員	榎谷奎太
選考方法	—						
研究テーマ	企業経営と会計						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【目標】 榎谷第一ゼミナールでの活動・学びを基礎とし、卒業論文を完成させることを目標とする。卒業論文のテーマは、経営学や会計学に関連したものとする。</p> <p>【方法】 卒業論文作成に向け、優れた研究論文の要件と進捗報告における資料作成のフォーマットを伝える。これらを基礎とし、次の手順で進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画を作成しプレゼンテーションをおこなう 2. 教員や他のゼミ生からフィードバックをもらい、内容を修正する。研究活動を自主的に進める 3. こうした過程を繰り返すことで内容を洗練し、最終的に卒業論文としてまとめる 						
⑧到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要／○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	○	○	◎	
ゼミ担当科目	管理会計論, 工業簿記, 簿記			関係する科目	管理会計論, 原価計算論など		
テキスト	適宜紹介する。						
参考書	適宜紹介する。						
成績評価方法	出席状況やゼミへの貢献度（研究活動に対する姿勢、発言など）を総合的に考慮し評価する。無断での遅刻や欠席は認めない。						
年間授業計画	(春学期) 卒業論文テーマの決定、卒業論文研究進捗発表			(秋学期) 卒業論文研究進捗発表、卒業論文の作成			

ゼミ名	瀧口ゼミナール (Seminar)	学部	商学部	募集学年	新2年生 6名 新3年生 0名	担当教員	瀧口 晴美
選考方法	志望理由書 (A4用紙1枚程度にまとめたもの) の提出と面接 面接とあわせて、英語力を測るミニテストを受験していただきます。						
研究テーマ	Media English - 英語メディアをとおして、世界のいまを知ろう -						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【目標】 本ゼミナールでは、本学の教育理念のひとつである「平和的国際人」になることを目指し、複雑な国際情勢に対処できる英語能力と多角的視点から物事を理解できる幅広い教養を身につけます。</p> <p>【概要】 本ゼミナールでは、高等学校までに学んだ英語を基礎として、映画・テレビ番組・新聞・雑誌などで見聞きする英語メディアを教材として用い、英語の4技能(読む・書く・聴く・話す)の向上を図るとともに、世界の社会問題や文化について調べたり、まとめたりした後、プレゼンテーション及びディスカッションを行います。日常的に英語メディア(TED Talks、ニュース、新聞、雑誌、洋楽、映画など)に触れ、実際に使われている英語表現を理解し、総合的な英語力向上を目指します。</p> <p>また、本ゼミナールでは、英検やTOEICの受験対策も行います。グローバル社会に対応できる英語力の獲得を目指し、TOEIC 650点以上の取得、ならびに英検などの資格取得にも挑戦します。</p> <p>英語が好きな方、英語に苦手意識があるけれども英語力を高めたい方、就職活動で英語力をアピールしたい方等、とにかく真面目に前向きに英語学習に取り組める方への入ゼミをお待ちしています。</p> <p>*TOEIC-IP 685点取得、英検合格など目標を達成した先輩もいます!</p> <p>【授業の方法】 英語メディア(TED Talks、ニュース、新聞、雑誌、洋楽、映画など)をとおして、社会問題に接しながら、自ら情報収集して考察を行います。そして、英語で自分の考えをまとめて、発表を行います。発表をもとにディスカッションを行う等、アクティブ・ラーニングを取り入れたゼミを実施します。ひたむきに英語学習に取り組むことを期待します。</p> <p>*共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	◎	◎	◎	○	
担当科目	英語 I / 英語 II、基礎英語	関係する科目	英語に関連する科目、その他教養科目				
テキスト	TEX 加藤(2017)「TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ (TOEIC TEST 特急シリーズ)」朝日新聞社						
参考書	開講時に指示します。						
成績評価方法	①原則、授業に3分の2以上出席することを成績評価の対象とします。 ②授業への貢献度(出席、ディスカッション、グループワークへの取り組み姿勢) ③プレゼンテーション&課題提出 ④TOEICスコア&英検受験						
年間授業計画	(春学期) オリエンテーション 英語メディアを使ったディスカッション リサーチワークショップ(資料収集・文献調査) プレゼンテーション 英検・TOEIC対策(語彙、Listening, Reading)※ ※学期中にTOEICを受験することを必須とします。			(秋学期) 春学期の振り返り 英語メディアを使ったディスカッション リサーチワークショップ(資料収集・文献調査) プレゼンテーション 英検・TOEIC対策(語彙、Listening, Reading)※ ※学期中にTOEICを受験することを必須とします。			

ゼミ名	寺内ゼミナール (Seminar)	学部	商学部	募集学年	新2年生 5名 新3年生 3名	担当教員	寺内 一
選考方法	面接						
研究テーマ	ビジネス英語の習得とその実践						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【目標】ビジネスのグローバル化に伴い、アメリカやイギリスといった英語圏の出身者だけではなく、日本人はもちろん、中国、韓国などの英語を母語としない人が英語を使用するようになってきています。特に、アジア圏ではこの英語を使用してビジネスをする人のほうが多くなってきているという報告もあります。本ゼミナールでは、グローバル化した時代に対応できるビジネス英語に関する研究を行っていきながら、ビジネス英語そのものの習得も目指していきます。そして、そのグローバル化したビジネス英語を実際に使用してみる場を数多く体験していくことになります。</p> <p>【概要】グローバル化したビジネスの世界において、英語は非常に重要なものです。そして、その英語はコミュニケーションをとるための道具として使用されています。ビジネス英語そのものを理解することはもちろんですが、グローバル社会の中でビジネス英語を実際に使用してみることで、その実践的な使用方法を確認していくことになります。</p> <p>【学習方法】ビジネス英語の教科書（『ビジネスキャッツ』（南雲堂））はもちろん、参考書、インターネット等さまざまな情報機器を使用しながら各自で学習を行います。学習した内容は定期的に TOEIC などの外部試験を受験して、その英語学習の到達状況を把握していきます。また、授業中には、法文化やビジネス英語に関連する課題の探求を進め、ゼミ内でのプレゼンテーションやレポートの提出をしてもらいます。連絡は原則としてメールやラインを利用します。発表者が一方的に話すだけでなく、発表者に対する質問や意見交換を含めて、お互いの議論を積極的に発信していきます。さらに、教室内の学習だけではなく、国内外のボランティアへの積極的な参加を奨励するとともに、夏と春のゼミ合宿はもちろん、実際に英語をビジネスで使用している現場での調査をはじめ、外部英語関連組織との協働も行なっていきます。</p> <p>【アドバイザー制度】将来の進路を含めてさまざまな問題に対し、アドバイザーとしてゼミ生に対応していきます。グローバルビジネスにおいて英語の役割はいったい何なのでしょう。その役割を理解したうえで、ビジネス英語がどのように使われているのかを実体験する際にも、アドバイザーとしてひとり一人の学習過程を確認しながら適宜指導していきます。</p> <p>共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	① コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	○	◎	○	◎	
担当ゼミ教員	法文化論A・B ビジネス英語	関係する科目	英語 I・II ビジネス英語 マーケティング論A・マーケティング論B 法文化論A・B 外国史(古代・中世)・外国史(近代・現代)				
テキスト	『ビジネスキャッツ』（南雲堂）						
参考書	新学期開始時に指示します。						
成績評価方法	2年次：授業参加・レポート・発表 3年次：授業参加・レポート・発表（ゼミ発表会（予定）） 4年次：卒論制作過程時に数度の発表・卒業論文 以上を総合して評価します。						
開授業計画	2年時の年間スケジュールは以下のようになります。 春学期：オリエンテーション・TOEIC 受験 共通テーマの学習とリサーチの開始 春学期プレゼンテーション 夏季休暇：合宿（京都等）			秋学期：個人学習 秋学期プレゼンテーション 秋学期レポートの作成 冬季休暇：TOEIC 受験 新年会：ゼミナールOB会（1月の第2土曜日） 春季休暇：合宿（場所未定）			

ゼミ名	似鳥第一ゼミナール (Seminar)	学部	商学部		募集学年	新2年生 約10名 新3年生 若干名	担当教員	似鳥 雄一
選考方法	面接							
研究テーマ	日本史							
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【目標・概要】</p> <p>本ゼミは、暗記に明け暮れる日本史から一歩も二歩も踏み出して、学問としての日本史に取り組むゼミです。歴史学とは、つきつめていけば、時間の経過とともに変わったことと変わらないことを見極める学問です。歴史を考えることは、時間（や空間）を飛びこえて物事を考えることでもあります。</p> <p>そのために必要となるのは「史料」です。史料とは、読んで字のごとく、歴史を考えるための材料となるものです。例えば、手紙や日記、法令や公文書、新聞や写真、文学作品や絵画作品、言い伝えや習わし、建造物やその遺構、武器や防具、生活用品や果ては廃棄物まで、過去の人間が残したいろいろなものが史料になりえます。皆さんが高校の授業で使ってきた教科書も、全て何らかの史料にもとづいて、歴史を再現・構築したものであるはずで</p> <p>本ゼミの目標は、史料という根拠をもとに歴史を考え、議論できるようになることです。具体的には卒業論文の執筆を目指します。卒業論文の目的は、歴史のなかでまだみつかっていない何かを、新たに発見することです。例えば、ある事実でも、事実に対する解釈でも、それらを踏まえた評価でも構いません。ささいな発見でよいのです。</p> <p>ただし、「発見」を主張するためにはそれ相応の、学術的な作法が必要となるので、本ゼミではそれらを身につけるためのトレーニングをしてもらいます。そこで身につくであろう「読む」「調べる」「書く」「伝える」といった基礎的な技術は、皆さんが社会人になってからも必ず生きてくるものです。</p> <p>本ゼミで取り扱う時代やテーマは、受講生との対話のなかで決定していきます。政治・経済・社会・文化など、史料さえあれば、何でもテーマになりえます。実現の可能性を考えながら絞っていきましょう。特に要望がなければ、担当教員が専門としている中世（11世紀末～16世紀末）を題材としてもよいでしょう。</p> <p>【方法】</p> <p>最初は、歴史学の基礎について多少の講義を行います。次に、一般向けの文献（新書・文庫など）を受講生全員で少しずつ分担しながら読んでいきます。担当者は内容の要約などをし、全員で意見を交換します。その後、テーマの決定に向けて準備を進めていきます。テーマを全員で共有するか、各人別々とするか、グループ分けをするかは、受講生の要望と人数をみて決めます。基本的に教員はアシストするだけです。皆さんの「やる気」次第です。共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>							
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要／○重要)							
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力			
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任	
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○		
担当科目	日本史(古代・中世・近世)、 日本史(近代・現代)			関係科目	全てのものごとに歴史があり、歴史学の対象になりえるので、全ての科目・・・といたいところですが、まずは人文・社会系の基礎的な科目を。			
テキスト	授業のなかで文献の候補を提示し、選択する予定。							
参考書	必要に応じて提示します。							
成績評価方法	授業への出席、報告の内容、討論への参加などから、総合的に評価します。							
年間授業計画	(春学期) ・ガイダンス、自己紹介 ・テキストと分担の決定 ・講義・・・歴史学の基礎／卒業論文への道筋 ・文献講読 ・テーマ(仮)の検討 ※(必要と希望に応じて)史跡見学や合宿を実施			(秋学期) ・文献講読 ※(必要と希望に応じて)史料講読 ・調査報告・研究発表 ・テーマの決定				

ゼミ名	似鳥第二ゼミナール (Seminar)	学部	商学部		募集学年	募集なし	担当教員	似鳥 雄一
選考方法	—							
研究テーマ	日本史							
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【目標・概要】</p> <p>本ゼミは、暗記に明け暮れる日本史から一歩も二歩も踏み出して、学問としての日本史に取り組むゼミです。歴史学とは、つきつめていけば、時間の経過とともに変わったことと変わらないことを見極める学問です。歴史を考えることは、時間（や空間）を飛びこえて物事を考えることでもあります。</p> <p>そのために必要となるのは「史料」です。史料とは、読んで字のごとく、歴史を考えるための材料となるものです。例えば、手紙や日記、法令や公文書、新聞や写真、文学作品や絵画作品、言い伝えや習わし、建造物やその遺構、武器や防具、生活用品や果ては廃棄物まで、過去の人間が残したいろいろなものが史料になりえます。皆さんが高校の授業で使ってきた教科書も、全て何らかの史料にもとづいて、歴史を再現・構築したものであるはずで</p> <p>本ゼミの目標は、史料という根拠をもとに歴史を考え、議論できるようになることです。具体的には卒業論文の執筆を目指します。卒業論文の目的は、歴史のなかでまだみつかっていない何かを、新たに発見することです。例えば、ある事実でも、事実に対する解釈でも、それらを踏まえた評価でも構いません。ささいな発見でよいのです。</p> <p>ただし、「発見」を主張するためにはそれ相応の、学術的な作法が必要となるので、本ゼミではそれらを身につけるためのトレーニングをしてもらいます。そこで身につくであろう「読む」「調べる」「書く」「伝える」といった基礎的な技術は、皆さんが社会人になってからも必ず生きてくるものです。</p> <p>本ゼミで取り扱う時代やテーマは、受講生との対話のなかで決定していきます。政治・経済・社会・文化など、史料さえあれば、何でもテーマになりえます。実現の可能性を考えながら絞っていきましょう。特に要望がなければ、担当教員が専門としている中世（11世紀末～16世紀末）を題材としてもよいでしょう。</p> <p>【方法】</p> <p>最初は、歴史学の基礎について多少の講義を行います。次に、一般向けの文献（新書・文庫など）を受講生全員で少しずつ分担しながら読んでいきます。担当者は内容の要約などをし、全員で意見を交換します。その後、テーマの決定に向けて準備を進めていきます。テーマを全員で共有するか、各人別々とするか、グループ分けをするかは、受講生の要望と人数をみて決めます。基本的に教員はアシストするだけです。皆さんの「やる気」次第です。</p>							
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要／○重要)							
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力			
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任	
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○		
ゼミ担当科目	日本史(古代・中世・近世)、 日本史(近代・現代)		関係科目	全てのものごとに歴史があり、歴史学の対象になりえるので、全ての科目・・・といたいところですが、まずは人文・社会系の基礎的な科目を。				
テキスト	授業のなかで文献の候補を提示し、選択する予定。							
参考書	必要に応じて提示します。							
成績評価方法	卒業論文への取り組みから総合的に評価します。							
年間授業計画	(春学期) ・テーマの決定 ・文献講読 ・調査報告・研究発表 ※(必要と希望に応じて)史跡見学や合宿を実施			(秋学期) ・文献講読 ・調査報告・研究発表 ・卒業論文の執筆				

ゼミ名	山田浩ゼミナール (Seminar)	学部	商学部	募集学年	新2年生 5名 新3年生 若干名	担当教員	山田 浩
選考方法	面接（「なぜ本ゼミナールを志望するのか」を明確に説明すること）						
研究テーマ	グローバル人材に求められる英語とは何か						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 グローバル人材に求められる英語について、多角的な視点から考察し、自らの考えを自分の言葉で表現できるようになることを目標としています。</p> <p>【ゼミナールの概要】 2003年に文部科学省が発表した『英語が使える日本人』の育成のための行動計画を皮切りに、日本の国民に一定の英語力を身につけさせる体制を確立するための計画が進行しています。このような流れの中で、大学の英語教育の目標は、「大学を卒業したら仕事で英語が使える」こととされており、グローバル化した現代で活躍できる人材の育成が期待されています。 本ゼミナールではグローバル人材に求められる英語とは何かを明らかにし、それを身につけるための方法を理論と実践の両方の立場から考察します。各自の関心に合わせて自由にテーマを設定し、議論を通じて自分なりの結論を見出していきます。テーマの例としては、①グローバル人材に必要な資質とは何か、②英語教育の目的・目標、③単語・文法、④教材・教具・タスク、⑤評価方法、⑥他教科との連携、などが挙げられます。 将来、世界に羽ばたき、新たな時代を築く有為な人材になることを志す者はもちろん、そのような人材の育成に関心のある者を歓迎します。</p> <p>【授業の方法】 この授業ではグローバル人材に求められる英語について、自ら課題を発見し、調査や実験を通じて解決策を見出し、他者との対話によって幅広い視点から考察するアクティブラーニングを行います。</p> <p>共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	○	◎	◎	◎	○	
ゼミ科目	英語 I / II、TOEFL 英語、英語科指導法	関係科目	英語 I / II				
テキスト	ゼミの時間中に随時紹介します。						
参考書	ゼミの時間中に随時紹介します。						
成績評価方法	出席、授業への参加態度、課題への取り組みを総合的に考慮して評価します。						
年間授業計画	(春学期)			(秋学期)			
	①グローバル人材育成に関わる論点の整理 ②先行研究に基づいた議論 ③ゼミ発表会の準備			①ゼミ発表会の準備 ②中間発表会 ③ゼミ発表会			

ゼミ名	大芝ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新2年生 5名 新3年生 若干名	担当教員	大芝 周子
選考方法	①レポート(2つ)、②面接、③前年度の成績						
研究テーマ	「弱さを見せ合える組織」のつくりかた						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>大学での学びを通して、皆さんには次のようになってほしいと考えています。</p> <p>◎ 自分に自信を持ち、自分の望む生き方をしてほしい ◎ 多様な人がいる職場や地域で、活躍できるリーダーになってほしい</p> <p>〈本年度のゼミ目標〉</p> <p>①自分の考えや疑問を、口頭または文章(レポート)や発表資料(パワポ等)で伝えられるようになる。 ②社会に対する自分の関心事を明らかにする</p> <p>〈概要・方法〉</p> <p>ゼミでは、経営管理に関するテキスト、本、新聞・経済雑誌の記事の講読が中心となります。経営管理に関して学ぶと共に、レジュメ(報告資料)作成や発表の仕方、自分の意見の伝え方、議論のまとめ方等も習得しましょう。春学期は、そうした練習を丁寧に行っていきます。</p> <p>その上で、秋学期には、もう少し専門的なテキストの輪読を行います。</p> <p>尚、機会があれば、外部講師を招聘する可能性もあります。</p> <p>ゼミ内でのグループ作業、外部講師招聘時にはコーディネートやディスカッション等はゼミ生主体で企画するなど、アクティブ・ラーニングの学習法でゼミを展開します。</p> <p>勉強をしっかりと頑張りたい方と、真剣に学びたいです。この点に共感する方のみ、希望致します。</p> <p>尚、共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	○	◎	◎	◎	◎	
ゼミ担当科目	経営管理論、経営学概論		関係する科目	経営管理論 A/B 経営学関連科目			
テキスト	開講時に指示します。書籍の場合は必ず購入して下さい。新聞記事等の場合は、各自でデータベース等を用い、入手して下さい。						
参考書	適宜、紹介します。						
成績評価方法	ゼミへの参加度 以下が行われた時点で、それ以降のゼミへの参加はお断りします ・3回以上の欠席、自分の報告担当日の欠席 ・度重なる遅刻に対し、注意喚起の上、改善が見られない場合 ・レジュメ作成や課題への取組みが乱雑であり、話し合いを重ねても、改善が見られない場合 ・レポートや作成物で、剽窃(コピー)が判明した場合						
年間授業計画	(春学期) ①「自分で考える」「自分の考えや疑問を述べられるようになる」練習 ② 報告資料を作れるようになる			(秋学期) テキスト輪読を通じて、経営管理論を学ぶ ・前期より専門的なテキストを用い、より高度なレジュメ作成ができるようになる			

ゼミ名	大島第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新2年生 10名 新3年生 若干名	担当教員	大島 久幸
選考方法	エントリーシートと面接						
研究テーマ	ケーススタディ (事例研究)						
ゼミナールの目標と概要	<p>【授業の方法と内容：アクティブラーニング】本ゼミナールでは、毎年、他大学や外部の企業と合同してゼミ活動を進めています。近年実施したゼミの内容は下記の通りです。なお、ゼミは起業・事業承継コース大島ゼミと合同で実施しています。</p> <p>① 日本望遠鏡工業会との合同勉強会 戦後板橋区に集積した双眼鏡産業は戦後を代表する中小企業群として発展し、輸出産業化しました。その後、産地の衰退期を乗り切った中核企業が今も世界的な双眼鏡メーカーとして成長し続けています。本ゼミでは2年間にわたりほぼすべての日本の双眼鏡メーカーの社長へのヒアリングを実施して、一般社団法人日本望遠鏡工業会(会長：木村真琴ニコン相談役)と合同で、東京の地場産業「双眼鏡」に関するシンポジウムを立教大学で開催しました。当日は合同ゼミを実施していた立教大学の岡部ゼミと併せたゼミ生約40人と同工業会の会員企業約50社が参加し、活発な討論が行われました。</p> <p>②帝国データバンク史料館との合同勉強会 本ゼミでは10年以上にわたって企業博物館の一つである帝国データバンク史料館と合同で勉強会を続けています。株式会社帝国データバンクが保有する企業情報データのCOSMOSデータ(全国約145万社の企業情報データベース)を活用させていただき、老舗企業や産地企業の動向などの分析を行っています。その研究成果は大島久幸「老舗に見るファミリービジネス」『アジア研究』18(2019年3月)として発表しました。</p> <p>③他大学との合同勉強会 帝国データバンク史料館との合同勉強会は立教大学経済学部との合同勉強会として開催しました。そのほか、慶應大学経済学部中西聡ゼミ・橋口勝利ゼミ、明治大学経営学部佐々木聡ゼミ、駒澤大学経済学部渡邊恵一ゼミと合同の勉強会を10年以上にわたって開催し、年末には100人を超える学生たちと合同で発表会を実施しました。</p> <p>【その他】ゼミとは、学問・研究と課外活動を通じて人間関係を結ぶ場であると考えています。本ゼミではゼミ生間はもちろん他大学の教員・学生や企業の方々との交流を通じて、自らの成長を実感できるような積極的な参加を期待します。共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎		◎			
ゼミ担当科目	経営史、企業家論	関係する科目	経営史、企業家論、経営学関連科目				
テキスト	課題に応じて、広く収集します。必要な資料をいかに集めるかも重要な学習となります。						
参考書							
成績評価方法	ゼミへの参加度によって総合的に評価します。欠席は認めません。						
年間授業計画	(春学期) ①～②仮テーマの設定 ③ 本年度テーマの設定 ④～⑫インタビューや資料の収集と仮説の設定 ⑬～⑮ 最終的な構成を決定			(秋学期) ①～⑨論文の執筆 ⑩ 成果の報告会の実施 ⑪～⑮ 論文の修正と最終論文の執筆			

ゼミ名	大島第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	募集なし	担当教員	大島 久幸
選考方法	—						
研究テーマ	ケーススタディ (事例研究)						
ゼミナールの目標と概要	<p>【授業の方法と内容：アクティブラーニング】</p> <p>第二ゼミでは第一ゼミでの経験を踏まえ、4年生を対象に卒業論文の執筆に取り掛かります。</p> <p>論文作成に当たっては、業界誌紙、社史、雑誌記事、有価証券報告書等々の様々な資料を収集して自ら設定したテーマについて論理性をオリジナリティの高い論文の作成を目指します。</p> <p>これまでのグループで行う作業から個人で行う作業へとかわることで厳しさが増す反面、達成感も大きくなります。納得できる作品を仕上げられるよう精一杯頑張ってください。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	① コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	○				
ゼミ担当科目	経営史、企業家論	関係する科目	経営史、企業家論、経営学関連科目				
テキスト	課題に応じて、広く収集します。必要な資料をいかに集めるかも重要な学習となります。						
参考書							
成績評価方法	卒業論文の完成度によって総合的に評価します。						
年間授業計画	(春学期) ①～⑮ 仮テーマの設定 →資料の収集 →仮説・章別編成案の作成			(秋学期) ①～⑮ 一次論文の作成→校正の修正 二次論文の作成→修正→完成論文の提出			

ゼミ名	葛西第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新2年生 10名程度 新3年生 募集なし	担当教員	葛西 和恵
選考方法	エントリーシートと面接						
研究テーマ	人材育成とキャリア形成						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>このゼミでは「人材育成とキャリア形成」を主たる研究テーマとしますが、研究領域としてはかなり広いものですので、複数のサブテーマに分割できます。例えば（あくまでも例えばですが）「新規大卒者の採用と定着」「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和・統合）」「生涯現役社会」「グローバル人材」「非正規雇用」「働き方改革」「中小企業の人材育成」「リーダーシップ開発」「モチベーション（動機づけ）」「企業・組織におけるキャリア開発」「キャリアカウンセリング」「働く人のメンタルヘルス（心の健康）」といったサブテーマに分割することができます。ゼミ生の興味・関心・問題意識等を擦り合せながら柔軟なサブテーマの設定を行います。</p> <p>大学時代に「これをやった！」と言える専門的な研究を行うこと、あるいは、あるテーマを「深く掘り下げて研究」することを意識してゼミを運営します。そのことから「情報収集力」や「ものごとを論理的に考えまとめる力」をはじめとした「総合的な研究能力」を身につけると同時に、人前でプレゼンテーションする力、討議の場で自分の意見を伝える力、討議の進行方法やリーダーシップの取り方などを習得することを目標とします。</p> <p>具体的には、2年生の学年末には自分の研究テーマの方向性を定め、先行研究のまとめをメインテーマとした「ミニ論文」を執筆します。また、3年生では、調査・研究するための基礎的手法（量的調査：アンケートやデータ分析、質的調査：観察やインタビュー）を学びます。自分の研究テーマに関する調査を企画・設計、試し調査を実施し、結果を取りまとめて「ミニ論文」を執筆し、4年生で行う本調査に備えます。</p> <p>自分が興味・関心・問題意識を持つテーマを追求し、主体的に自ら学び研究していく姿勢を大切に、達成感を得ることを通して自信をつけて欲しいと願っています。</p> <p>【授業の方法】</p> <p>個人で作成したレポートや、グループ活動による研究発表などを行います。発表、意見交換や討議などは学生中心に進めてアクティブラーニングを促進しますので、積極的な姿勢を持ち、主体的に参加することを求めます。必要に応じて外部のゲスト講師を招いたり、企業訪問などを行います。</p> <p>共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面接を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 （◎特に重要／○重要）						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	○	◎	◎	○	
担当科目	キャリアデザイン論 A/B キャリアデザイン論、キャリア心理学		関係する科目	キャリアデザイン論、キャリア心理学、経営組織論、経営労務論、経営心理学、青年心理学など			
テキスト	開講時にお知らせし、購入していただきます。						
参考書	授業時に適宜配布、あるいは購入していただきます。						
成績評価方法	出席、発表、ゼミ活動への参加・貢献、ミニ論文の執筆プロセスと内容を重視し、総合的に評価します。						
年間授業計画	(春学期) ①～⑭ テキスト等の輪読 研究テーマの検討と資料の収集 文献研究、研究発表 調査・研究の計画立案 ゼミナール発表会の準備など ⑮ 春学期の振り返り、夏休みの課題など			(秋学期) ①～⑭ ゼミナール発表会の準備 研究テーマの検討と資料の収集 文献研究（先行研究精読） 調査・研究の計画立案 ミニ論文の執筆・提出など ⑮ 秋学期の振り返り、春休みの課題など			

ゼミ名	葛西第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	募集なし	担当教員	葛西 和恵
選考方法	—						
研究テーマ	人材育成とキャリア形成						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>第一ゼミナールでの学習を踏まえて、各自が興味・関心・問題意識を持ったテーマを特定・研究し、卒業論文を完成させます。</p> <p>大学時代に「これやった！」と言える専門的な研究を行うこと、あるいは、あるテーマを「深く掘り下げて研究」することを意識してゼミを運営します。そのことから「情報収集力」や「ものごとを論理的に考えまとめる力」をはじめとした「総合的な研究能力」を身につけると同時に、人前でプレゼンテーションする力、討議の場で自分の意見を伝える力、討議の進行方法やリーダーシップの取り方などを習得することを目標とします。</p> <p>自分が興味・関心・問題意識を持つテーマを追求し、主体的に自ら学び研究していく姿勢を大切に、達成感を得ることを通して自信をつけて欲しいと願っています。</p> <p>【授業の方法】</p> <p>教室でのグループ指導、または個別指導を行います。必要に応じて企業などへのインタビュー調査や、アンケート調査などを行います。アクティブラーニングを促進しますので、自ら「問い」を立て、深く追求していく主体性と行動力を期待します。必要に応じて外部のゲスト講師を招いたり、企業訪問などを行います。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要／○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
ゼミ教員 担当科目	キャリアデザイン論 A/B キャリアデザイン論、キャリア心理学		関係する 科目	キャリアデザイン論、キャリア心理学、経営組織論、経営労務論、経営心理学、青年心理学など			
テキスト	各人の研究テーマに沿って指示します。						
参考書	その都度お知らせします。						
成績評価方法	卒業論文の執筆プロセスと内容を重視しますが、ゼミ活動への参加・貢献も加味し、総合的に評価します。						
年間授業計画	(春学期) ①～⑭ 研究テーマの検討と資料の収集 文献研究（先行研究精読） 仮説を立てる 調査・研究の計画立案 論文の章立て案作成など ⑮ 春学期の振り返り、夏休みの課題など			(秋学期) ①～⑭ 卒業論文の初稿執筆と修正、中間発表 卒業論文の第二稿執筆と修正、最終発表 完成論文の提出 ⑮ 秋学期の振り返り			

ゼミ名	木佐森第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新2年生 3~12名 新3年生 0名	担当教員	木佐森 健司	
選考方法	面接他							
研究テーマ	企業の成長と経営組織 (個人・グループ研究)							
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 企業を成長させ、その成長を維持する秘訣を、主として経営組織の側面から解明します。</p> <p>【概要】 会社を設立することそのものは、様々な規制緩和を通じて容易になってきました。しかし、設立した会社を成長させ、その成長を維持することの難しさは、未だ変わりありません。中小企業庁が行った2016年時点の調査では、企業全体に占める中小企業・小規模事業者の割合は99.7%であることが明らかになっています。大企業は、わずか0.3%です。ただし、大企業の多くもまた、設立当初は中小企業・小規模事業者であったことを考えると、現存する企業のわずか0.3%のみが、極めて狭い門を潜り抜け、企業を大きく成長させ、その成長を維持し続けているともいえます。では、かつての中小企業・小規模事業者であった現在の大企業は、あるいはその経営者は、どのようにして企業を成長させ、その成長を維持し続けてきているのでしょうか。 この問題の解明に、当ゼミは主に経営組織の側面から、関連領域へ目配りをしつつ挑みます。この問題を、私たちと一緒に考え、調査し、新たな知見を獲得したい学生さん、ぜひ当ゼミへご参加ください。</p> <p>【授業の方法】 アクティブ・ラーニングの方法を取り入れ実施します。外部講師を招聘する場合があります。共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p> <p>【注意事項】 ノートパソコンおよび Teams を利用します。ノートパソコンの新規購入等は不要ですが、ゼミ前に大学のノートパソコンを借りておく等の準備が求められます。Teams 上の情報をゼミ以外の目的で利用することを禁じます。ゼミ報告会参加を前提とするため、2年生、3年生ともゼミ連関連の活動(連絡員等としての会議等出席・ゼミ報告会当日の報告補助等)へ日程調整し分担参加することがゼミ参加の条件です。本活動は成績評価の対象です。</p>							
	到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
		(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
			①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
ゼミ担当科目	経営組織論,経営学概論,はじめての経営学		関係する科目	はじめての経営学 経営学概論 A/B 経営組織論 A/B				
テキスト	経営組織論関連の文献を輪読します。文献は、必要に応じその都度紹介します。各自で入手してください。							
参考書	必要に応じてその都度紹介します。前年度までの実績を踏まえると、上記のテキストに加え、調査で必要となる参考書の入手、複写費用として、年間でおおむね10,000円~20,000円程度の予算が必要になると思われます。							
成績評価方法	出席中の状況、報告やレポートをはじめとするゼミでの研究成果、対話・議論における貢献(フリーライド厳禁)等を総合的に評価します。研究は個人で行うと同時に、ゼミでの議論や他のゼミ生・教員からのフィードバックを通じて行います。従いまして、報告割当回でなくとも、ゼミへ参加し、他の学生の報告を聴き、積極的に議論へ加わることが求められます。報告資料の事前提出等の準備、共同報告者との調整、報告実施、課題提出等も極めて重要です。							
年間授業計画	(春学期)			(秋学期)				
	2年生は経営組織論に関する文献の輪読を行います。3年生は前年度の理論的検討をふまえた事例研究を実施します。グループ研究・ゼミ報告会での報告を希望する学生は、課題の提出状況等をふまえて可否を検討し、個人、またはグループにて研究を実施します。合宿・サブゼミ等は実施しません。			合宿・サブゼミ等は実施しません。2年生は、次年度に行う企業研究の予備調査を行います。3年生は、春学期の調査結果を論文としてまとめた後、卒業論文執筆に備え先行研究の検討等を行い、研究計画書を作成し適宜中間報告を実施します。ゼミ報告会へ参加する場合は、3年生・2年生合同で先行演習を行います。計画等は、状況に応じ変更する場合があります。				

ゼミ名	木佐森第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新4年生 0名	担当教員	木佐森 健司
選考方法	募集無し						
研究テーマ	企業の成長と経営組織 (個人研究)						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 企業を成長させ、その成長を維持する秘訣を、主として経営組織の側面から解明します。</p> <p>【概要】 上記のテーマについて個人研究を行い、卒業論文を執筆します。テーマは、第一ゼミナール、2年次の理論的検討、3年次の事例調査をふまえ、その延長上にあることが原則です。 (参考情報) 第一ゼミナールでは、2022年度は理論的検討として『組織は戦略に従う』の部分的な輪読を行いました。2023年度は同書をふまえた「セブン&アイ・ホールディングス」の調査を実施中です。また、本年度は追加的な理論的検討として『経営戦略と組織デザイン』の部分的な精読を予定しています。次年度以後も、理論文献は基本として踏襲する予定です。2024年度の実例調査は、自動車産業を第一候補として、対象企業を選定中です。</p> <p>【授業の方法】 アクティブ・ラーニングの方法を取り入れつつ、個人で研究を行います。外部講師を招聘する場合があります。原則として、ゼミナールⅡ・Ⅲの研究で検討した理論をもとに、新たな企業を対象とした調査を個人で行います。適宜、中間報告を行い、研究成果を卒業論文としてとりまとめます。就職活動等が理由であっても、ゼミナールの性質上、欠席に関する補習等の要請に応じることはできません。自らの報告機会のみ出席し、他の学生の報告において、予習を怠り、真剣に聴講せず、議論・対話へ参加しない等のフリーライドは固く禁じます。グループでの卒業論文執筆は認めません。随時行われる中間報告での報告・課題提出が、卒業論文評価の前提条件です。</p> <p>【注意事項】 ノートパソコンおよび Teams を利用します。ノートパソコンの新規購入等は不要ですが、ゼミ前に大学のノートパソコンを借りておく等の準備が求められます。Teams 上の情報をゼミ以外の目的で利用することを禁じます。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
ゼミ担当科目	経営組織論, 経営学概論, はじめての経営学			関係する科目	はじめての経営学 経営学概論 A/B 経営組織論 A/B		
テキスト	必要に応じてその都度紹介します。各自で入手してください。						
参考書	必要に応じてその都度紹介します。卒業論文執筆のため、各自で文献を入手することが必要です。テキスト、参考書の入手、複写費用として、10,000円～30,000円程度の予算が必要になると考えられます。						
成績評価方法	出席中の状況、報告やレポートをはじめとするゼミでの研究成果、対話・議論における貢献(フリーライド厳禁)等を総合的に評価します。個人で最終的な成果を提出するものの、研究は個人で行うと同時にゼミでの議論や他のゼミ生・教員からのフィードバックを通じて行います。従いまして、報告割当回でなくともゼミへ参加し他の学生の報告を聴き積極的に議論へ加わることが求められます。もちろん報告資料の事前提出等の準備、報告実施、課題提出等も極めて重要です。随時行われる中間報告での報告・課題提出が卒業論文評価の前提条件であり評価に含まれます。						
年間授業計画	(春学期) 卒業論文執筆のための研究を実施します。適宜、中間報告を実施します。春学期終了時まで、先行研究の整理、予備調査が終了していることが求められます。調査は春学期中に実施しても、夏季休暇中に個人で取り組んでも構いません。合宿・サブゼミ等は実施しません。			(秋学期) 合宿・サブゼミ等は実施しません。秋学期の初回ゼミで、卒業論文のドラフトを提出することが求められます。中間報告を随時行い、再調査・推敲等を経て、卒業論文として仕上げていきます。卒業論文提出後、報告会および口頭試問を行います。計画等は、状況に応じ変更する場合があります。			

ゼミ名	五野井第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新2年生 8名程度 新3年生 2名程度	担当教員	五野井郁夫
選考方法	面接他						
研究テーマ	文化と国際政治						
ゼミナールの目標と概要	<p>【ゼミナールの目標】 文化と消費社会の諸問題から国際政治にまつわる諸課題について、日常の様々な側面から考え、理解を深める。とくに今年度のゼミでは、グローバル化しつつある文化のもつ政治の可能性に注目し、それらを読み解くことを目標としてみたい。</p> <p>【ゼミナールの概要と学習方法】 まず日常のなかから文化と政治の関係を分析する力を養うべく、近年の政治理論と文化の理論、国際政治理論をいくつかの文献の講読や、映像教材を観賞することで概観する。その後、ポップカルチャーやフェス、小説、ゲーム、ストリート、都市、映画、漫画やアニメ、現代芸術、建築、ファッションなどの事例から流行と政治的なものとは何かを読み解き検討してゆく。 講読と並行して、春学期の終わり頃までには参加者の問題関心をもとに研究テーマの設定を開始し、学習した成果について秋学期終盤のゼミ発表会での発表も考えている。教員の側も、受講生が他の世代がどのようなリアリティや世界観を持っているのかを、大いに学びたいと考えている。ディベートへの積極的な参加も歓迎する。</p> <p>【その他】 課外学習として、映画や美術展の見学、市街地の調査等を予定している。委細はゼミ生と合議して決定する。 *ゲスト講師等と呼んだり、専門家らが参加する場合もある。</p> <p>共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
ゼミ担当科目	政治学、国際政治、地方自治		関係科目	政治学、国際政治、憲法、日本史、世界史、情報社会論、哲学、倫理学、ジェンダー論、文化交流史、社会学			
テキスト	開講時に指示する。						
参考書	ライフスタイル誌やファッション誌、各種文化系雑誌や文芸誌、論壇誌にくわえて、『美術手帖』、『アイデア』、『NewType』等週刊・月刊漫画雑誌など幅広く目を通すこと。また美術館やギャラリー等も適宜見学すること。その他適宜紹介する。						
成績評価方法	出席とゼミへの貢献を総合的に評価する。						
年間授業計画	(春学期) 4月 オリエンテーション 5-6月 文献の講読と映像観賞、現地調査もふくむ調査研究 7月 ゼミ発表会準備(任意)			(秋学期) 9-10月 文献の講読と映像観賞、現地調査もふくむ調査研究 11月 ゼミ発表会準備+発表会(任意) 12-1月 文献の講読と映像観賞、現地調査もふくむ調査研究の継続			

ゼミ名	五野井第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新2年生 2名程度 新3年生 2名程度	担当教員	五野井郁夫
選考方法	面接他						
研究テーマ	社会科学基礎						
ゼミナールの目標と概要	<p>【ゼミナールの目標】 社会科学諸分野にまつわる外国語文献も含むテキストの正確な読解、レジュメの作成と報告、論理的思考、討論を行う能力を身につけることを目標とする。国際政治学や政治哲学、社会哲学など、幅広い分野に対応したゼミとなる。</p> <p>【ゼミナールの概要と学習方法】 受講者の習熟状況と相談して決定する。</p> <p>【その他】 本ゼミは公務員試験や国内外の大学院進学等、比較的難易度の高い就職採用試験の受験を考えている学生向けに、アドホックに開講される。課外学習の委細はゼミ生と合議して決定する。「文化と政治」ゼミとのコラボレーションも行う。 *ゲスト講師等と呼んだり、専門家らが参加する場合もある。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
担当科目	政治学、国際政治、地方自治		関係科目	政治学、国際政治、憲法、日本史、世界史、情報社会論、哲学、倫理学、ジェンダー論、文化交流史、社会学			
テキスト	開講時に指示する。 各主要出版社の新書シリーズで関心がある分野は読み進めておくこと。						
参考書	『現代思想』、『思想』、『図書』、『書齋の窓』などの月刊誌・季刊誌は適宜目を通しておくこと。その他適宜紹介する。						
成績評価方法	毎回、テキストの指定箇所を丁寧に読み、参加者全員、コメント・論点を準備すること。報告担当者はレジュメを準備すること。						
年間授業計画	(春学期) 4月 オリエンテーション 文献の講読と映像観賞、調査研究 7月 ゼミ発表会準備 (任意)			(秋学期) 10月 文献の講読と映像観賞、調査研究 11月 ゼミ発表会準備+発表会 (任意)			

ゼミ名	小林第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新2年生 約 15名 新3年生 約 0名	担当教員	小林 康一
選考方法	エントリーシート + 面接						
研究テーマ	経営と人間・社会						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標と概要】</p> <p>経営には経済的側面のほかに重要な側面があります。ひとつは社会学的側面、もうひとつは心理学的側面です。前者の社会学の基本的アプローチとは、社会現象が起こる原因をメカニズム（因果関係）として解明するアプローチです。後者の心理学のアプローチとは主に企業で働く人の心理に焦点を当てたアプローチです。人が企業で働くということには、賃金を得ること以上の意味を持ちます。こうした経済的側面、社会的側面、心理的側面といった様々な視点から総合的に経営を考え、<u>自分なりの『よい経営とはなにか』を見つけることが小林ゼミの研究テーマです。</u></p> <p>また、当ゼミでは研究と同時に社会において必要となる最低限のスキル（ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーションなど）の獲得を副次的な目標として掲げています。よって、こうしたスキルのトレーニングもゼミ内で随時おこないますし、学内のゼミ発表会にも必ず参加します（また、3年次にはインナー大会などの学外でも発表を積極的にこなします）。</p> <p>研究については一昨年より外部の企業様との共同研究を実施しています。実際の企業で働く方々に向けたプレゼンテーションやディスカッションは準備も含めてハードではありますが、得られる学びも非常に大きいです。こうした実際の経営、実践に近い経営を現場から学ぶという取り組みも、『<u>実学</u>』に力をおく当ゼミの特徴です。</p> <p>【小林ゼミの求める人材】</p> <p>上記からもわかるように小林ゼミは一年を通してかなりハードな課題を課しますので、アルバイトや個人的な活動を優先される学生諸君には入ゼミをお勧めしません。またゼミの活動は基本的に同期や先輩、後輩などの協力作業が中心となります。ですので、他人と協力して学ぶことができるだけのコミュニケーションスキルや人として必要な礼儀やマナーを守れる人の受講を望みます。</p> <p>#ただし、協力といっても仲良しサークルではありません。第一義的に個人のスキルを高めることを目標とした上での「協働」ができるチームの形成を目標とします。</p> <p>ゼミの運営については、<u>基本的に欠席を認めず欠席3回でゼミの参加そのものを認めません。</u>また、みなさんに求める課題や活動の水準も非常に高いです。よって、<u>その点を理解し取り組んでいくつもりのある方だけ受講するように</u>してください。</p> <p>当ゼミのモットーは、「よく学び、よく遊べ」です。授業とオフとのメリハリをしっかりとつけて「やるときには、やる人」を求めていますので、是非我こそはという人は挑戦してみてください。</p> <p>【授業の方法】</p> <p>ゼミの研究は基本的にグループによるディスカッション形式で行います。また、年2回の合宿では集中的に一つのテーマについて議論していただきます。授業内では実際に社会で活躍されている社会人の方による講演や経営の現場に足を運んでの調査などもおこないます。</p> <p>共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	
担当科目	経営心理学、経営学概論 情報と職業	関係科目	経営学概論、経営心理学、経営組織論、経営労務論、経営戦略論、キャリアデザイン論など				
テキスト	授業時に適宜配布、ならびに購入していただきます。						
参考書	授業時に適宜配布、ならびに購入していただきます。						
成績評価方法	ゼミ活動への貢献をもとに評価します。						
年間授業計画	(春学期) ① グループディスカッション（演習） ② プレゼンテーション（演習） ③ 企業経営基礎（輪読） ④ 企業経営分析（ケースディスカッション） ⑤ 総合演習（合宿）			(秋学期) ① ゼミ発表準備（2年生が中心） ② インナー大会の準備（3年生が中心） ③ 就職活動に向けた支援PGM（3年生） ④ 企業訪問・外部実務家の講演など			

ゼミ名	小林第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	募集なし	担当教員	小林 康一
選考方法	—						
研究テーマ	組織行動						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの概要】 第二ゼミでは基本的に卒業論文の作成を目標として、4年生によってゼミをおこないます。</p> <p>【ゼミナールの概要】 経営には経済的側面のほかに重要な側面があります。それは、ひとつは社会学的側面、もうひとつは心理学的側面です。前者の社会学の基本的アプローチとは、社会現象が起こる原因をメカニズム（因果関係）として解明するアプローチです。後者の心理学のアプローチとは主に企業で働く人の心理に焦点を当てたアプローチです。人が企業で働くということには、賃金を得ること以上の意味を持ちます。こうした経済的側面、社会的側面、心理的側面といった様々な視点から総合的に経営を考えていくことが当ゼミの研究テーマです。</p> <p>【学習の方法】 卒業論文作成のために、文献調査や理論研究だけでなく実際に対象企業に対するインタビューやアンケートなどの調査活動もおこなっていきます。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	○	○	◎	
担当科目	経営心理学、経営学概論 情報と職業、	関係する科目	経営学概論、経営心理学、経営組織論、企業論、経営労務論、経営戦略論、キャリアデザイン論など				
テキスト	論文テーマを決定する際にあわせて準備すること。						
参考書							
成績評価方法	ゼミ活動への貢献をもとに評価します。						
年間授業計画	(春学期) ① 卒業論文テーマの策定 ② 就職活動報告 ③ 就職決定先企業の分析と調査			(秋学期) ① 卒業論文執筆 ② TAとしてゼミの運営をサポート ③ 就業に向けた準備			

ゼミ名	齋藤大輔ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新2年生 10名 新3年生 3名	担当教員	齋藤大輔
選考方法	課題・面接						
研究テーマ	STEAM 教育に関する研究						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 STEAM とは科学、技術、工学、芸術、数学の頭文字をとった言葉であり分野横断型の枠組みです。これからの社会では、この枠組みの考え方を使得って社会課題の発見、解決などができる STEAM 人材が求められます。本ゼミナールでは STEAM 人材育成を効果的に行うため「STEAM 教育」をテーマに研究し、「STEAM 教育」における教育効果をデータに裏打ちされた形で明らかとします。また、研究成果を積極的に公表し社会貢献に繋げることを目標とします。</p> <p>【ゼミナールの概要】 本ゼミナールでは「STEAM 教育」として特にモノづくり教育やプログラミング教育を中心とした教育効果に関する研究を行います。 検討できる研究テーマの例を示します。 ● イースポーツを活用したプログラミング教育 ● バーチャルリアリティ(VR)を活用したモノづくり教育 ● 情報活用能力の評価指標の提案 4年生は2、3年次に定めた研究テーマについて研究を行い卒業論文の執筆をします。</p> <p>【授業の方法】 本ゼミナールは、アクティブラーニングの形式で行い、学生自身の主体的な活動が求められます。研究について自ら文献を調査し、それに基づく発表、議論、情報共有が重要となります。 4年生は卒業論文の執筆に向けた文献調査、データ収集、分析、評価を行い、最終的に卒業論文の形にまとめます。</p> <p>【キーワード】 プログラミング、ゲーミフィケーション、ゲームベース学習、イースポーツ、XR、AI、IoT</p> <p>【その他】 本ゼミナールは、地方自治体、企業、他大学との連携および共同研究を実施する予定です。 共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要／○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	○	◎	○	◎	○	
担当科目	基礎プログラミング、データベース言語 SQL、情報ネットワーク	関係する科目	コンピュータ基礎 I・II, 基礎プログラミング 1・II, 情報ネットワーク I・II などの情報に関連する科目				
テキスト	適宜提示します						
参考書	適宜提示します						
成績評価方法	ゼミナールへの出席状況や発表、貢献度で総合的に評価します						
年間授業計画	(春学期) 研究テーマの決定に向け文献調査などの活動が中心です 1. オリエンテーション 2. 輪講、文献調査、 3. プレゼンテーション 4. 合宿 (4年生/春学期) 1. テーマに関連する文献調査 2. データ収集 3. 中間発表 4. 合宿			(秋学期) 研究テーマに基づいた活動が中心です 1. 研究テーマの決定 2. 関連研究調査 3. 研究発表 4. 論文の執筆 (4年生/秋学期) 1. 卒業論文の執筆 2. 発表資料作成、発表練習 3. 卒業研究の発表			

ゼミ名	笹金第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新2年生 12名程度 新3年生 若干名	担当教員	笹金 光徳
選考方法	「教員+ゼミ生数人」による面接（「なぜ笹金ゼミを志望したのか」ということが明確に説明でき、その理由が理にかなっているなあと判断できれば、合格する可能性はきわめて高いと思いますので、しっかり準備してください）						
研究テーマ	情報通信技術（ICT）と現代社会とのかかわりについて						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>情報関係の知識を身につけ、資格を取得することは、コンピュータの専門家以外のいかなる仕事に就く人達にとっても十分意味があると考えています。</p> <p>現代は「情報化社会」とよく言われ、本学にもいくつかの情報関連科目が用意されています。しかしながら、コンピュータ技術やネットワーク技術が日々進化する中で、毎日のように新しいアイデアやサービスが生まれている現状を、体系的に情報関連科目のなかで、十分伝えることには限界があります。</p> <p>そこで、本ゼミナールでは、そういった情報関連のホットなテーマについて、掘り下げて調査・研究し、考察していきたいと考えています。経営学部学生の所属コースは問いません。商学部の学生も歓迎します。①インターネットに興味がある人、②情報の知識・技術がビジネスでどのように役立っているか学びたい人、③ITパスポート試験、MOS等の資格を取りたいと思ってきた人、④Twitter, facebook, Instagram, Youtube といったソーシャルメディアに興味のある人、⑤「クラウドコンピューティング」、「IoT」、「AI（最近話題の生成AIを含む）」、「5G」、「Wi-Fi6」、「DX」に関心のある人、そんな諸君を待っています。</p> <p>[授業の方法]</p> <p>当ゼミでは、2年生と3年生が共同でゼミ運営をしていきますので、春合宿から春学期において、まずゼミ生同士の信頼関係を十分築くことを目標とし、次第に秋のゼミ発表会の準備にシフトしていきます。夏合宿をはさんで秋学期には、ゼミ発表会に向けての仕上げと、論文の作成が活動の中心となります。確かに、担任が表計算、データベース、ソーシャルメディア等の活用法の講義も行いますが、基本的には学生同士の主体的学びを中心とするアクティブラーニングによってゼミは進行します。さらに、自主的な（自由参加の）活動の一環として、同じ目標を持つ学生間のサブゼミを奨励しています。たとえば、「プログラミング」について学びたい、「ITパスポート」や「MOS」の合格を目指したいといった勉強会等です。ただし、決して「強制」ではありません。</p> <p>ゼミ内では各自が思いやりを持って行動し、お互いが成長することが大切です。当ゼミのチームワークの良さについては、公開ゼミやゼミ発表会で確認して下さい。</p> <p>また、機会があれば各学期1回を上限としてICTの専門家を外部講師として招聘したいと考えています。</p> <p>なお、参考までに、ゼミ紹介パンフを、公開ゼミ（ゼミ見学）のときに配布したいと思っています。また、質問・相談等も受け付けていますので、その場合にはオフィシアワーを利用してください。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	○	○	◎	◎	○	
担当科目	データベースⅠ・Ⅱ、基礎コンピュータⅠ・Ⅱ		関係する科目	基礎コンピュータⅠ・Ⅱ データベースⅠ・Ⅱ、応用表計算 経営学概論、はじめての経営学			
テキスト	市販されているITパスポート試験用の教科書から良書を選択し、教科書にします。						
参考書	ゼミの時間中に随時紹介します。						
成績評価方法	本ゼミで最も強調したいことは、成績評価において出席を重要視することです。さらに、「目標と概要」の主旨より、週一回の授業を中心とするゼミ活動に積極的に取り組むことを望みます。これらを踏まえて、平常点こそが評価の基準であると考えていただきたい。結局のところ、各自が、社会を担う人材として十分な能力と人格を身に付けるための成長の機会として、ゼミ活動を位置付けて欲しいと願っています。						
年間授業計画	(春学期) 以下の内容を組み合わせて行う ①ゼミⅡ・ゼミⅢの学生が分担し、ITパスポートの範囲の勉強とプレゼンテーション ②ゼミ発表会に向けてのグループ研究 ③担任によるICTの最新動向の講義と実習など ④ICT関連の展示会への参加（見学） ⑤外部講師によるICT関連トピックスに関する講演 ⑥夏合宿（ゼミ発表会の準備、担任企画、親睦）			(秋学期) 以下の内容を組み合わせて行う ①ゼミ発表会に向けての仕上げ ②ゼミ発表論文の作成 ③担任によるICTの最新動向の講義と実習など ④ICT関係の展示会への参加（見学） ⑤外部講師によるICT関連トピックスに関する講演 ⑥春合宿（次年度新ゼミ生も可能な限り参加）			

ゼミ名	笹金第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	募集なし	担当教員	笹金 光徳
選考方法	—						
研究テーマ	情報通信技術 (ICT) と現代社会とのかかわりに関する個人研究						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>ゼミⅡ・Ⅲ (笹金第一ゼミナール) で学んできたことを基礎として、春学期前半には、ゼミ生自ら関心のあるテーマを選んで順次、研究発表を行う。さらに、これをベースにして、春学期後半には、</p> <p>分類①: 現代社会・ビジネスにおいて利用されている情報通信技術 (ICT) に関する研究 分類②: ICT を活用して実現されている現代社会・ビジネスにおける取組・トレンドについての研究</p> <p>のいずれかの分類から具体的な卒業論文のテーマを決定する。</p> <p>秋学期は、卒業論文完成に向けて、調査・研究・執筆を行う。</p> <p>このようにゼミⅣは、自らテーマを選定し、研究を進めつつ、担当教員がアドバイスを行う形式で進行する、いわゆる典型的なアクティブラーニング形式の授業である。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	○	○	○	
担当科目	データベースⅠ・Ⅱ, 基礎コンピュータⅠ・Ⅱ		関係する科目	基礎コンピュータⅠ・Ⅱ データベースⅠ・Ⅱ, 応用表計算 経営学概論			
テキスト	ゼミⅡ・Ⅲで用いたテキストを引き続き利用すると共に論文作成に役立つようなテキストを新たに購入する。						
参考書	ゼミの時間中に随時紹介する。						
成績評価方法	卒業論文の内容を評価するよりも、むしろ、卒業論文完成に至るまでに各自のたどった軌跡を、評価の対象とする。最終的に良い論文に仕上がるか否かは、①テーマの選定、②本人の能力・努力、③担当教員の指導力、の3点の総合力によって決定されるものと思われる。						
年間授業計画	(春学期) ① 情報分野全般に関する復習 ② ゼミ生が選んだテーマによる研究発表① ③ ゼミ生が選んだテーマによる研究発表② ④ 近年のトレンドを中心とした ICT に関する補足 ⑤ 卒業論文完成に至るまでの調査・研究法の解説 ⑥ 卒業論文テーマ決定とアウトライン・主題文の作成			(秋学期) ① 卒業論文テーマに基づく個別研究 ② 論文執筆に関する解説・指導 ③ 卒業論文中間発表 ④ 最終指導 ⑤ 卒業論文提出			

ゼミ名	田口第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新2年生：5～7名 新3年生：募集なし	担当教員	田口 和雄																				
選考方法	<p>【選考方法】①エントリーシート（応募時に提出）、②面接 【応募する皆さんに求めること】 「知的好奇心のある学生」「コツコツ頑張る学生」「自分の将来を真剣に考えている学生」 【選考の考え方】 人材マネジメントに興味や関心を持っていることは大切な点ですが、この他に「自分の卒論」に汗をかいて仕上げる「意気込み」をもっていることが選考の最も重要な決め手となります。それと、長いつき合いになるので、お互いの「相性（楽しくつき合える）」も重視します。ですから、エントリーシートや面接で、自分のことをについて大いにアピールして下さい。</p>																										
研究テーマ	人材マネジメント（企業は社員をどのように活用しているのか？）																										
ゼミナールの目標と概要	<p>【ゼミナールの目標と概要】 企業は経営目標の実現を目指して、社員をどのように活用しているのか（これを「人材マネジメント」と呼びます）を研究するゼミです。 皆さんの身近な例を取り上げると、3年生の後半から、皆さんの多くは「就職活動」を始めます。そこで、まず考えることは「自分はどういう『仕事』に向いているのか？」「将来どのような『キャリア』を考えればいいのか？」でしょう。さらに、就職活動では企業が何を重視して「採用」を行っているのかにも関心を持つでしょう。この企業の「採用活動」を人材マネジメントからみると、企業は経営目標の実現を目指すための「必要な人材を確保する取り組み」なのです。 このように考えると、人材マネジメントは、結構、皆さんに身近であり、皆さんの将来（就職活動、仕事、キャリア）に近い分野なのです。そういう分野を研究するゼミです。企業がどのように人材を活用しているのか（人材マネジメント）を研究することによって、皆さんのこれからの「キャリア、就職活動、仕事」につなげてもらいたいと考えています。これがゼミナールの目標です。 【授業の方法】 毎回、ゼミ生がレジュメを準備して、報告し、他のゼミ生と議論して、理解を深める「ゼミ生参加型の授業形式」をとっています。ですので、報告する学生は発表の準備をしっかりとしなければなりませんし、報告を聞く学生は積極的に議論をして理解を深めてもらわなければなりません。こうした学習方法を通じて、皆さんには、人材マネジメントに関わる専門的な知識を習得してもらいます。そして、自分で問題（研究テーマ）を見つけ、それについて研究（自分の考えを整理し、表現して、人に伝える）する能力を身につけてもらいます。 共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>																										
到達目標	<p align="center">【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">(1)常に半歩先立つ 進歩性</th> <th colspan="3">(2)考えて行動する力</th> <th colspan="3">(3)ともに行動する力</th> </tr> <tr> <th>①問題を解決する力</th> <th>②論理的に考える力</th> <th>③複数の視点から考える力</th> <th>①コミュニケーションする力</th> <th>②他者を受け入れる力</th> <th>③倫理観と社会的責任</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td align="center">◎</td> <td align="center">◎</td> <td align="center">◎</td> <td align="center">◎</td> <td align="center">◎</td> <td align="center">◎</td> <td align="center">◎</td> </tr> </tbody> </table>							(1)常に半歩先立つ 進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力			①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
(1)常に半歩先立つ 進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力																							
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任																					
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎																					
担当科目	経営労務論、賃金管理論			関係科目	経営組織論、経営戦略論、経営労務論、賃金管理論、労働法など「人材マネジメント」に関わる分野																						
テキスト	開講時に連絡します。人材マネジメントに関わる基本的な知識を習得してもらいたいようなテキストを選びたいと考えています。																										
参考書	ゼミを進めていく上で、必要に応じて指示します。もちろん、ゼミ生の興味や関心のある分野に関連する文献も随時、紹介します。																										
成績評価方法	成績を評価する基本的な方法である、報告内容、レポートの他に、学習方法にあるように、ゼミ生参加型の授業形式をとっているので、ゼミ活動にどれだけ汗をかいているか（出席状況、取り組み姿勢、協調性、議論への積極的な参加など）も重視します。																										
年間授業計画	【春学期】 毎回、ゼミ生が輪読するテキストを報告し、議論をしてもらい、人材マネジメントに関する基本的な知識を習得してもらいます。			【秋学期】 春学期で学んだ基本的な知識をもとに、企業の事例研究を行い、発表や議論を通じて人材マネジメントに関する知識の習得を深めていきたいと考えています。																							

ゼミ名	田口第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	募集なし	担当教員	田口 和雄
選考方法	――						
研究テーマ	人材マネジメント（企業は社員をどのように活用しているのか？）						
ゼミナールの目標と概要	<p>【ゼミナールの目標】</p> <p>「自分（達）の作品（論文）」を完成させる力を養うことをゼミナールの最大の目標としています。</p> <p>【ゼミナールの概要】</p> <p>この目標を達成するために、3年生は全員でゼミ発表会の準備を行います。</p> <p>第一に研究テーマを見つけ、研究計画を立てること、第二に「私たちの作品」の創作活動を行います。そのため、一人一人が互いに協力し合い、準備に積極的に参加することが必要になります。</p> <p>つぎに、4年次では以下のことを行います。</p> <p>大学生活の集大成である卒業論文の創作に向けて、3年次で行った一連の創作活動を1人で取り組んでもらいます。ですので、ゼミでは、普通の授業のような形式で知識を勉強してもらおう方式はできる限り避け、ゼミ生参加型の授業形式をとりたいと考えています。</p> <p>このような学習方法を通じて、2年次の「人材マネジメントに関わる専門的な知識を習得してもらいます。そして、自分で問題（研究テーマ）を見つけ、それについて研究（自分の考えを整理し、表現して、人に伝える）する能力を身につける」ことのレベルアップを図ります。</p> <p>【授業の方法】</p> <p>毎回、ゼミ生がレジュメを準備して、報告し、他のゼミ生と議論して、理解を深める「ゼミ生参加型の授業形式」をとっています。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）						
	(1) 常に半歩先立つ 進歩性	(2) 考えて行動する力			(3) ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
ゼミ教員 担当科目	経営労務論、賃金管理論		関係する 科目	経営組織論、経営戦略論、経営労務論、賃金管理論、労働法など「人材マネジメント」に関わる分野			
テキスト	創作活動（研究活動）に必要なテキストを適時、紹介します。						
参考書	ゼミを進めていく上で、必要に応じて指示します。もちろん、ゼミ生の興味や関心のある分野に関連する文献も随時、紹介します。						
成績評価方法	成績を評価する基本的な方法である、報告内容、レポートの他に、学習方法にあるように、ゼミ生参加型の授業形式をとっているため、ゼミ活動にどれだけ汗をかいているか（出席状況、取り組み姿勢、協調性、議論への積極的な参加など）も重視します。						
年間授業計画	<p>【春学期】</p> <p>①毎回、ゼミ生が準備した課題・テーマを報告し、議論をしてもらうこと。</p> <p>②4年生が各自による作品（ゼミ論）の創作活動（つまり、論文作成）に向けたテーマの選定（研究計画の立案）。</p>			<p>【秋学期】</p> <p>①毎回、ゼミ生が準備した課題・テーマを報告し、議論をもらうこと。</p> <p>②4年生は各自による作品（ゼミ論）の創作活動（論文作成）</p>			

ゼミ名	竹内慶司第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新2年生 30名 新3年生 0名	担当教員	竹内 慶司
選考方法	エントリーシートと面接						
研究テーマ	企業の経営戦略						
ゼミナールの目標と概要	<p>【研究の内容】</p> <p>今日の消費者を取り巻く市場環境は、日々刻々と、あるいはある日突然劇的な変化を遂げています。また、市場におけるビジネス間の競争も多元化してきています。たとえば、製造業者は不断なるイノベーションを進め、多くの新技術・新製品の開発に努めています。しかし、どのような技術や製品も時が経つにつれ陳腐化していきます。しかもそのスピードは飛躍的に高まっています。その結果、多くの製品市場は早期に成熟化し、技術開発による競争ではなく低価格による競争に陥ってしまいます。いわゆるコモディティ化市場といわれるものです。</p> <p>当ゼミでは、流通業、サービス業、製造業、アパレル産業など多岐にわたり、実際のビジネスにおける経営戦略事例を用い、多角的に分析していきます。</p> <p>具体的には、このような状況をいかに乗り切っていくかのケースを基に研究しています。これまでのゼミでの班別研究例として、「アパレルメーカーのSPA戦略について」、「資生堂はなぜ化粧品市場でトップにいられるのか」、「ソニーと任天堂のゲームソフト開発の相違」、「ディズニーランドの強さの秘密」など多岐にわたっています。</p> <p>またこれまでに、お菓子メーカーと連携してお菓子のロングセラー商品の研究を行ったり、近隣の商店街と連携してイベントを企画し、実施したりしました。</p> <p>【学習の方法】</p> <p>当ゼミの研究は、テキストによる理論研究のみならず、外部講師の方に講義を行っていただき、ビジネスに直接関連した実学も研究し、理論と実務の両輪を回していきます。たとえば、街に出て店舗視察を行うなどフィールドワークも行います。ゼミの活動については、以下の竹内ゼミのホームページ http://keiji3.jugem.jp/でご確認ください。</p> <p>【授業の方法】</p> <p>ゼミは6~7名の班に分かれ、研究したい課題を決めて発表します。その他、これまでゼミ内で球技大会を行ったり、夏休みにゼミ合宿を行ったり、全員でアウトレットモールの視察などを行いました。</p> <p>共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	○	○	◎	○	○	
担当ゼミ科目	販売管理論、サービス・マーケティング論		関係する科目	販売管理論、サービス・マーケティング論			
テキスト	必要に応じて指示します。						
参考書	必要に応じて指示します。						
成績評価方法	ゼミ活動への参加姿勢を重視します。						
年間授業計画	(春学期) オリエンテーション ゼミナール大会発表テーマ検討 同上チーム編成 プレゼンテーションの練習 ディベートの練習 資料収集、研究資料の作成 球技大会 ほか			(秋学期) ゼミナール大会でのプレゼンテーションに向けての最終調整 まとめ			

ゼミ名	竹内慶司第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	募集なし	担当教員	竹内 慶司
選考方法	—						
研究テーマ	流通業、製造業、サービス業の経営戦略						
ゼミナールの目標と概要	<p>【研究の内容】</p> <p>興味を持った業界や企業を選び、その業界動向や企業戦略のあり方を研究します。その研究成果を卒業論文として完成させます。</p> <p>【学習の方法】</p> <p>ゼミでは、経営学部の4年生を対象とし、主に卒業論文の執筆を中心に行っていきます。春学期は各自で卒業論文のテーマを探し論文の骨子を組み立てて行きます。ゼミでは結果を発表してもらいます。秋学期は卒業論文の完成に向け執筆課程を発表しながら修正して行きます。</p> <p>【授業の方法】</p> <p>ゼミでは、主に卒論制作に向け、各自で主体的に研究したいテーマを決め、随時発表してもらいます。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	○	○	◎	○	○	
担当科目	販売管理論、サービス・マーケティング論		関係する科目	販売管理論、サービス・マーケティング論			
テキスト	必要に応じて指示します。						
参考書	必要に応じて指示します。						
成績評価方法	ゼミ活動への参加姿勢および卒業論文						
年間授業計画	(春学期) オリエンテーション 卒業論文のテーマ検討 プレゼンテーション 資料収集・分析 卒業論文の骨子作成			(秋学期) 卒業論文の執筆と経過報告 まとめ			

ゼミ名	永戸第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新2年生 10名 新3年生 若干名	担当教員	永戸 哲也
選考方法	エントリーシート・面接						
研究テーマ	情報化と企業経営						
ゼミナールの目標と概要	<p>[ゼミナールの目標] 本ゼミナールは情報化によって生じる様々な具体的な現象をとりあげ、それらについて考え、理解していくことを目的としている。そこから「情報技術をどのように実装・活用していくのか?」、「情報化とはどのようなことか?」、「そもそも情報とはどのような価値があるのか?」といった根本的な問題を検討・分析していく。そのうえで企業における情報技術の活用事例を見つけ出し、経営的視点と技術的視点の両面から分析を行っていく。現代企業は、販売・マーケティング、生産・物流、管理活動などの機能的側面とコミュニケーション、ナレッジ・マネジメントなどの組織的側面の両面で情報技術を活用している。多くの事例にあたり、情報技術の可能性を理解してもらいたい。また、プログラミングの基礎(主に Python)に取り組み、情報システムの開発・実装・運用やデータ分析についての知識とスキルを身に付けることを目指している。</p> <p>[ゼミナールの概要] 2・3年生共同でゼミ発表会に向け、グループごとにテーマ研究を行う。研究テーマは主として「ICT ビジネス研究」、「情報システム開発、ICT の実装」に関するもので学生諸君の興味・関心をもとに設定する。ICT の社会やビジネスへの活用、企業の ICT 戦略など経営情報論の視点からの研究やプログラミングを生かしたデータ分析、アプリ開発などに取り組んでほしい。 ビジネス・経営的視点から情報技術を考えるグループとプログラミングやデータ分析などの技術的視点で考えるグループがお互いの研究を参照することで2つの視点を横断した思考を深めていく。</p> <p>[授業の方法] 「企業」と「経営」について、また「情報」や「情報化」について幅広く考えていくので、数多くの事例、多様な文献にあたる必要がある。プログラミングに取り組む場合は各自でテキストなどを進める必要がある。自分でコードを記述しなければプログラミングのスキルは身につかない。ゼミでは進捗管理とサポートは行うがそれ以外に継続的に課題に取り組む必要がある。 また、ゼミではグループごとのプレゼンテーションをもとにしたディスカッションなどアクティブラーニングの形式で進めるので十分な準備と積極的な発言が必要となる。そのためグループワークへの参加、サブゼミが必要となる。 共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	
ゼミ教員担当科目	情報リテラシー、情報社会論、情報管理論	関係する科目	情報リテラシー、情報社会論、コンピュータ概論、基礎プログラミング、データベース、データベース言語 SQL、マルチメディア、情報ネットワーク、情報管理論、マーケティング情報論、経営情報論、経営工学、経営学および商学に関する全ての科目				
テキスト	開講時に指示する						
参考書	生稲史彦、高井文子、野島美保「コアテキスト 経営情報論」新世社 遠山暁、村田潔、古賀広志「現代経営情報論」有斐閣 辻真吾「Python スタートブック」技術評論社 森巧尚「ゲーム作りで楽しく学ぶPython のきほん」マイナビ出版						
成績評価方法	ゼミ活動への貢献度を評価する						
年間授業計画	(春学期) 3月 春合宿 4月 研究テーマ設定 5~7月 文健研究/プログラミング基礎 8~9月 夏合宿/調査/成果物作成			(秋学期) 10月 ゼミ発表準備(まとめ) 11月 ゼミ発表会、振り返り、公開ゼミなど 12月 新ゼミ員選考、就職活動準備など 1月 次年度に向けた準備			

ゼミ名	永戸第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	募集なし	担当教員	永戸 哲也
選考方法							
研究テーマ	情報化と企業経営						
ゼミナールの目標と概要	<p>[ゼミナールの目標] 本ゼミナールは情報化によって生じる様々な具体的な現象をとりあげ、それらについて考え、理解していくことを目的としている。そこから「情報技術をどのように実装・活用していくのか?」、「情報化とはどのようなことか?」、「そもそも情報とはどのような価値があるのか?」といった根本的な問題を検討・分析していく。そのうえで企業における情報技術の活用事例を見つけ出し、経営的視点と技術的視点の両面から分析を行っていく。現代企業は、販売・マーケティング、生産・物流、管理活動などの機能的側面とコミュニケーション、ナレッジ・マネジメントなどの組織的側面の両面で情報技術を活用している。多くの事例にあたり、情報技術の可能性を理解してもらいたい。また、プログラミングの基礎(主に Python)に取り組み、情報システムの開発・実装・運用についての知識とスキルを身に着けることを目指している。</p> <p>[ゼミナールの概要] 2・3年次の研究内容をもとにして卒業論文作成のための研究に取り組む。大きく分けて(1)ICT ビジネス研究と(2)情報システム開発 (ICTの実装)のいずれかの領域でテーマを設定し、研究することとなる。</p> <p>[授業の方法] 個別指導と進捗管理を行う。春学期末に卒論テーマ報告会、卒業論文提出後に卒論報告会を行う。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	◎	○	○	◎	
ゼミ教員担当科目	情報リテラシー、情報社会論、情報管理論	関係する科目	情報リテラシー、情報社会論、コンピュータ概論、基礎プログラミング、データベース、データベース言語 SQL、マルチメディア、情報ネットワーク、情報管理論、マーケティング情報論、経営情報論、経営学および商学に関する全ての科目				
テキスト	特になし						
参考書	必要に応じ個別に指示する						
成績評価方法	卒業研究への取り組み、卒業論文の内容を評価する						
年間授業計画	(春学期) テーマ設定およびテーマの概要把握 ●ICT ビジネス研究 既存研究のレビュー、リサーチクエスションの設定 ●情報システム開発 システム要件定義、システム設計、論点整理 ※卒論テーマ報告会			(秋学期) ●ICT ビジネス研究 分析とまとめ、論文作成 ●情報システム開発 システム実装とまとめ、論文作成 ※卒論報告会			

ゼミ名	中山第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新2年生 15名程度 新3年生 募集なし	担当教員	中山 景央
選考方法	面接						
研究テーマ	オペレーションズマネジメントに必要な知識とスキルの習得						
ゼミナールの目標と概要	<p><ゼミナールの目標・概要> 本ゼミナールでは、製品やサービスを創造し提供する企業や機関の事業活動（オペレーション）がどのようなプロセスで、どのような情報とリソースを使用して実行されているかを分析することによって、オペレーションの問題現象の解決を図る“オペレーションズマネジメント”に必要な知識とスキルの醸成を目的としています。主な活動内容は、ゼミ発表大会に向けた研究活動ですが、適宜、論文調査の方法や、問題現象が発生している場面を分析するためのモデリング手法や分析技法、アンケート調査方法、プレゼンテーション方法についての座学も実施します。 研究の対象となるオペレーションは製造業に限らず、介護業務、飲食業の接客業務等多岐にわたります。</p> <p><ゼミナールの方法> ・3年生を中心としたグループ単位でゼミ発表大会に向けた研究活動を行ってまいります。 ・適宜、論文調査の方法や、分析手法、モデリング手法、プレゼンテーション方法等についての座学を実施します。 ・毎回のゼミ時のディスカッション、中間報告等を通してアクティブラーニングを実施します。</p> <p>共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	○	○	◎	
ゼミ担当科目			関係科目	生産管理論 A/B, 経営工学等			
テキスト	必要に応じて都度指定します。						
参考書	必要に応じて都度指定します。						
成績評価方法	ゼミへの出席、ゼミ内での発言や貢献度合いを総合的に判断して評価します。						
年間授業計画	(春学期)			(秋学期)			
	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマの設定 研究スケジュールの作成 論文調査、分析技法の学習 等 			<ul style="list-style-type: none"> 研究成果の考察及び、まとめ。 プレゼンテーション資料の作成、及びプレゼンテーション方法の学習 ゼミ発表大会にて発表 等 			
	※合宿等の開催はゼミ生と相談の上決定する。			※その他のイベントに関してはゼミ生と相談の上決定する。			

ゼミ名	中山第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	募集なし	担当教員	中山 景央
選考方法	-						
研究テーマ	オペレーションズエンジニアリング手法を用いた卒業研究						
ゼミナールの目標と概要	<p><ゼミナールの目標・概要> 本ゼミナールでは、製品やサービスを創造し提供する企業や機関の事業活動（オペレーション）がどのようなプロセスで、どのような情報とリソースを使用して実行されているかを分析することによって、オペレーションの問題現象の解決を図る“オペレーションズエンジニアリングの手法を用いた課題解決を目的としています。 課題の設定は個人個人の自由ですが、対象をモデル化し、問題点を抽出し、課題の解決策を提案するというプロセスを通して卒論を作成していきます。</p> <p><ゼミナールの方法> ・個人面談による研究進捗の確認及び、研究の進め方指導を行います。 ・1.5ヶ月に1回程度の頻度で研究進捗発表を実施し他の学生との議論を行います。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	○	○	◎	
担当科目				関係する科目	生産管理論 A/B, 経営工学等		
テキスト	必要に応じて都度指定します。						
参考書	必要に応じて都度指定します。						
成績評価方法	ゼミへの出席、ゼミ内での発言や貢献度合いを総合的に判断して評価します。						
年間授業計画	(春学期) ・研究テーマの決定のための文献調査及びディスカッション ※合宿等の開催はゼミ生と相談の上決定する。			(秋学期) ・文献調査及び実地調査による研究論文作成			

ゼミ名	藤芳第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新4年生対象 ※新規募集無し	担当教員	藤芳 明人
選考方法	—						
研究テーマ	未来のビジネス・リーダー						
ゼミナールの目標と概要	<p>【研究内容】 現代は変化社会である。イノベーション時代である。そこで、今日役立つ即戦力の人材ではなく、明日に役立つ人材を育成することが、私は大学本来の教育だと思う。そして、大学を卒業する以上、社会に出たら、リーダーとして活躍できる人間に成長してもらいたい。</p> <p>したがって、将来、職場のリーダーとして活躍できる人材になることを目標にゼミ活動を展開する。</p> <p>しかし、それは戦後の日本を支えた「企業戦士」といわれた「会社人間」を目指すのではない。「仕事と生活の調和」＝「ワーク・ライフ・バランス」を求める「自立人間」＝「自己実現人」を目指すのである。日本の会社は大きく変わる。会社は連続イノベーションを求める。だから社員も自己変革が必要。グローバル会社は異文化交流が必要。競争会社が共生会社になると会社機関の設計が変わる。</p> <p>【学習方法】 この研究のためには、まず経営学や経営管理論の基礎および会社制度の変革や日本的経営の変容を学ぶ必要がある。また、それを実感するためにも、第一線で活躍する実務家を招いての講演や、地域企業との交流をはかる企画などを実施したい。</p> <p>そして、ドラッカー (Drucker, P. F.) の説く「マネジメント」、バーナード (Barnard, C. I.) の説く「組織」、アーウィック (Urwick, L. F.) の説く「リーダーシップ」を教材として、勉強を始めよう。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要/○重要)						
	(1) 常に半歩先立つ進歩性	(2) 考えて行動する力			(3) ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	○	○	◎	○	○	
担当教員			関係する科目	経営管理論、経営学概論、経営組織論			
テキスト	藤芳明人著『解説 経営管理学』(学文社) 藤芳明人著『解説 企業経営学』(学文社)						
参考書	必要に応じて指示する。						
成績評価方法	授業およびゼミナール行事への参加貢献度重視。 4年生は卒業論文の提出が必要。						
年間授業計画	(春学期)			(秋学期)			
	<ul style="list-style-type: none"> ● オリエンテーション ● 企業経営学 ● 会社制度の変革 ● 日本的経営の変容 ● ビジネス・イノベーション 			<ul style="list-style-type: none"> ● ドラッカーのマネジメント ● バーナードの組織論理的管理論 ● アーウィックのリーダーシップ論 ● 進路相談 ● 個人研究・卒論テーマの作成 ● 卒業論文指導 			

ゼミ名	藤芳第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新4年生対象 ※新規募集無し	担当教員	藤芳 明人
選考方法	—						
研究テーマ	ビジネスイノベーション探求						
ゼミナールの目標と概要	<p>【研究内容】 現代は変化社会である。イノベーション時代である。そこで、今日役立つ即戦力の人材ではなく、明日に役立つ人材を育成することが、私は本来の大学本来の教育だと思う。 したがって、将来、職場でイノベーションを起こすイノベーターとして活躍できる人材になることを目標にゼミ活動を展開する。イノベーションは元来、経済学であるシュンペーターが提案し、経営学分野においてはドラッカーを中心に展開された。企業成長の源泉、企業家の機能としてイノベーションをとらえる。</p> <p>【学習方法】 イノベーションを起こすメカニズムやプロセスを学ぶことが重要となる。イノベーションは本来偶発的なものとされているが、私はそう考えていない。トヨタ自動車が指摘するように、カイゼン、カイゼンの積み重ねの先にイノベーションはある。イノベーションは設計、製品、マーケティング、価格や顧客サービスという事業のあらゆる段階で行われる。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要/○重要)						
	(1) 常に半歩先立つ進歩性	(2) 考えて行動する力			(3) ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	○	○	◎	○	○	
担当教員		関係する科目	経営管理論、経営学概論、経営組織論				
テキスト	藤芳明人著『解説 経営管理学』(学文社) 藤芳明人著『解説 企業経営学』(学文社)						
参考書	必要に応じて指示する。						
成績評価方法	授業およびゼミナール行事への参加貢献度重視。 4年生は卒業論文の提出が必要。						
年間授業計画	(春学期)			(秋学期)			
	<ul style="list-style-type: none"> ● オリエンテーション ● 企業経営学 ● 会社制度の変革 ● バーナードの組織論的管理論 ● 企業イノベーション 			<ul style="list-style-type: none"> ● 創出型イノベーション ● 模倣型イノベーション ● 経営管理イノベーション ● 進路相談 ● 個人研究・卒論テーマの作成 ● 卒業論文指導 			

ゼミ名	舟木ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新2年生 10名 新3年生 0名	担当教員	舟木 てるみ
選考方法	エントリーシート・面接						
研究テーマ	英語の歴史						
ゼミナールの目標と概要	<p>【目標】 現在「世界の共通語」といわれている英語は、5世紀にブリテン島に渡来し定住したアングル人・サクソン人・ジュート人が話していたことばを起源とし、イギリスという一地域の方言にすぎませんでした。その後、産業革命でイギリスの首都ロンドンが世界の経済・文化の中心地となり、英語が世界中へ広がりました。また、植民地政策による領土拡大で、アメリカ、カナダ、インド、オーストラリアなどが植民地となり、これらの国の公用語は英語となりました。さらに、20世紀に入ると、アメリカ英語が急速に広まりました。現在の英語の使用人口は最低でも16億人で、主要国際機関の公用語として、ビジネス、科学技術、スポーツ、放送、新聞、音楽の分野などでも英語が利用されています。</p> <p>本ゼミナールでは、英語がどのように発展してきたのか、この英語を公用語としているイギリスやアメリカといった国々は何のような歴史をもち、どのような文化を築いてきたのか、といったことをテーマとします。</p> <p>【概要】 1500年余におよぶ英語の歴史を年代別に分けて、それぞれの年代の英語の特徴を学びます。さらにイギリス、アメリカ、カナダの歴史や文化を、チームに分かれて調べて発表し、講評し合います。それらをふまえた上で、各自興味のあるテーマをみつけて、文献検索、発表し、レポートにまとめます。</p> <p>【授業の方法】 前半は決められたテーマをもとにゼミ生がレジュメを準備して、発表し、互いに講評し合います。また後半はゼミ生が興味あるテーマを考えて、文献検索、話し合いながらまとめて発表します。ゼミ生同士の主体的学びを中心とするアクティブラーニング形式で授業を進めていきます。</p> <p>共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	○	◎	○	○	
担当科目	英語Ⅰ・Ⅱ、基礎英語		関係する科目	英語、言語学、外国史			
テキスト	その都度指定します。						
参考書	その都度指定します。						
成績評価方法	授業やゼミ行事の出席状況、ゼミへの貢献度を総合的に評価します。						
年間授業計画	(春学期)			(秋学期)			
	春学期はイギリス、アメリカの歴史や英語の歴史についてゼミ員に発表してもらい、半期のまとめとしてレポートを作成してもらう予定です。また秋のゼミ発表会のテーマを決めます。			秋学期は春学期に決めたテーマにしたがってデータや資料収集をし、発表の準備をしてもらいます。また、発表後は、発表のまとめとしてレポートを作成してもらう予定です。			

ゼミ名	降旗第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新2年生 10名程度 新3年生 若干名	担当教員	降旗 徹馬
選考方法	面接						
研究テーマ	データドリブン経営入門 - ビジネス・データリテラシー						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標と概要】</p> <p>降旗ゼミナールは、経営工学について研究するゼミナールである。経営工学は、組織の合理的経営に貢献する技法や問題解決法として、しばしば紹介されるが、その対象範囲は広く、学修する上で、多くの知識やスキルを必要とする。最終的には4年次の卒業研究において、自己の設定したテーマに基づき卒業論文を執筆することになるが、その前提となる知識とスキルを身につけるため、本ゼミナールは学年別に開講することにした。つまり、第一ゼミナールは2・3年生を、第二ゼミナールは4年生をそれぞれ対象にしている。</p> <p>第一ゼミナールでは、経営工学の調査・研究を遂行するための基礎的な能力を身につけるための講義・演習を行う。例題やケースは担当教授が設定し、解説を加え、メンバーはその解答を得るための演習を行う。これは数量的実証的アプローチのためのスキルだけでなく、情報リテラシーの涵養も合わせて行うことも含意している。そのため、経営・情報関連の知識・技能獲得、ならびに、表計算ソフトを応用して、多様な情報を適正に判断し、グラフ化やデータ集計、数量的分析手法など、問題解決に必要な情報の分析・整理を行うための講義・演習といひ換えることもできる。</p> <p>また、担当教授が所属する学会および関係機関が主催する講演会、セミナー、交流会、研修会、インターンシップ、コンテストなどへの参加を推奨しており、対外的な広い意味でのコミュニケーション能力の養成も視野に入れている。</p>						
	<p>【授業の方法】</p> <p>担当教授が設定した例題やケースについて、自らが解答を導き出せるよう講義・演習を行う。</p> <p>共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p> <p>【過去のゼミ発表テーマ】</p> <p>インバウンド動向のグラビティモデル分析、ジェンダーダイバーシティと企業業績の関係、コンビニ大手3社の立地戦略、日本企業の産業別生産性、情報通信産業における研究開発費の効率性、日本プロ野球球団の経営効率性、自動車の価格対費用の分析、サブスクリプション・ビジネスの展開、集合知の活用、など</p> <p>【ゼミ生の主な対外的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日本経営工学会 2010 年度実践教育実習(インターンシップ)にゼミIIIの3名が参加(実習内容は「工場管理, Vol.56, No.12, pp.68-70」に掲載) ● 日本経営工学会ユースプロジェクト文系専門ゼミ交流会 2010 にてゼミIII学生が研究発表(イベント内容は日本経営工学会機関誌「経営システム, Vol.20, No.5, pp.291-292」に掲載) ● 日本経営工学会ユースプロジェクト文系専門ゼミ交流会 2011 にてゼミII学生が研究発表(「優良賞」を受賞・イベント内容は日本経営工学会機関誌「経営システム, Vol.21, No.5, pp.260-261」に掲載) ● 日本経営工学会ユースプロジェクト文系専門ゼミ交流会 2012 にてゼミIII学生が研究発表(「優秀賞」を受賞・イベント内容は日本経営工学会機関誌「経営システム, Vol.23, No.1, pp.65-66」に受賞写真付きで掲載) ● NTTドコモ・モバイル社会研究所レポートコンテスト2013 にゼミIIIの学生1名が投稿(「ファイナリスト賞」を受賞) ● NTTドコモ・モバイル社会研究所レポートコンテスト2014 にゼミIIIの学生1名が投稿 ● 野村総合研究所・学生小論文コンテスト2015 にゼミIIIの学生1名が投稿 ● NTTドコモ・近未来社会学生コンテスト2015 にゼミIIIの学生1名が投稿 ● ConCom2020(大学生コンサルティングコンペティション)にゼミIIIの学生2名が参加(本選へ進出) ● ConCom2022(大学生コンサルティングコンペティション)にゼミIIIの学生3名が参加 ● ConCom2023(大学生コンサルティングコンペティション)にゼミIIIの学生3名が参加 						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	○	○	
担当科目	経営工学, 応用表計算, マルチメディア (ゼミ生は受講のこと)		関係科目	経営・情報関連科目全般(幅広く受講することが望ましい)			
テキスト	必要に応じてゼミナール中に紹介する。						
参考書	必要に応じてゼミナール中に紹介する。						
評価方法	出席や積極的な参加態度を重視すると同時に、ゼミナールでの研究成果を総合的に評価する。						
授業計画	(春学期) 以下の講義・演習を行う。 ● 経営・情報に関する最近の話題提供 ● 上記に関連する文献研究 ● ビジネス・データリテラシー演習			(秋学期) ● 経営工学の研究を遂行するための例題・ケースを設定し、表計算ソフト・SPSS・Pythonを用いた演習を行う。 ● その他ゼミナールのイベントに関しては、メンバーと協議の上、決定する。			

ゼミ名	降旗第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新4年生(募集なし)	担当教員	降旗 徹馬
選考方法	募集なし						
研究テーマ	データドリブン経営研究 - 経営工学に関わる卒業研究プロジェクト						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 われわれ人間は地上にいて、当然、目で見ることのできる狭い範囲のことしかわからない。ところが、鳥は上空を飛行し、広い範囲を見渡し、その高い視力からどこに獲物があるかを瞬時に把握することができる。本ゼミナールの目的は、まさにこの「鳥の目」を持つことである。つまり、対象を頭の中に「鳥瞰図」として描き出し、問題がどこにあるのかを見出す能力を養成することを理想としている。科目「経営工学」では、経営における鳥瞰図を描き出すことを意図して、データ分析、需要予測、経済性分析、意思決定と計画・マネジメント手法などの比較的広い範囲の内容を取り上げている。</p> <p>【ゼミナールの概要】 降旗第二ゼミナールは、第一ゼミナールにて培った基礎能力および3年次の経営工学単位取得を前提として、3年次のゼミナール活動の中で興味を持った自己の個別研究テーマに基づき、そのテーマに関する専門性を深化させるべく、研究を進める。テーマは担当教授が指導可能なテーマに限定されることになるが、その範疇ならば自由に設定することができる。卒業後、自己の研究テーマに沿った職業につけるとは限らないが、一つのテーマに真剣に打ち込み、問題解決に向けたアプローチを体得することができれば、別の問題に直面したときにも同様のアプローチにて問題に取り組むことができるものと期待している。 また、担当教授が所属する学会および関係機関が主催する講演会、セミナー、交流会、研修会、インターンシップ、コンテストなどへの参加を推奨しており、対外的な広い意味でのコミュニケーション能力の養成も視野に入れている。</p> <p>【授業の方法】 各自が設定したテーマに基づき、自らが解答を導き出せるよう講義・演習を行う。</p> <p>【過去の卒業論文テーマ】 コンビニエンスストア・チェーンの立地傾向と人口分布の比例関係について、企業価値評価における ESG 報告と統合報告について、Google Trends を用いたナウキャスト—iPhone の販売予測を事例に—、注目が集まる CSV、ケータイ利用料金は高いのか？—サービス価値との対比から—、情報セキュリティ関連制度の導入効果及び ISMS 適合性評価制度に対する課題、普及する子供向けケータイの提案、など</p> <p>【ゼミ生の卒業後の主な進路】 AOKI ホールディングス(アニヴェルセル)、宮内庁生活協同組合、警視庁、ケーユーホールディングス、JR 東日本ステーションサービス、ゼンインレブ・ジャパン、タイトー、高千穂大学大学院、DELL、東京商工リサーチ、東和フードサービス、ハイマックス、パルホールディングス(パル)、フォーカスシステムズ、みずほフィナンシャルグループ(みずほ証券)、横浜信用金庫、ワコールなど</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	○	○	
担当科目	経営工学, 応用表計算, マルチメディア		関係する科目	経営・情報関連科目全般			
テキスト	必要に応じてゼミナール中に紹介する。						
参考書	必要に応じてゼミナール中に紹介する。						
評価方法	出席や積極的な参加態度を重視すると同時に、卒業論文での研究成果を総合的に評価する。						
年間授業計画	(春学期) 担当教授と相談の上、自己の個別研究テーマの選定を行い、研究を進める。			(秋学期) 春学期の成果に基づき、卒業論文を執筆し、4年間の学生生活の集大成を行う。ゼミナールのイベントについては、同様にメンバーで協議の上、決定する。			

ゼミ名	松崎第一ゼミナール (Seminar)		学部	経営学部	募集学年	新2年生 15名 新3年生 0名	担当教員	松崎 和久
選考方法	面接（ゼミ生による面接があります） （求める学生） ・真剣な学生 ・まじめな学生 ・がんばる学生							
研究テーマ	優れた企業の戦略や経営のやり方を学ぼう							
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>トヨタ、キャノン、セブンイレブン、花王など、これらの企業の名前を聞いたことがあります？ どれも日本を代表する優秀企業ですが、ここで素朴な質問。個々で取り上げた企業に共通する優れた点とはなんだろう？ 革新的な技術力を保有している、カリスマ経営者が存在する。現場重視のマネジメントが功を奏している等、いろいろ考えられます。それでは、さらに質問。じゃ、これらの優れた企業と一般にダメな企業を比較するとどんな違いがあるのだろう？…。授業は、こんな感じで教員と学生との間でフリートークをします。みんなに自由に持論を言い合いますので、雰囲気はまさにおしゃべりなのです。</p> <p>本ゼミが取り組んでいるテーマは、ずばり、大企業から中小企業までを含む優秀企業の研究です。優れた企業が有する技術や知識、戦略と組織、マーケティングテクニックを深く研究します。</p> <p>研究の方法は、第一に専門図書や雑誌をふんだんに利用します。特に「日経ビジネス」は積極的に活用しています。文献研究の結果、優秀企業が決まったら、第二に企業調査、アンケート調査を実施します。もちろん、企業にお願いしても“ノー”といわれることもあります。可能な限り“行って見て話す”を実施します（過去の学生調査の実績では、三洋電機、日本電産、トヨタ、大田区の中小企業などがあります）。第三に文献研究と企業調査を踏まえ、ゼミとしての見解をまとめます。優秀企業の強さの秘密とは何なのか。そして、我々が学ぶべきベスト・プラクティクス（最善の方策）とはどんなものなのだろう。ともかく、議論、議論、議論です。最後に、徹底した議論ののち、ゼミとしての最終的な答えを文章化します。つまり、暗黙知から形式知への転換を図ります。</p> <p>本ゼミの概要は以上です。参考にしてください。なお、本ゼミで求めている学生像は次の3つ。「真剣な学生」「まじめな学生」「がんばる学生」です。</p> <p>本ゼミナールでは、企業研究と併せて、毎年、インナー大会プレゼン部門へ出場しています。近年の成績は下記の通りです。 第51回 日本学生経済ゼミナール関東部会（中央大学）一次予選出場（ベスト142）☆こみゅ班☆きっかけ図鑑 交流促進ツール 第52回 日本学生経済ゼミナール関東部会（日本大学）二次予選出場（ベスト20）愛ペット班 高齢者を高齢者が支えるコミュニティ 第53回 日本学生経済ゼミナール関東部会（法政大学）本選出場（ベスト11）チームおんなのこ3Dnavi（178参加ゼミ中、8位） 第54回 日本学生経済ゼミナール関東部会（明治大学）二次予選出場（ベスト20）ロコモ班 若年層の生活改善アプリ</p> <p>なお、毎年2回合宿を行っています。最近は、能登、佐世保、浜松、奈良など旅行と研究を兼ねて実施しています。また、OB、OGを交えながら定期的にコンパを開催し、親睦を図っています。</p> <p>【授業の方法】 ゼミの進め方は、教員と学生間における質疑応答、つまり、相互のディスカッションで行います。このため、自分の意見をはっきり伝える必要があります。</p>							
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 （◎特に重要／○重要）							
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力			
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	① コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	② 倫理観と社会的責任	
◎	◎	◎	○	◎	○	○		
担当科目	国際経営論、経営戦略論、経営学概論			関係する科目	マーケティング、会計学			
テキスト	講義時に連絡します。							
参考書	講義時に連絡します。							
成績評価方法	ゼミへの取り組み、意欲によって評価します。							
年間授業計画	(春学期) 講義時に連絡します			(秋学期) 講義時に連絡します				

ゼミ名	松崎第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	募集なし	担当教員	松崎 和久
選考方法	—						
研究テーマ	企業とは何か、戦略とは何か						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【研究の内容】 今日の日本企業では連結がキーワードとなっています。従来の日本企業は人、モノ、カネ、情報・ノウハウに至るまで親会社中心でした。つまり、子会社は親会社の受け皿、緩衝器であったのです。ところが近年会計や経営の国際標準化が進み、親会社と子会社の両方がハッピーであることこそ大切であるという考え方に変わると共に、単独から連結そしてグループという概念が次第に重要となってきました。まさにグループの運営、調整そして相乗効果が大切な時代となったといえるでしょう。</p> <p>一方、我々個人は、国や企業そして組織の一員であり、それらに守られながら安定した生活を可能にできました。ところが、国の借金が膨らみ、企業はリストラや倒産し、組織では365日同じ人間と顔を合わせ人間関係に苦しむ等、これまで通り、国や企業、組織に守られて安定した生活を実現することは、将来どう考えても難しいと思われまます。今こそ、他人に頼らず、自分の力で世の中に必要とされる人間になるべき時代が到来したのであり、我々は自分を自分で管理し得る能力を身につけなければなりません。さらに今日の企業の競争優位は個性、すなわち、セルフ・マネジメントができる人間の有無によって決定されるのであり、言いたいことがのどまで来ているのに飲みこんでしまうような時代はもはや過ぎ去ろうとしているのです。</p> <p>以上を踏まえゼミナールでは、グループのマネジメント、個人のセルフ・マネジメントについて研究を行います。</p> <p>【授業の方法】 ゼミの進め方は、教員と学生間における質疑応答、つまり、相互のディスカッションで行います。このため、自分の意見をはっきり伝える必要があります。また、テキストの輪読、文献研究を通じて企業調査をおこないます。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要／○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	① コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	○	◎	○	○	
担当科目	国際経営論、経営戦略論、経営学概論			関係する科目			
テキスト	講義時に連絡します。						
参考書	講義時に連絡します。						
成績評価方法	ゼミへの取り組み、意欲によって評価します。						
年間授業計画	(春学期) 講義時に連絡します			(秋学期) 講義時に連絡します			

ゼミ名	村上第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新2年生 10名	担当教員	村上 誠
選考方法	面接						
研究テーマ	企業を取り巻く法制度に関する研究						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 このゼミの目標は、会社法・金融商品取引法を中心に企業を取り巻く法制度に関する知識を身に付けることです。会社法・金融商品取引法は大学生にとってはイメージがつかみにくく、難しいと感じる場合も少なくないと思いますが、この2つの法律を中心に企業を取り巻く法制度について学び、就職後にその知識を活かしていきたいと考える人を歓迎します。</p> <p>【ゼミナールの概要】 このゼミでは、会社法・金融商品取引法を中心とした企業を取り巻く法制度に関する研究を行います。金融商品取引法は「上場会社に対する規制」「投資に関する規制」「金融商品取引業者に対する規制」などを主な柱とする法律です。大学生にとっては縁遠い法律のように思われるかもしれませんが、上場会社、証券会社、銀行などに就職した場合や株式投資をしてみようと思った場合などに金融商品取引法の知識が役に立ちます。また、会社法については、株式会社制度の基本を確認しつつ、上場会社の企業統治（コーポレート・ガバナンス）について、研究していきたいと考えています。なお、ゼミの運営は受講者と相談の上で決定します。</p> <p>【授業の方法】 テーマごとに報告者を決め、レジュメをもとに担当のテーマについて報告してもらった上で、ゼミ全体で議論していきます。共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	○	○	○	◎	
担当科目	企業法、法律学	関係する科目	企業法（企業形態法）、企業法（株式会社法） 金融総論、証券論				
テキスト	適宜指示する。						
参考書	適宜指示する。						
成績評価方法	出席及び平常点で成績評価します。						
年間授業計画	(春学期) 会社法・金融商品取引法の基礎知識の習得			(秋学期) 受講者と相談の上で決定			

ゼミ名	村上第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新3年生 0名 新4年生 0名	担当教員	村上 誠
選考方法	募集なし						
研究テーマ	企業を取り巻く法制度に関する発展研究						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 3年生は2年次のゼミで習得した、会社法・金融商品取引法を中心とする企業を取り巻く法制度に関する知識をもとに、研究テーマを選定し、それを研究発表としてまとめることを目標とします。 4年生は2、3年次の研究成果をもとに、卒業論文を完成させることを目標とします。</p> <p>【ゼミナールの概要】 3年生は研究発表に向けて、研究テーマの選定と文献調査をまず行います。 その後、発表内容の大枠を決定した上で、より詳細な調査を行い、最終的に研究発表としてまとめます。 4年生は卒業論文のテーマ選定から始まり、ゼミ内での中間発表を経て、卒業論文を完成させます。 中間発表を行うことで、より深く検討すべきことや完成までのスケジュールを再確認し、内容、分量とも充実した卒業論文となることを目指します。</p> <p>【授業の方法】 3年生には研究発表に向けて自身の担当箇所について報告してもらい、ゼミ全体で議論していきます。 4年生は就職活動と並行しながら卒業論文の準備を進めていくことになるため、個々人の状況に合わせて個別に対応します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	○	○	○	◎	
担当科目	企業法、法律学	関係する科目	企業法(企業形態法)、企業法(株式会社法)				
テキスト	適宜指示する。						
参考書	適宜指示する。						
成績評価方法	出席及び平常点で成績評価します。						
年間授業計画	(春学期) 3年生： 研究テーマの選定・文献調査 4年生： 卒業論文のテーマ選定・文献調査			(秋学期) 3年生： 研究発表に向けた報告と取りまとめ作業 4年生： 卒業論文の中間報告・執筆			

ゼミ名	森平第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新2年生 募集無し 新3年生 募集無し	担当教員	森平明彦
選考方法	募集無し						
研究テーマ	ビジネス法 (独占禁止法や労働法)						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>⑦「人々の生活を守るビジネス法を学ぶ」 身近な職場の環境で、自らの命と生活を守る法律を勉強しましょう。 「明日から来なくていい。解雇します」と言われた時、「それでは、今日から1か月分の給与をいただきます」と反論できるか、 業界の集まりで価格の話が出たとき、即座に席を外す行動がとれるか(さもないと独禁法違反)、 これらによって、あなたのその後の人生は大きく変わるでしょう。 法律には権利救済の側面があり、それは弱者の力になります。要はそれを使いこなすため、協力してくれる人とつながることができるかが大切でしょう。社会に出て行ったときに、確実に役に立つ法的知識を身につけてください。 コロナ前になりますが、十数年前にゼミを巣立っていた連中と盛り上がりました(新宿)。 白根のセミナーハウス合宿をやり、徹夜で卓球大会をやった思い出がよみがえりました。皆、ユーモアに溢れて、他の人を楽しくさせる術にたけていた連中でした。 あの頃のゼミをもう一度!</p> <p>あなたは、将来大きな困難であったとき、それを克服できる自信がありますか。新宿で盛り上がった連中は、そういった困難なときに、自分を客観視できる、ユーモアの力で乗り越えてきたことを実感しました。笑顔が自らを救ったのです。 ゼミの学びと他者との集いで、笑顔を忘れないでください。</p> <p>【授業の方法】 関心のある問題を探し出し、問題点の探索、関連学問領域へも眼を向けながら論文を読み、判例と法律の解釈を学びます。 サブゼミで下調べ、本ゼミで発表とお互いに批判しあう討論を合わせてワンセット。 共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
⑧到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎			○	◎	◎		
担当ゼミ教員	法律学(生活と法)/(社会と法) 経済法 A/B 外書購読 A/B	関係する科目	経済法や労働法など				
テキスト	2月から3月に独占禁止法や労働法の入門テキストを皆で読みます						
参考書	⑫別に指定します						
成績評価方法	⑬出席及びゼミ発表等の貢献により評価						
年間授業計画	(春学期) 主要テーマを選んで、毎回パワーポイントで各自報告し、議論する			(秋学期) テーマを絞り込んで、ゼミ発表会に向けて問題点を掘り下げ、プレンの練習。 ゼミ発表会後は、関連問題を復習。			

ゼミ名	森平第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	募集無し	担当教員	森平明彦
選考方法	募集無し						
研究テーマ	卒業論文作成						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>卒論指導を行います。 これまで2年生3年生のゼミナール活動で学んだビジネス法の学習知識をもとに、集大成としての、論文への成果の集約を行います。 それぞれの4年生が、養ったゼミでの研究発表の経験と知識を踏まえて、論文テーマの選定を行ってください。 その後関連資料の収集と読み込み、問題点の絞り込む分析の努力してください。 執筆時は適宜、指導教員の指示を仰ぐこと</p> <p>【授業の方法】 関心のある問題を探し出し、問題点の探索、関連学問領域へも眼を向けながら論文を読み、判例と法律の解釈を学びます。 サブゼミで下調べ、本ゼミで発表とお互いに批判しあう討論を合わせてワンセットにしています。</p>						
⑧到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎		○	○				
ゼミ担当科目	法律学(生活と法)/(社会と法) 経済法 A/B 外書購読 A/B	関係する科目	法律学 A/B(生活と法、社会と法) 経済法 A/B				
テキスト	色々、最近の気になったニュースに触れ、時事問題が重要なとき、指示します						
参考書	上に同じ						
成績評価方法	出席と発表等の貢献により評価						
年間授業計画	(春学期) 法律学(生活と法や社会と法)の授業で学んだビジネス関連の法律を復習して、皆の問題意識を開拓します。			(秋学期) 提出前の発表会 提出後の後輩への発表			

ゼミ名	山里第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新2年生5名 新3年生5名	担当教員	山里盛文
選考方法	選考方法：エントリーシート面接 応募条件：新2年生は、法律学（生活と法）・法律学（社会と法）のいずれかを履修していること 新3年生は、法律学（生活法）・法律学（社会と法）・民法（法律行為）・民法（債権）のうち2科目以上履修していること						
研究テーマ	民法・消費者法に関する研究						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 民法は、私たちの生活と密接に関係する法律であり、この国の基本となる法律でもあります。また、私たちは、皆、消費者であり、消費者法は、消費者と事業者との関係を規律する法律の集まりです。このゼミでは、このように私たちの生活と密接に関係する法律を研究します。また、民法と消費者法の研究を通して論理的思考方式を習得し、普段の生活に活かすことができることを目標とします。</p> <p>【ゼミナールの概要】 民法と消費者法（主に消費者契約法）の基本的問題について、判例・事例研究やテーマ研究を行います。</p> <p>【ゼミナールの方法】 報告担当者またはグループ（どちらになるかは、履修者の数によります）による報告と報告者・報告グループ以外のゼミ生との議論 共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
担当科目	民法（法律行為）（債権）（契約）（物権変動と担保） 法律学（生活と法）（社会と法）	関係する	民法（法律行為）／（債権）／（契約）／（物権変動と担保） 法律学（生活と法）／（社会と法）				
テキスト	適宜、指示します						
参考書	適宜、指示します。						
成績評価方法	出席 議論への参加などの平常点						
年間授業計画	(春学期) 民法についての研究を行います。			(秋学期) 消費者法についての研究を行います。			

ゼミ名	山里第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	募集なし	担当教員	山里盛文
選考方法	募集なし						
研究テーマ	卒業論文作成						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 民法は、私たちの生活と密接に関係する法律であり、この国の基本となる法律でもあります。また、私たちは、皆、消費者であり、消費者法は、消費者と事業者との関係を規律する法律の集まりです。このゼミでは、このように私たちの生活と密接に関係する法律を研究します。また、民法と消費者法の研究を通して論理的思考方式を習得し、普段の生活に活かすことができることを目標とします。</p> <p>【ゼミナールの概要】 民法と消費者法（主に消費者契約法）について、卒業論文の指導を行います。</p> <p>【ゼミナールの方法】 卒業論文について研究発表を行います。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
ゼミ担当教員	民法（法律行為）（債権）（契約）（物権変動と担保） 法律学（生活と法）（社会と法）	関係する	民法（法律行為）／（債権）／（契約）／（物権変動と担保） 法律学（生活と法）／（社会と法）				
テキスト	適宜指示します。						
参考書	適宜指示します。						
成績評価方法	ゼミへの参加姿勢および卒業論文						
年間授業計画	卒業論文のテーマの決定 卒業論文の作成			卒業論文の作成			

ゼミ名	赤羽根第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新2年生 10名程度 新3年生 募集なし	担当教員	赤羽根 和恵
選考方法	エントリーシートと面接						
研究テーマ	人材育成とキャリア形成						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【研究の内容】 これからの働き方と個人の主体的行動による自律的なキャリア形成について研究を行います。大半の学生は卒業と同時に企業等に就職をしていきますが、企業経営を取り巻く環境の変化や、企業の人材育成、多様な働き方にはどのような課題があるか、それが個人の自律的なキャリア形成にどのような影響を与えるか、みなさんの関心のあるテーマを見つけてください。</p> <p>研究テーマの例としては、「新卒者の採用と定着」、「正規雇用と非正規雇用」、「ダイバーシティ経営」、「女性のキャリア」、「女性活躍推進」、「育児・介護」、「再就職」、「ワーク・ライフ・バランス」、「リーダーシップ開発」、「企業の人材育成」、「働く人のメンタルヘルス」等、長期的に働く上で誰もが直面しうるテーマが考えられます。</p> <p>【学習の方法】 「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献と「企業の人材育成」に関する文献を読み、論点の整理を行い、自分の意見を述べるようにします。日本経済新聞やテレビニュースから、現在起きている働く人を取り巻く環境の変化や問題を知りましょう。そして、ご家族やアルバイト先等の職業を持っている方の話を聞く等、積極的に職業とキャリアについて話し合う場を設けてください。</p> <p>【授業の方法】 個人で作成したレポートや、グループでの研究発表を行います。事例を取り上げてグループで議論をするアクティブ・ラーニングを取り入れ、自分の意見を述べ様々な考えに触れる機会を設けます。ミニ論文の作成・発表も行い、2年次より、「卒業論文」の執筆に向けた準備と、プレゼンテーションの場を経験していきます。</p> <p>必要に応じて外部講師をお招きすることや、他大学との合同ゼミ、希望がある場合には介護施設や子ども食堂等に行き地域との交流を深めるといった学内外の活動も行いたいと思います。</p> <p>共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要／○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	◎	◎	◎	○	
担当教員	キャリアデザイン論 AB、キャリアデザイン論、キャリア心理学	関係する科目	キャリアデザイン論、キャリア心理学、経営組織論、経営労務論、経営心理学等				
テキスト	開講時にお知らせし、購入していただきます。						
参考書	適宜配布、または購入していただきます。						
成績評価方法	出席、課題への取組み、発表、ゼミ活動への参加・貢献、ミニ論文の執筆の内容とプレゼンテーション等を重視して総合的に評価をします。						
年間授業計画	(春学期) ①～⑭ テキスト・資料の輪読 研究テーマの検討と資料収集 文献研究、研究発表 調査・研究の計画立案 ゼミナール発表会の準備等 ⑮ 春学期の振り返り、夏休みの課題の提示			(秋学期) ①～⑭ ゼミナール発表会の準備 研究テーマの検討と資料収集 文献研究（先行研究の精読・整理） 調査・研究の計画立案 ミニ論文の執筆・発表・提出 ⑮ 秋学期の振り返り、春休みの課題の提示			

ゼミ名	赤羽根第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部	募集学年	新4年生 募集なし	担当教員	赤羽根 和恵
選考方法	—						
研究テーマ	人材育成とキャリア形成						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【研究の内容】 第一ゼミナールでの研究を踏まえて、各自が興味・関心・問題意識を持って取り組むテーマを決定して研究を行い、卒業論文を完成します。 誰もが仕事を通じたいずれかの局面で経験しうる問題をテーマとしているため、客観的かつ複数の視点で考えることが重要です。論理的に考えて問題を解決する力を培うことになります。 大学4年間の集大成となるよう集中して専門的な研究に打ち込みましょう。やり遂げたという達成感を持って社会に出て、職業キャリアのスタートを切ってほしいと願っています。</p> <p>【学習の方法】 各自のテーマに合った文献研究、アンケート調査やインタビュー調査を実施して分析を行います。アクティブ・ラーニングを行うため常に自分事として考えること、他者の考えを受け入れること、グループで意見をまとめて発表すること、常に役割を考えること等、主体的な学びを行います。 引き続き日本経済新聞やテレビニュースから、現在起きている働く人を取り巻く環境の変化や問題を知りましょう。そして、ご家族やアルバイト先等の職業を持っている方の話を聞く等、積極的に職業とキャリアについて議論をして、考える機会を設けてください。</p> <p>【授業の方法】 教室での個人指導又はグループ指導を行います。各研究テーマをアクティブ・ラーニング及びプレゼンテーションによって意見交換を行います。自分の卒業論文の研究テーマだけでなく、友人の研究テーマについても関心を持ち、質問ができるように積極的に学ぶことで、視野が広がり考えが深まる効果が期待できます。 また、必要に応じて外部講師を招聘、他大学との合同ゼミを行う等、学内外の活動も考えております。 共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要／○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
担当科目	キャリアデザイン論 AB、キャリアデザイン論、キャリア心理学		関係する科目	キャリアデザイン論、キャリア心理学、経営組織論、経営労務論、経営心理学等			
テキスト	テーマに合ったテキストを指示します。						
参考書	必要に応じてお知らせします。						
成績評価方法	卒業論文の執筆のプロセスと内容を重視しますが、ゼミ活動への参加・貢献も含め、総合的に評価をします。						
年間授業計画	(春学期) ② ～⑭ 研究テーマの検討と資料収集 文献研究 (先行研究の精読・整理) 仮説を立てる 調査・研究の計画立案 論文の章立て (案) 作成 ⑮ 春学期の振り返り、夏休みの課題の確認			(秋学期) ② ～⑭ 卒業論文の初稿執筆と修正、中間発表 卒業論文の第二稿執筆と修正、最終発表 完成論文の提出 ⑮ 秋学期の振り返り			

ゼミ名	大島ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部 《起業・事業承継コース》	募集学年	新2年生 若干名 新3年生 0名	担当教員	大島 久幸
選考方法	面接						
研究テーマ	企業および企業家に関する事例研究						
ゼミナールの目標と概要	<p>【授業の方法と内容：アクティブラーニング】本ゼミナールでは、毎年、他大学や外部の企業と合同してゼミ活動を進めています。近年実施したゼミの内容は下記の通りです。なお、ゼミは経営学部大島第二ゼミと合同で実施しています。</p> <p>①日本望遠鏡工業会との合同勉強会 戦後板橋区に集積した双眼鏡産業は戦後を代表する中小企業群として発展し、輸出産業化しました。その後、産地の衰退期を乗り切った中核企業が今も世界的な双眼鏡メーカーとして成長し続けています。本ゼミでは2年間にわたりほぼすべての日本の双眼鏡メーカーの社長へのヒアリングを実施して、一般社団法人日本望遠鏡工業会(会長：木村眞琴ニコン相談役)と合同で、東京の地場産業「双眼鏡」に関するシンポジウムを立教大学で開催しました。当日は合同ゼミを実施している立教大学の岡部ゼミと併せたゼミ生約40人と同工業会の会員企業約50社が参加し、活発な討論が行われました。</p> <p>②帝国データバンク史料館との合同勉強会 本ゼミでは10年以上にわたって企業博物館の一つである帝国データバンク史料館と合同で勉強会を続けています。株式会社帝国データバンクが保有する企業情報データのCOSMOSデータ(全国約145万社の企業情報データベース)を活用させていただき、老舗企業や産地企業の動向などの分析を行っています。その研究成果は大島久幸「老舗に見るファミリービジネス」『アジア研究』18(2019年3月)として発表しました。</p> <p>③他大学との合同勉強会 帝国データバンク史料館との合同勉強会は立教大学経済学部との合同勉強会として開催しました。そのほか、慶應大学経済学部中西聡ゼミ・橋口勝利ゼミ、明治大学経営学部佐々木聡ゼミ、駒澤大学経済学部渡邊恵一ゼミと合同の勉強会を10年以上にわたって開催し、年末には100人を超える学生たちと合同で発表会を実施しました。</p> <p>【その他】4年生は卒業論文の執筆を行います。詳しくは大島第二ゼミナールのシラバスを参照してください。</p> <p>共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎		◎			
ゼミ担当科目	経営史、企業家論		関係する科目	経営史、企業家論、経営学関連科目			
テキスト	課題に応じて、広く収集します。必要な資料をいかに集めるかも重要な学習となります。						
参考書							
成績評価方法	ゼミへの参加度によって総合的に評価します。欠席は認めません。						
年間授業計画	(春学期)			(秋学期)			
	①～②仮テーマの設定 ③ 本年度テーマの設定 ④～⑩インタビューや資料の収集と仮説の設定 ⑬～⑮ 最終的な構成を決定			①～⑨論文の執筆 ⑩ 成果の報告会の実施 ⑪～⑮ 論文の修正と最終論文の執筆			

ゼミ名	城第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部 《起業・事業承継コース》	募集学年	新2年生 15名まで 新3年生 若干名	担当教員	城 裕昭
選考方法	面接						
研究テーマ	スタートアップとビジネス・イノベーション						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 皆さんは、大学を卒業してからのやるべき目標やありたい姿を明確に持っていますか。また、どこまで腹落ちできているでしょうか。業種や職種の違いこそあれ、多くの方はビジネスの世界に入っていくことでしょう。このゼミでは、大学で学ぶアカデミックな知識を整理し、それらをビジネスの世界でどのように活用していくかを考え行動することで、学問とビジネスの橋渡しを目指していきます。</p> <p>研究テーマに挙げている「スタートアップ」は3つの意味があります。具体的には、①アントレプレナー（独立起業家）、②イントレプレナー（社内起業家）、③事業承継です。いずれの場合もビジネスの本質を理解しながら「実学」として多くを学び、経験し、身に付けていく必要があります。</p> <p>例えば、あなたが素晴らしい商品やサービスのアイデアを持っているとします。そのアイデアを実現させるにはどうすれば良いのでしょうか。まずは、その商品やサービスを受ける側の人びと（ターゲット顧客）が誰なのかを考え、どうすれば彼ら・彼女らの評価を得られるのか、思考を巡らせながら、戦略や戦術をプランニングしていく必要があります。そして、どうすれば儲かるビジネスに展開していけるか、考えることです。</p> <p>一人で短期間に上達しようとしても無理があります。ゼミの仲間と相談し、気づき、お互い切磋琢磨しながら、「経営力」として身に付けていきましょう。</p> <p>【授業の方法】 ※アクティブ・ラーニングを中心にを行います。 ・2年生と3年生で協働し、成果を出します。 ・5～6名でチームを組み、企業研究やビジネスモデル（儲けのしくみ）を検討します。 ・企業経営の成功事例をケースとし、経営のコツを学びます。 ・マネジメント力、プロデュース力を養います。 ・今のスタートアップにITは不可欠です。ITの利活用を学び、実践します。（EC実践やノーコード開発など） ・共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要／○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	① コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	② 倫理観と社会的責任
◎	○	○	◎	◎	◎	◎	
担当科目	企業経営実習（通年）、事業計画論 A/B		関係する科目	事業計画論、企業経営実習、企業研究、事業創造論、中小企業経営論、経営管理論、マーケティング関連科目情報関連科目 など			
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業庁 最新版『中小企業白書』『小規模企業白書』 その他、随時説明します。 						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 田舞徳太郎『月刊 理念と経営』コスモ経営出版 その他、随時説明します。 						
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 通年評価とします。 ゼミへの貢献度（取り組み姿勢）を評価します。 起事コースの各イベント（春・秋の経営特別講義、2年生の企業実地研修、ゼミ発表会、卒業研究発表会）は参加必須行事とし、不参加を認めません（正当な理由なく不参加の場合、大幅な減点評価となります）。 期初に自身で目標を設定 教員と面談し調整、期末に達成度合を自己評価し、教員と面談します。 無断欠席は認めません（大幅な減点評価となります）。 						
年間授業計画	(春学期) <ul style="list-style-type: none"> オリエンテーションとチームビルディング コミュニケーションイベント テーマ策定とスケジューリング ビジネス（業界）研究、フィールドワーク 2年生の企業実地研修 			(秋学期) <ul style="list-style-type: none"> 資料の作成 中間レビュー プレゼンテーション力の強化 ゼミ発表会 卒業研究発表会 			

ゼミ名	城第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部 《起業・事業承継コース》	募集学年	新4年生 募集なし	担当教員	城 裕昭
選考方法	面接						
研究テーマ	卒業研究発表と卒業論文執筆						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 起業・事業承継コースは、ゼミ参加と卒業論文執筆が卒業のための必要要件となります。また、卒業論文がある程度固まってきた段階（12月）には、起業・事業承継コースの卒業研究会発表会が行われます。これは、卒業論文のテーマやストーリー、とりあげる論点や結論の方向性について各自がプレゼンテーションを行うという、いわば中間レビューのようなものです。これまで行ってきたゼミ I 発表や専門ゼミのゼミ発表はチームで対応してきましたが、この卒業研究の発表は個人単位です。大学生活の集大成となりますので、しっかりと時間をかけてつくっていきましょう。そういうわけで、城第二ゼミナールでは、この卒業研究発表と卒業論文執筆を最大の目標とします。</p> <p>私は研究テーマを決めるのに時間をかけても構わないと思っています。一生残るものですから、テーマ決めが一番の難所かもわかりません。実家でビジネスを行っている家業のあるゼミ生は、これこそ絶好の機会ですから、ご両親等がご苦労されてきたこれまでの歴史などをインタビューするなどし、整理し、そこから自分が何をやっていかなければならないかを考えてみてはいかががでしょうか。また、自分でビジネスを興したいと考えて起業・事業承継コースを選んだゼミ生は、これまでの学生生活で学んだり経験したりしてきたことをベースとして、立ち上げたいビジネスを改めて考えてみてはいかががでしょうか。</p> <p>私は大学教員の立場から、またもう一つの本業である経営コンサルタントの立場から、皆さんをしっかりサポートしていきたいと思えます。ぜひ、この立ち位置・関係性をうまく活用していただければと思います。</p> <p>4年生は、これ以外にもやらないといけないことがあります。一つめは卒業のための単位要件を満たすこと、二つめは就活を最後まで乗り切ることでしょう。これらについても相談に乗りますし、ゼミ生間で必要な情報交換をしていきましょう。これらを進めていく際に皆さんにのぞむことは、クイック・レスポンスに他なりません。</p> <p>【授業の方法】 ※アクティブ・ラーニングを中心に行います。 ・業界研究・企業研究や、ビジネスモデル（儲けのしくみ）を検討します。 ・卒業研究・卒業論文作成について、計画的に進めます。 ・共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	③論理的に考える力	④複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	⑤倫理観と社会的責任
◎	○	○	◎	◎	◎	◎	
ゼミ担当科目	企業経営実習（通年）、事業計画論 A/B		関係する科目	事業計画論、企業経営実習、企業研究、事業創造論、中小企業経営論、経営管理論、マーケティング関連科目情報関連科目 など			
テキスト	・中小企業庁 最新版『中小企業白書』『小規模企業白書』 ・その他、随時説明します。						
参考書	・田舞徳太郎『月刊 理念と経営』コスモ経営出版 ・その他、随時説明します。						
成績評価方法	・通年評価とします。 ・ゼミへの貢献度（取り組み姿勢）を評価します。 ・起事コースの各イベント（春・秋の経営特別講義、4年生の企業実地研修、卒業研究発表会）は参加必須行事とし、不参加を認めません（正当な理由なく不参加の場合、大幅な減点評価となります）。 ・期初に自身で目標を設定 教員と面談し調整、期末に達成度合を自己評価し、教員と面談します。 ・無断欠席は認めません（大幅な減点評価となります）。						
年間授業計画	(春学期) ・オリエンテーション ・個人（卒業研究）テーマの策定 ・スケジュールリング ・ビジネス（業界・企業）研究、フィールドワーク ・4年生の企業実地研修			(秋学期) ・中間発表（ゼミ内） ・プレゼンテーション力の強化 ・卒業研究発表会 ・卒業研究執筆 ・まとめ			

ゼミ名	藤木第一ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部 《起業・事業承継コース》	募集学年	新2年生 15名程度 新3年生 0名	担当教員	藤木寛人
選考方法	面接（シラバスの内容理解度を中心に選考します）						
研究テーマ	中小企業の新事業展開に関する研究						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【目標・概要】 中小企業の現状を見ると、後継者問題、企業数の減少、人手不足、売上高の伸び悩み等が大きな問題になっています。どのような製品・サービスであっても、コモディティ化、技術の変化、競合の登場など、いつかは市場規模が拡大しなくなり、売上高の伸び悩みを経験するものです。中小企業が成長するためには、既存事業に拘らず、市場環境の変化をビジネスチャンスと捉え、積極的に新市場の開拓や新規事業に取り組んでいかなければなりません。本ゼミナールでは、そうした市場環境の変化に対応し、新規事業に取り組むことで成長している中小企業について研究していきます。</p> <p>【授業の方法】 グループごとに研究テーマを与えますので、文献調査、ヒアリング調査、フィールドワーク調査などを行って研究を進めてください。また、各グループは隔週でレジュメ形式で研究発表を行ってください。研究発表を聞く方のグループは質問を行ってください。</p> <p>【その他】 ① 夏休み期間中に合宿を実施します。参加意思がない学生は受講しないでください。 ② 10月半ばに開催される高千穂祭に模擬店を出店します。参加意思がない学生は受講しないでください。 ③ 共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づき面談を実施します。</p>						
⑧到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】（◎特に重要／○重要）						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	
ゼミ担当科目	中小企業経営論、事業創造論、企業研究		関係する科目	中小企業経営論、事業創造論、企業研究、事業計画論、企業経営実習			
テキスト	テーマに沿って学生自ら資料を収集します。資料収集のノウハウを学修することも本ゼミナールの目標の1つです。						
参考書	なし						
成績評価方法	<p>「藤木ゼミの運営方針について(第5版)」に沿って成績評価を行います。詳細はEメール(ontrunt@takachiho.ac.jp)にてお問い合わせください。</p> <p><以下、一部抜粋></p> <ul style="list-style-type: none"> 企業実地研修（2年生、4年生対象）、経営特別講座（全学年対象）、卒業研究報告会（2～4年生対象）の参加対象者は、大学が欠席を認める事由を除き、出席を義務付ける。 各チームは隔週でレジュメ形式で研究発表を行う。発表を行わなかったり、発表内容に変化が見られない場合はチーム内のゼミ生全員が10点減点とする。 						
年間授業計画	(春学期)			(秋学期)			
	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマの設定 研究成果の発表 文献輪読 懇親会 			<ul style="list-style-type: none"> 研究成果の発表 フィールドワーク ゼミ発表会に向けた準備 合宿 高千穂祭 			

ゼミ名	藤木第二ゼミナール (Seminar)	学部	経営学部 《起業・事業承継コース》	募集学年	募集なし	担当教員	藤木寛人
選考方法							
研究テーマ	卒業論文指導						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【目標・概要】 藤木第二ゼミナールでは卒業論文指導を行います。初回ゼミまでに研究テーマを考えておいてください。また、12月初めに開催される卒業研究発表会の準備も同時に進めていきます。起業・事業承継コースの学生は卒業論文の執筆と卒業研究発表会での研究発表が必修となっています。四年間の学修の集大成となりますのでしっかりと取り組んでください。</p> <p>【授業の方法】 毎週 1000 字ずつ執筆し、ゼミの前日までに teams にアップロードしてください。個別に卒業論文指導を行い、添削→修正→添削を繰り返して卒業論文を完成させます。また、12月初めに開催される卒業研究発表会の準備も同時に行います。</p>						
⑧到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要／○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	○	○	○	
ゼミ教員 担当科目	中小企業経営論、事業創造論、企業研究		関係する 科目	中小企業経営論、事業創造論、企業研究、事業計画論、企業経営実習			
テキスト	なし						
参考書	なし						
成績評価方法	「藤木ゼミの運営方針について (第5版)」に沿って成績評価を行います。						
年間授業計画	(春学期) ● 卒業論文指導			(秋学期) ● 卒業論文指導 ● 卒業研究発表会			

ゼミ名	新井第一ゼミナール (Seminar)		学部	人間科学部		募集学年	新2年生 6名 新3年生 2名		担当教員	新井 健之	
選考方法	面接										
研究テーマ	指導法を中心とした体育・スポーツに関して										
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>運動（体育や各種スポーツ）の指導法を中心として、トレーニング科学・スポーツ心理学・野外教育・運動生理学・バイオメカニクス・スポーツマネジメントなど、様々な分野の研究のテーマとして受け入れる。例として、</p> <p>1. コーチング（様々な運動の指導法） 2. トレーニング（メンタルトレーニングから肉体改造まで、様々なトレーニング方法） 3. 野外教育（キャンプ・スキー・スノーボードなどの指導法や板の動き・人の動きなど） 4. スポーツ心理学（視覚情報処理と注意の関係など） 5. 体育科教育指導法（全般的体験を行いその中からテーマを絞り込む☆詳細は第二ゼミナールシラバスを参照）、などが考えられるが、関連分野の研究希望も受け入れ可能。</p> <p>第一ゼミナールでは、様々な演習を通して、研究に至るまでの基礎知識の習得、研究に対する基本的な考え方を学ぶ。特に、文献検索方法、研究テーマの設定方法、研究方法の設定方法、結果の分析方法、考察への導き方等、一連の研究に関するプロセスを具体的に体験しながら卒論へのテーマを見つけることを目標とする。</p> <p>また、演習方法に関しては、対象学生の状況に合わせて決定する。学生の研究テーマに応じて、課題解決型の授業展開を行うことはもちろんのこと、担当教員が理事等で関係している学外のスポーツ団体・NPO法人(アンチいじめ蝶間アカデミー)・社会人スポーツクラブ(東京ライフスポーツクラブ)等と連携を図り、地域社会との関わりながら、単に行うだけではなく将来指導資格につながる資格(SAJスキー級別検定・スノーボード級別検定等)や指導資格(キャンプインストラクター・レクリエーションインストラクター・NSCA-J トレーニング検定/CPT/SCSC等)の取得を目指す。</p> <p>授業中またはゼミ合宿中における関連外部講師による特別講義を予定している。</p> <p>ゼミ合宿は年2~4回、テニス・キャンプ・ウィンタースポーツ・ウォータースポーツ等を予定している。</p> <p>[授業の方法] 先行研究を調査、内容の議論を繰り返す。その後、予備調査を行い、結果の議論を行う。これらを繰り返し、得られた結果を基に議論、考察を行い。ゼミ発表に望む。 共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>										
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)										
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力					(3)ともに行動する力				
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任				
◎	○	◎	○	◎	○						
担当ゼミ科目	健康生涯スポーツ(テニス)、生涯スポーツ(スキー・スノーボード)、生涯スポーツ(キャンプ)、健康科学A/B、体育			関係科目	健康科学A/B、健康体力づくり、生涯スポーツ、健康生涯スポーツ、体育						
テキスト	研究のテーマに沿って個人的に設定する。										
参考書	研究のテーマに沿って個人的に設定する。										
成績評価方法	学習に対する意欲等を総合的に評価する。通常のゼミおよびゼミ合宿等行事への出席を重要視し、積極的な参加を求める。無断欠席1コマ-10点、無断遅刻1コマ-5点、届出欠席-3点、届出遅刻-1点とし、-30点以上は評価の対象としない。										
年間授業計画	(春学期) ゼミ生各位の特徴をとらえ、適切な演習方法を選択する。 授業中またはゼミ合宿中における関連外部講師による特別講義を予定している。ゼミ合宿はテニス・キャンプ・ウィンタースポーツ・ウォータースポーツ等を予定している。					(秋学期) 春学期に決定した演習方法を見直し、問題が無ければ継続し、問題が生じた場合は若干の変更を行う。ゼミ発表会の発表を目指す。 授業中またはゼミ合宿中における関連外部講師による特別講義を予定している。ゼミ合宿はテニス・キャンプ・ウィンタースポーツ・ウォータースポーツ等を予定している。					

ゼミ名	新井第二ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	募集なし	担当教員	新井 健之
選考方法	新井第一ゼミナールにおいてゼミⅢを取得						
研究テーマ	指導法を中心とした体育・スポーツに関して						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>体育・スポーツ分野の研究を幅広く受け入れる。トレーニング科学・スポーツ心理学・野外教育・運動生理学・バイオメカニクス・スポーツマネジメントなど、様々な分野の研究のテーマが考えられる。例として、</p> <p>1. コーチング (様々な運動の指導法) 2. トレーニング (メンタルトレーニングから肉体改造まで、様々なトレーニング方法)</p> <p>3. 野外教育 (キャンプ・スキー・スノーボードなどの指導法や板の動き・人の動きなど) 4. スポーツ心理学 (視覚情報処理と注意の関係など)</p> <p>5. 体育科教育指導法に関しては、全般的体験からテーマを絞り込む。</p> <p>1) 野外スポーツ (キャンプ・スキー・スノーボード・トレッキング・フィッシングなど)</p> <p>2) レクリエーション (ドッジボール・イニシアティブゲーム・キックベースボール・フライングディスクなど)</p> <p>3) 体育館種目 (バド・バスケ・体操・フットサル・ニュースポーツなど)</p> <p>4) グランド種目 (ソフトボール・サッカー・テニス・ゴルフなど)</p> <p>以上のような例が考えられるが、関連分野の研究希望も受け入れ可能。</p> <p>第二ゼミナールでは、第一ゼミナールで学んだことを基に、研究に対する基本的な考え方を復習する。文献検索方法、研究テーマの設定方法、研究方法の設定方法、結果の分析方法、考察への導き方等、一連の研究に関するプロセスを具体的に進めながら卒論を書き上げることを目標とする。</p> <p>また、卒論テーマは、対象学生の状況に合わせて決定する。学生の研究テーマに応じて、課題解決型の授業展開を行うことはもちろんのこと、担当教員が理事等と関係している学外のスポーツ団体・NPO法人(アンチいじめ蝶間アカデミー)・社会人スポーツクラブ(東京ライフスポーツクラブ)等と連携を図り、地域社会との関わりながら、単に行うだけではなく将来指導資格につながる資格(SAJスキー級別検定・スノーボード級別検定等)や指導資格(キャンプインストラクター・レクリエーションインストラクター・NSCA-J トレーニング検定/CPT/CSCS等)の取得を目指す。</p> <p>授業中またはゼミ合宿中における関連外部講師による特別講義を予定している。 ゼミ合宿は年2~4回、テニス・キャンプ・ウィンタースポーツ・ウォータースポーツ等を予定している。</p> <p>[授業の方法]</p> <p>ゼミⅡ・Ⅲで学んだ研究のプロセスを踏みながら、個人研究を行う。複数人と議論できるように、ゼミ生が少ない場合は、他ゼミとの合同も考える。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	○	◎	○	○	
担当ゼミ教員	健康生涯スポーツ(テニス)、生涯スポーツ(スキー・スノーボード)、生涯スポーツ(キャンプ)、健康科学A/B、体育	関係する科目	健康科学A/B、健康体力づくり、生涯スポーツ、健康生涯スポーツ、体育、新井第一ゼミナール				
テキスト	研究のテーマに沿って個人的に設定する。						
参考書	研究のテーマに沿って個人的に設定する。						
成績評価方法	学習に対する意欲等を総合的に評価する。通常のゼミおよびゼミ合宿等行事への出席を重要視し、積極的な参加を求める。無断欠席1コマ-10点、無断遅刻1コマ-5点、届出欠席-3点、届出遅刻-1点とし、-30点以上は評価の対象としない。						
年間授業計画	(春学期) ゼミ生各位の特徴をとらえ、適切な演習方法を選択する。また、就職活動支援も行う。 各位の研究テーマの決定、予備調査・実験を開始する。 授業中またはゼミ合宿中における関連外部講師による特別講義を予定している。ゼミ合宿はテニス・キャンプ・ウィンタースポーツ・ウォータースポーツ等を予定している。			(秋学期) 春学期に決定した演習方法を見直し、問題が無ければ継続し、問題が生じた場合は若干の変更を行う。 ゼミⅣでは、調査・実験結果から考察を行い、卒論として仕上げる。 授業中またはゼミ合宿中における関連外部講師による特別講義を予定している。ゼミ合宿はテニス・キャンプ・ウィンタースポーツ・ウォータースポーツ等を予定している。			

ゼミ名	大山第一ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新2年生 5名程度 新3年生 若干名	担当教員	大山 典宏
選考方法	面接						
研究テーマ	リスク社会の社会保障制度を考えよう						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 グループごとに分かれて特定の社会問題をテーマとして取り上げ、その対策としての社会保障制度のあり方を議論し、発表する経験を積みます。問題解決に必要な視点・知識・技術を身につけ、就職活動におけるグループディスカッションやエントリーシート作成など、自分の考えを正確に他者に伝える能力を鍛えます。</p> <p>【ゼミナールの概要】 現代社会は、子どもの貧困、虐待、不登校・ひきこもり、ひとり親、若年妊娠、DV、障害や疾患、社会的孤立、低年金、ワーキングプア、外国人労働者、ホームレスなど、たくさんのリスクにあふれています。社会保障制度は、こうした問題に対応するためにつくられているものの、時代の要請に十分に答えきれていないところもあります。しかし、ただ批判するだけでは問題は解決しません。現場をまわり、当事者の目線に立って問題をみることで、よりよい制度にしていく方法を考えていきます。 ゼミ生の皆さんにさまざまな視点から問題をとらえる力を身につけてもらうため、外部講師を招聘する場合があります。また、NPO、行政機関、各種施設などを訪問してインタビューをします。</p> <p>○訪問先や外部講師の例 子ども食堂、無料学習教室、フードバンク、シェルターなどを行う NPO、福祉事務所、児童相談所、社会福祉協議会、社会福祉施設（高齢・児童・障害）など、ゼミ生の興味関心に基づき訪問先や外部講師をチョイスします。</p> <p>【授業の方法】 ゼミナール発表会に向けてグループワークで問題を整理し、解決策を考えていきます。実践者や当事者の話に耳を傾け、そこで感じたこと、気づいたことをゼミ生と教員の間で共有するアクティブ・ラーニングの方法を活用します。共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要／○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	○	◎	○	◎	○	
ゼミ科目	ライフデザイン論 A/B、 社会保障論、公的扶助論	関係する科目	社会福祉論、ボランティア論				
テキスト	特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。						
参考書	開講時に適宜紹介します。 ゼミのイメージを知りたい方は、大山典宏『隠された貧困』（扶桑社新書、2014）を読んでみてください。						
成績評価方法	①学習上の姿勢（30%）、②議論への参加姿勢（30%）、③個人発表やレポート等の内容（40%）を総合して評価を行います。ペーパーテストは行いません。なお、欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合は、原則として不合格とします。						
年間授業計画	(春学期) 基礎となる社会保障の知識の習得を目指し、ゼミ報告会のテーマをみつけ、文献購読やフィールドワークを行います。			(秋学期) ゼミ報告会への参加、そのためのプレゼンテーションの準備などを行います。			

ゼミ名	大山第二ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	4年生対象ゼミのため募集せず	担当教員	大山 典宏
選考方法	—						
研究テーマ	リスク社会の社会保障制度を考えよう						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 これまで学んできた知識をもとに、各自のテーマを発展させ、卒業論文を完成させることを目標とします。</p> <p>【ゼミナールの概要】 現代社会は、子どもの貧困、虐待、不登校・ひきこもり、ひとり親、若年妊娠、DV、障害や疾患、社会的孤立、低年金、ワーキングプア、外国人労働者、ホームレスなど、たくさんのリスクにあふれています。社会保障制度は、こうした問題に対応するためにつくられているものの、時代の要請に十分に答えきれていないところもあります。しかし、ただ批判するだけでは問題は解決しません。現場をまわり、当事者の目線に立って問題をみることで、よりよい制度にしていく方法を考えていきます。</p> <p>【授業の方法】 卒業論文の完成に向けて文献調査やフィールドワーク、インタビューなどを行い、問題を整理するとともに、解決策を考えていきます。調査研究を通じて気づいたことをゼミ生と教員の間で共有するアクティブ・ラーニングの方法を活用します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要／○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	○	◎	○	◎	○	
ゼミ担当科目	ライフデザイン論 A/B、 社会保障論、公的扶助論	関係する科目	社会福祉論、ボランティア論				
テキスト	特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。						
参考書	開講時に適宜紹介します。						
成績評価方法	①学習上の姿勢 (20%)、②議論への参加姿勢 (20%)、③卒業論文 (60%) を総合して評価を行います。なお、卒業論文が提出されない場合は、原則として不合格とします。						
年間授業計画	(春学期) 各自の研究テーマを決定し、卒業論文執筆に向けた、文献調査やフィールドワークを行います。	(秋学期) それぞれの卒業論文の執筆計画に基づき、ゼミ内で論文構想の発表を行います。そのうえで、卒業論文を完成させます。					

ゼミ名	岡田第一ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新2年生 若干名 新3年生 若干名	担当教員	岡田 泰介
選考方法	志望動機等について面接をおこなう。面接時までの成績も審査対象とする。						
研究テーマ	歴史学の諸問題						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p><研究の内容></p> <p>担当教員の専門は歴史学なので、それ以外のテーマをとりあげるのは必ずしも排除しないが、原則として歴史学にかかわるテーマについて研究する。具体的なテーマは受講生の希望と実現可能性に応じて決める。これまでにゼミで取り上げられた研究テーマの例を挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『歴史に見る性差』『男』と『女』という概念を、生物学的・文化的・歴史的に検討した。 ・『アメリカ映画のなかの帰還兵』映画に描かれた第二次世界大戦以来現在にいたる戦争からの帰還兵のイメージの分析を通じて、帰還兵にたいするアメリカ社会の視線の変遷とその歴史的背景をあきらかにした。 ・2018年度の4年生は、ジェンダー史の観点から男性史の諸問題に関してゼミ発表・卒業論文を作成した。 ・2019年度は、ゼミ発表会に向けて『小さな大量破壊兵器-AK47』というタイトルで小火器の拡散問題に関するゼミ発表を行い、ゼミコンペで最優秀賞を受賞した。 ・2020年度は、ゼミ発表会に向けて『機関銃の工業史-近代日本工作機械工業の誕生』というタイトルで小火器の拡散問題に関するゼミ発表を行い、ゼミコンペで最優秀賞を受賞した。また、報告担当者は、このテーマで卒業論文を作成した。 ・2021年度は、二つのゼミがゼミ発表会（コンペ部門）に参加した。テーマはそれぞれ『武器管理の日本史-中世から現代まで-』、『コロナ時代の航空産業-日本航空産業の現状と課題』である。前者は報告担当者の卒業論文に繋がった。 ・2022年度は一つのゼミがゼミ発表会（コンペ部門）に参加した。テーマは『戦争プロパガンダ』である。この報告は優秀賞を獲得した。 <p><学習方法></p> <p>秋のゼミ発表会を目標に、テーマを設定し、関連文献を読み込み、プレゼンテーションを組み立てる。この作業を通じて、読解、情報整理、作文、プレゼンテーションのスキルを訓練する。必要に応じて、PCの活用法も指導する。受講生の意欲と能力によっては、外国語の資料を読むこともある。4年生は、ゼミ発表会の研究をもとに卒論作成に取り組む。</p> <p>【授業の方法】</p> <p>本ゼミナールでは、秋のゼミ発表会、卒業論文を目標とする研究を進めるため、参考文献の輪読とディスカッション、研究内容のプレゼンテーションと質疑応答など、アクティブなラーニングを鋭意実施中である。共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨する。また、受験結果に基づいた面談を実施する。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	○	◎	○	○	○	
ゼミ担当科目	外国史・文化交流史	関係科目	日本史・社会学・文化人類学・法学・経済学など・人文社会系の基礎科目をきちんと勉強しておくことが望ましい。				
テキスト	学期はじめの輪読用テキストは教員が指定するが、その後は受講者の興味関心に応じて随時選定する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						
成績評価方法	平常点（出席・ゼミへの貢献度・積極的参加度など）にもとづいて評価する。ペーパー試験はおこなわない。						
年間授業計画	(春学期)			(秋学期)			
	原則として、学期はじめには教員が指定するテキストを輪読することにより読解力・表現力を養う。その他、PCなど授業に必要なスキルの指導も随時おこなう。学期後半からはチームに分かれ、ゼミ発表会に向けた課題研究を進める。受講生の希望に応じて夏合宿をおこなうこともある。			春学期に引き続き、ゼミ発表会に向けた課題研究を進める。ゼミ発表会終了後は輪読演習に戻る。受講生の希望に応じて春合宿をおこなうこともある。4年生は卒論の仕上げを進める。			

ゼミ名	岡田第二ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	募集無し	担当教員	岡田 泰介
選考方法	志望動機等について面接をおこなう。面接時までの成績も審査対象とする。						
研究テーマ	歴史学の諸問題						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p><研究の内容></p> <p>担当教員の専門は歴史学なので、それ以外のテーマをとりあげることが必ずしも排除しないが、原則として歴史学にかかわるテーマについて研究する。具体的なテーマは受講生の希望と実現可能性に応じて決める。これまでにゼミで取り上げられた研究テーマの例を挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『歴史に見る性差』『男』と『女』という概念を、生物学的・文化的・歴史的に検討した。 ・『アメリカ映画のなかの帰還兵』映画に描かれた第二次世界大戦以来現在にいたる戦争からの帰還兵のイメージの分析を通じて、帰還兵にたいするアメリカ社会の視線の変遷とその歴史的背景をあきらかにした。 ・2018年度の4年生は、ジェンダー史の観点から男性史の諸問題に関してゼミ発表・卒業論文を作成した。 ・2019年度は、ゼミ発表会に向けて『小さな大量破壊兵器—AK47』というタイトルで小火器の拡散問題に関するゼミ発表を行い、ゼミコンペで最優秀賞を受賞した。 ・2020年度は、ゼミ発表会に向けて『機関銃の工業史—近代日本工作機械工業の誕生』というタイトルで小火器の拡散問題に関するゼミ発表を行い、ゼミコンペで最優秀賞を受賞した。また、報告担当者は、このテーマで卒業論文を作成した。 ・2021年度は、二つのゼミがゼミ発表会（コンペ部門）に参加した。テーマはそれぞれ『武器管理の日本史—中世から現代まで—』、『コロナ時代の航空産業—日本航空産業の現状と課題』である。前者は報告担当者の卒業論文に繋がった。 ・2022年度は一つのゼミがゼミ発表会（コンペ部門）に参加する予定である。テーマは『戦争プロパガンダ』である。 <p><学習方法></p> <p>秋のゼミ発表会を目標に、テーマを設定し、関連文献を読み込み、プレゼンテーションを組み立てる。この作業を通じて、読解、情報整理、作文、プレゼンテーションのスキルを訓練する。必要に応じて、PCの活用法も指導する。受講生の意欲と能力によっては、外国語の資料を読むこともある。4年生は、ゼミ発表会の研究をもとに卒論作成に取り組む。</p> <p>【授業の方法】</p> <p>本ゼミナールでは、秋のゼミ発表会、卒業論文を目標とする研究を進めるため、参考文献の輪読とディスカッション、研究内容のプレゼンテーションと質疑応答など、アクティブなラーニングを鋭意実施中である。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	○	◎	○	○	○	
担当ゼミ教員	外国史・文化交流史	関係科目	日本史・社会学・文化人類学・法学・経済学など・人文社会系の基礎科目をきちんと勉強しておくことが望ましい。				
テキスト	学期はじめの輪読用テキストは教員が指定するが、その後は受講者の興味関心に応じて随時選定する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						
成績評価方法	平常点（出席・ゼミへの貢献度・積極的参加度など）にもとづいて評価する。ペーパー試験はおこなわない。						
年間授業計画	(春学期) 原則として、学期はじめには教員が指定するテキストを輪読することにより読解力・表現力を養う。その他、PCなど授業に必要なスキルの指導も随時おこなう。 学期後半からはチームに分かれ、ゼミ発表会に向けた課題研究を進める。受講生の希望に応じて夏合宿をおこなうこともある。	(秋学期) 春学期に引き続き、ゼミ発表会に向けた課題研究を進める。ゼミ発表会終了後は輪読演習に戻る。受講生の希望に応じて春合宿をおこなうこともある。4年生は卒論の仕上げを進める。					

ゼミ名	小平第一ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新2年生 10名程度 新3年生 若干名	担当教員	小平 健太
選考方法	面接						
研究テーマ	美学・芸術学研究——“美しさ”に潜む「謎」を解き明かそう						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 このゼミの目標は、単に知識や理論を学ぶことではありません。そうではなく、参加者一人ひとりが思考と表現の「主役」となり、①「論理的・批判的に考える力」(思考力)、②「自分の意見や思いを丁寧に言葉にする力」(表現力)、ゼミ仲間の言葉に真剣に耳を傾け、③「相手の立場に立つ力」(対話力)を身に付けることにあります。それにより、各人が自由に関心のある文化的事象に問いを立て、それを解決するための基礎体力を養うことが、このゼミの目標です。</p> <p>【ゼミナールの概要】 「美」(美しさ)や「芸術」(文化)と「よく生きること」の結びつきを探究します。このゼミでは、是非、皆さん一人ひとりが抱く「好き」を真剣に突き詰め、対象を批評し、それを他者に分かる言葉で伝えることに挑戦してみましよう。「美学」は、私たちの生活に密接に根差した学問です。扱うテーマは、芸術作品からサブカルチャー(マンガ・アニメ等)・現代ポップカルチャー(推し活・AIアート等)、美容文化(日・韓文化比較やルッキズム等)まで、多岐にわたります。生きる楽しみも、考える楽しみも同時に味わえることが美学の学問的魅力です。もし、まだ関心や研究テーマが具体的に決まっていなければ、是非一緒に考えましよう。美学を学ぶことにより、当たり前だと思っていた日常を新たな視点からとらえ直すことができるようになるはずです。</p> <p>【ゼミナールの方法】 ①: 論理的思考および批判的思考を養うため、ゼミ参加者で(1)作品(鑑賞)分析、(2)必要に応じたテキストの輪読を行います。輪読の際には担当者を決定し、担当箇所の内容を予習の上レジュメにまとめて発表し、ディスカッションを行います。テキストは参加者の関心によって決定しますが、文章以外では、参加者の希望に応じて映画や音楽、アニメーションなど様々なメディアから取り上げます。 ②: アクティブ・ラーニングの一環として哲学対話を取り入れた対話型のゼミ活動も行います。テーマをめぐりときに独りで考えるだけでなく、対話を通じて“誰かとともに考える”ことで、自分の思考を自由にする営みです。一人ひとりの関心をめぐって自分の考えを言葉にすること、誰かの言葉に真剣に向き合うことで対話する力を磨きます。 ③: 上記ふたつの営みを経て、自分自身にとって身近で興味がある事柄に自分で問いを立て、誰にでもわかる言葉で関心を伝える表現力を養います。最終的な発表に向け、参加者一人ひとりの関心を参加者全員で共有し、プレゼンテーションを行います。真剣に、また楽しく、ときに皆で「考えたい」学生の参加を歓迎します。 共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
	◎	○	◎	◎	◎	◎	○
担当ゼミ教員	人間科学概論,心の科学,人間形成論		関係する科目	哲学、倫理学をはじめ、広く人間科学部に関わる科目群と関連します。			
テキスト	開講時に指示します。						
参考書	津上英輔『あじわいの構造：感性化時代の美学』(春秋社、2012)、津上英輔『美学の練習』(春秋社、2022)、梶谷真司『考えるとはどういうことか：0歳から100歳までの哲学入門』(幻冬舎新書、2018)、河野哲也編『ゼロからはじめる哲学対話(哲学プラクティス・ハンドブック)』(ひつじ書房、2020)他、随時ご紹介いたします。						
成績評価方法	授業への出席、議論や対話への参加度、課題の取り組みを踏まえたうえで総合的に評価します。						
年間授業計画	(春学期) ① 論理的思考・対話力のトレーニング ② テキストの輪読 ③ ゼミ発表・報告			(秋学期) 進め方は春学期と同じです。			


ゼミ名	小平第二ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	募集無し	担当教員	小平 健太
選考方法	—						
研究テーマ	美学・芸術学研究——卒業論文指導						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 このゼミの目標は、第二・三ゼミナールでの研究成果を踏まえたうえで、論文執筆のためのノウハウを身に付け、最終的に卒業論文を完成させることにあります。</p> <p>【ゼミナールの概要】 「美」(美しさ)や「芸術」(文化)と「よく生きること」の結びつきを探究します。このゼミでは、是非、皆さん一人ひとりが抱く「好き」を真剣に突き詰め、対象を批評し、それを他者に分かる言葉で伝えることに挑戦してみましょう。「美学」は、私たちの生活に密接に根差した学問です。扱うテーマは、芸術作品からサブカルチャー(マンガ・アニメ等)・現代ポップカルチャー(推し活・AIアート等)、美容文化(日・韓文化比較やルッキズム等)まで、多岐にわたります。生きる楽しみも、考える楽しみも同時に味わえることが美学の学問的魅力です。もし、まだ関心や研究テーマが具体的に決まっていなければ、是非一緒に考えましょう。美学を学ぶことにより、当たり前だと思っていた日常を新たな視点からとらえ直すことができるようになるはずです。</p> <p>【ゼミナールの方法】 第二・三ゼミナールで深めた関心を「論文」としてまとめあげます。研究計画・論文構成の指導を丁寧に行いながら、各参加者の関心を「問い」にし、それに対する自分の「答え」を美学・芸術学の理論をもとに導くことが最終的なゴール地点となります。その途中経過では、必要に応じて2年生・3年生参加のもと成果報告・討論会も行う予定です。また、参加者の人数に応じて、哲学対話をはじめとするアクティブ・ラーニングの方法も取り入れ、授業を行う予定です。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要／○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	○	○	○	
担当科目	人間科学概論,心の科学,人間形成論			関係する科目	哲学、倫理学をはじめ、広く人間科学部に関わる科目群と関連します。		
テキスト	開講時に指示します。						
参考書	開講時に指示します。						
成績評価方法	授業への出席、議論や対話への参加度、課題の取り組みを踏まえたうえで総合的に評価します。						
年間授業計画	(春学期)			(秋学期)			
	① 論理的思考・対話力のトレーニング ② テキストの輪読 ③ ゼミ発表・報告			① 卒業論文執筆 ② 中間発表 ③ 最終報告・完成・提出			

ゼミ名	小向第一ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新2年生8名程度	担当教員	小向 敦子
選考方法	面接						
研究テーマ	「ユーモア」が持つ効能・構造の理解と、それらを発信できる人間科学						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 当該ゼミでは、各人の人生にとって、頼もしい能力となりえる「ユーモア」について、学問的・学際的なユーモア学(humorology)として探求します。ユーモアオロジーと一言にいても、例えば「ユーモアの歴史」・「文学に出てくるユーモア」・「ビジネスシーンにおけるユーモア」「芸術的なユーモア」など、実に広汎です。 さまざまな角度からユーモアの実像に迫りながら、学習者自身がユーモアを行使できる能力を身につけていきます。</p> <p>【ゼミナールの概要】 中学・高校や他大学ではあまり類例のないテーマなので、今まで私たちがゼミ発表会で取り組んだタイトルを紹介します。それらは例えば、スポーツと文化における笑い・笑いの医療的効果・異文化の笑い・ボケとツッコミのメカニズム・死をユーモアで飾れるか・マジシャンのショーマンシップ・ホスピタルクラウンと笑い・アイスブレイクのユーモア・落語における笑い・キプロクオ(間違い)の笑い・司会(MC)にとつてのユーモアセンス・トロンプレイユ(騙し絵)・サイレントユーモア・死語(と流行語)と笑い・笑う就活・笑われ恐怖症・差別×ユーモア・炎上×ユーモア・ファッション×ユーモア・すべらない笑いなどです。</p> <p>【授業の方法】 まず初めに、ユーモア学の基礎に当たる、言語的もしくは伝統的な遊びを媒体として、ユーモアを学びます。その上で「笑い」を職業とするプロフェッショナルを、外部講師としてお招きし、直接ふれあう機会を設けます。今まで、漫才師・落語家・クラウン・マジシャン・パントマイミスト・大道芸人などを招聘してきた実績があり、今年度も外部講師を招聘する予定があります。 後期に開催されるゼミ発表会に向けては、現地視察や聞き取り・アンケート調査などの分析を踏まえて、原稿制作・演技練習に取り組みます。発表会後は、新ゼミ生(1年生)を迎える、4年生をキックオフする、2・3年生による年末プログラムを行います。このプログラムは別称ゼミクリスマス会と呼ばれることもありますが、ユーモアを研究する私たちにとっては、企画と実施、そして自らを反省する重要な学びの機会となっています。 共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	
ゼミ教員担当科目	ジェロントロジー・高齢社会論 外書講読・グローバルコミュニケーション 介護等体験		関係する科目	人間科学概論			
テキスト	開講時に紹介します。						
参考書	開講時に紹介します。						
成績評価方法	自分自身のため、であると同時に、ゼミに参加するコラダレ同志が、お互いに影響や刺激を授受できる関係性の構築を目指します。よって成績評価の基準として、各自の出席度を超える、ゼミ全体への貢献度を求めます。自分の感じたこと・気がついたことを、ゼミの仲間と分かち合うことができる、積極性と協調性を請います。もちろん「反逆」の精神も、歓迎します。なぜならいつの時代にも、社会に変革を齎してきたのは、「いや、そうは思わない」「こんなことは、おかしい」と感じられる・気がつける、斬新な考え方から始まったからです。						
年間授業計画	(春学期)			(秋学期)			
	4月:「ユーモア」「笑い」について学ぶ(1) 5月:「ユーモア」「笑い」について学ぶ(2) 6月:ゼミ発表テーマ選定・推敲 7月:ゼミ発表会脚本・推敲 8月:夏休みに相応しいデータ集積・調査実施			9月:調査結果の分析および考察 10月:発表内容調整・発表表現リハーサル 11月:ゼミ発表本番・反省会 12月:年末プログラムの企画・実施 1月:「ユーモア」「笑い」について学ぶ(3)			

ゼミ名	小向第二ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新3・4年生対象 募集予定なし	担当教員	小向 敦子
選考方法	面接						
研究テーマ	「ユーモア」が持つ効能・構造の理解と、それらを発信できる人間科学						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 当該ゼミでは、各人の人生にとって、頼もしい能力となりえる「ユーモア」について、学問的・学際的なユーモア学(humorology)として探求します。ユーモアオロジーと一言にいても、例えば「ユーモアの歴史」・「文学に出てくるユーモア」・「ビジネスシーンにおけるユーモア」「芸能的なユーモア」など、実に広汎です。 さまざまな角度からユーモアの実像に迫りながら、学習者自身がユーモアを行使できる能力を身につけていきます。</p> <p>【ゼミナールの概要】 中学・高校や他大学ではあまり類例のないテーマなので、今まで私たちがゼミ発表会で取り組んだタイトルを紹介します。それらは例えば、スポーツと文化における笑い・笑いの医療的効果・異文化の笑い・ボケとツッコミのメカニズム・死をユーモアで飾れるか・マジシャンのショーマンシップ・ホスピタルクラウンと笑い・アイスブレイクのユーモア・落語における笑い・キプロクオ(間違いと失敗)の笑い・司会(MC)にとってのユーモアセンス・トロンブリユ(騙し絵)・サイレントユーモア・死語(と流行語)と笑い・笑う就活・笑われ恐怖症・差別×ユーモア・炎上×ユーモア・ファッション×ユーモア・すべらない笑いなどです。</p> <p>【授業の方法】 まず初めに、ユーモア学の基礎に当たる、言語的もしくは伝統的な遊びを媒体として、ユーモアを学びます。その上で「笑い」を職業とするプロフェッショナルを、外部講師としてお招きし、直接ふれあう機会を設けます。今まで、漫才師・落語家・クラウン・マジシャン・パントマイミスト・大道芸人などを招聘してきた実績があり、今年度も外部講師を招聘する予定があります。 後期に開催されるゼミ発表会に向けては、現地視察や聞き取り・アンケート調査などの分析を踏まえて、原稿制作・演技練習に取り組みます。発表会後は、新ゼミ生(1年生)を迎える、4年生をキックオフする、2・3年生による年末プログラムを行います。このプログラムは別称ゼミクリスマス会と呼ばれることもありますが、ユーモアを研究する私たちにとっては、企画と実施、そして自らを反省する重要な学びの機会となっています。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	
ゼミ教員担当科目	ジェロントロジー・高齢社会論 外書講読・グローバルコミュニケーション 介護等体験		関係する科目	人間科学概論			
テキスト	開講時に紹介します。						
参考書	開講時に紹介します。						
成績評価方法	自分自身のため、であると同時に、ゼミに参加するコムラデ同志が、お互いに影響や刺激を授受できる関係性の構築を目指します。よって成績評価の基準として、各自の出席度を超える、ゼミ全体への貢献度を求めます。自分の感じたこと・気がついたことを、ゼミの仲間と分かち合うことができる、積極性と協調性を請います。もちろん「反逆」の精神も、歓迎します。なぜならいつの時代も、社会に変革を齎してきたのは、「いや、そうは思わない」「こんなことは、おかしい」と感じられる・気がつける、斬新な考え方から始まったからです。						
年間授業計画	(春学期) 4月:「ユーモア」「笑い」について学ぶ(1) 5月:「ユーモア」「笑い」について学ぶ(2) 6月:ゼミ発表テーマ選定・推敲 7月:ゼミ発表会脚本・推敲 8月:夏休みに相応しいデータ集積・調査実施			(秋学期) 9月:調査結果の分析および考察 10月:発表内容調整・発表表現リハーサル 11月:ゼミ発表本番・反省会 12月:年末プログラムの企画・実施 1月:「ユーモア」「笑い」について学ぶ(3)			

ゼミ名	齋藤元紀第一ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新2年生 最大 10名 新3年生 最大 2名	担当教員	齋藤 元紀																				
選考方法	面接																										
研究テーマ	哲学・倫理学——世界のすべてをとことん考え抜いてみよう——																										
ゼミナールの目標と概要	<p>【ゼミナールの目標】</p> <p>このゼミの目標は、哲学と倫理学の基礎的な思考力と思考方法を身につけることにあります。哲学・倫理学にかんする古典的なテキスト以外にも、小説や演劇、漫画、アニメーション、映像などのさまざまな資料を丹念に読み解く作業に加えて、哲学対話、脚本・小説・映像・アート制作等の実践的作業を行い、その研究成果をゼミナール発表会で公開していきます。これらの作業とおして、ほかの人の意見に耳を傾け、ものごとの裏側にひそむ論理に目を凝らし、じぶんの考えをじぶんの言葉で表現できる力を身につけることを最終的に目指します。</p> <p>【ゼミナールの概要】</p> <p>哲学は、この世界のあらゆることからの本質を徹底的に考え抜く学問です。ほかの学問とは違って、哲学には特定の専門領域がありません。この世界のあらゆることながら、哲学で扱う対象になります。だから哲学では、スマートフォンでも映画でも、この世界でみなさんが気になる出来事なら何でも扱うことができるわけです。とはいえ、哲学はスマートフォンの構造を調べたり、映画鑑賞をしたりするだけの学問でもありません。「どうしてスマートフォンは必要なのか?」「映画とはそもそも何か?」——身近で当たり前ではあるけれど、どこか気になることながらをその本質までとことんまで考えてみるのが、哲学という学問の営みです。</p> <p>他方倫理学は、そうした世界に起きるあらゆることからの道徳的善悪や社会的価値をとことんまで考え、それらの具体的解決を目指す学問と言えます。「どうして人を殺してはいけないのか?」「正しさとは何か?」——しかしここでもやはり、世間にあふれる通りいっぺんの答えで満足してはなりません。それらの答えは本当にそう言えるのかどうか、そうでないとすればどう答えるべきか。こうした問いをとことんまで突き詰めて考えてみるのが、倫理学という学問の営みです。</p> <p>過年度は「対話」や「演劇」をめぐる哲学的考察に取り組み、大きな成果を収めてきました。「対話」にかんしては、専門的知識の応酬ではなく、個々人の経験をもとに相互に対話を行うことで哲学的思考を深める「哲学対話」の実践と考察を行いました。月一回のオンラインでの哲学対話は、高千穂大学の名物の一つです。また「演劇」にかんしては、学生自身が脚本作成から演出、出演までを手がけ、演劇と思考や身体との関係について考察しました。さらに若手の人気アーティストを招聘し、作品制作をめぐるインタビューや対話をとおして「アートと哲学」をめぐる研究も展開しました。今年度も学生の希望に合わせてさまざまなテーマを取り上げ、刺激的な哲学的・倫理的考察に挑戦したいと考えています。なおテーマにおうじて、外部講師も招聘します。「考えたい」「挑戦してみたい」学生の積極的な参加を期待しています。</p> <p>【授業の方法】</p> <p>この授業では、みずから考えたことながらを学内外の具体的な場面で実践するアクティブ・ラーニングの方法を活用します。共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>																										
到達目標	<p>【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">(1)常に半歩先立つ進歩性</th> <th colspan="3">(2)考えて行動する力</th> <th colspan="3">(3)ともに行動する力</th> </tr> <tr> <th>①問題を解決する力</th> <th>②論理的に考える力</th> <th>③複数の視点から考える力</th> <th>①コミュニケーションする力</th> <th>②他者を受け入れる力</th> <th>③倫理観と社会的責任</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>◎</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>							(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力			①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任	◎	○	◎	◎	◎	◎	○
(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力																							
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任																					
◎	○	◎	◎	◎	◎	○																					
担当教員	哲学、倫理学、現代哲学	関係する科目	哲学・倫理学をはじめとする人間科学部の全科目に関係します。																								
テキスト	授業中に指示する。																										
参考書	授業中に指示する。																										
成績評価方法	出席、授業への参加態度、課題への取り組みを総合的に考慮して評価します。																										
年間授業計画	(春学期)			(秋学期)																							
	① 哲学的・倫理的思考のトレーニング ② テキストの輪読・さまざまなメディア資料の考察 ③ ゼミ発表会の準備			① ゼミ発表会の準備・発表 ② 哲学的・倫理的思考のトレーニング ③ テキストの輪読・さまざまなメディア資料の考察																							

ゼミ名	齋藤元紀第二ゼミナール (Seminar)		学部	人間科学部		募集学年	募集なし		担当教員	齋藤 元紀	
選考方法	—										
研究テーマ	哲学・倫理学——世界のすべてをとことん考え抜いてみよう——										
ゼミナールの目標と概要	<p>【ゼミナールの目標】 このゼミの目標は、第一ゼミナールでの研究成果を踏まえ、論文執筆のトレーニングを積むとともに、卒業論文を完成させることにあります。</p> <p>【ゼミナールの概要】 哲学は、この世界のあらゆることからの本質を徹底的に考え抜く学問です。ほかの学問とは違って、哲学には特定の専門領域がありません。この世界のあらゆることながらも、哲学で扱う対象になります。だから哲学では、スマートフォンでも映画でも、この世界でみなさんが気になる出来事なら何でも扱うことができます。とはいえ、哲学はスマートフォンの構造を調べたり、映画鑑賞をしたりするだけの学問でもありません。「どうしてスマートフォンは必要なのか?」「映画とはそもそも何か?」——身近で当たり前ではあるけれど、どこか気になることからの本質までとことんまで考えてみるのが、哲学という学問の営みです。 他方倫理学は、そうした世界に起きるあらゆることからの道徳的善悪や社会的価値をとことんまで考え、それらの具体的解決を目指す学問と言えます。「どうして人を殺してはいけないのか?」「正しさとは何か?」——しかしここでもやはり、世間にあふれる通りいっぺんの答えで満足してはなりません。それらの答えは本当にそう言えるのかどうか、そうでないとすればどう答えるべきか。こうした問いをとことんまで突き詰めて考えてみるのが、倫理学という学問の営みです。</p> <p>【授業の方法】 この授業では、アクティブ・ラーニングの方法を活用し、学内外の具体的な実践の成果を論文へとまとめます。</p>										
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)										
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力						
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任				
◎	○	◎	◎	◎	◎	◎					
担当科目	哲学、倫理学、現代哲学			関係する科目	哲学・倫理学をはじめとする人間科学部の全科目に関係します。						
テキスト	なし										
参考書	適宜紹介します。										
成績評価方法	出席、授業への参加態度、課題への取り組みを総合的に考慮して評価します。										
年間授業計画	(春学期)					(秋学期)					
	① 卒業論文テーマ設定 ② 卒業論文概要の作成・修正 ③ 資料の収集・整理・報告						① 卒業論文執筆 ② 卒業論文中間発表 ③ 卒業論文完成・提出				

ゼミ名	竹内浄第一ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新2年生 10名 新3年生 5名	担当教員	竹内 浄
選考方法	面接						
研究テーマ	数理科学研究						
ゼミナールの目標と概要	<p>【ゼミナールの目標と概要】</p> <p>本ゼミでは、「常に半歩先立つ進歩性」の精神の下、数学や自然科学に基づいた、数理的な教育・研究を通じて、論理的な思考を身につけることを目標とします。</p> <p>活動内容(予定):</p> <p>(必須) 社会人(就職)に必要とされる、数理的な知識を身につける実習を行います(SPI対策などを含む)。 ※数学が苦手な人を歓迎します。他のゼミに興味をもてなかった人やご縁がなかった人も歓迎します。</p> <p>(任意) 希望に応じて、ゼミナール発表会への参加、他ゼミとの小規模な合同報告会などを相談します。 興味がある人には、ボランティア活動への参加(すぎなみサイエンスフェスタ)を促します。 発展的な内容を希望する人には、個別にゼミの時間以外で教員と研究します(可能であれば学会発表)。</p> <p>【授業の方法】</p> <p>アクティブラーニングとして、実習を中心に、プレゼンテーション、ディスカッションなどを行う予定です。 共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p> <p>【問い合わせ先】</p> <p>ゼミに興味をもった人は、まずはメールにて、気軽に質問、相談して下さい。 メールアドレス takeuchi-j@takachiho.ac.jp</p> 						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎		○					
ゼミ担当教員	基礎数学(確率・統計)、基礎数学(代数・幾何)、算数、基礎コンピュータ I/II、物質科学、環境科学	関係科目	学部基礎科目(教養自然)、情報科目				
テキスト	開講時にお知らせします。						
参考書	開講時にお知らせします。						
成績評価方法	ゼミ活動への貢献度で評価します。ゼミ活動に支障を与える行為がみられる場合(礼儀を欠く、暴言を吐く、迷惑をかける、など)、明らかに学ぶ意欲がみられない場合、1/3以上の欠席の場合、無断欠席が続く場合、ゼミ除籍の対象とします。 ※履修要項より、「ゼミ担当教員より「ゼミ除籍」と判断され通知された場合は、当該年度のゼミは不合格となり、翌年度以降の同一教員のゼミ履修は認めません。」						
年間授業計画	(春学期) 4月～7月 通常のゼミ活動 以下はゼミにて相談。 5月 ゼミ遠足(近郊日帰り) 9月 合宿(近郊1泊)			(秋学期) 9月～1月 通常のゼミ活動 以下はゼミにて相談。 11月 ゼミナール発表会(学内) 3月 合宿(近郊1泊)			

ゼミ名	竹内浄第二ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	募集無し	担当教員	竹内 浄
選考方法	募集なし						
研究テーマ	数理科学研究						
ゼミナールの目標と概要	<p>【ゼミナールの目標と概要】</p> <p>ゼミⅣの目標は、卒業論文の作成を通して、論理的に考える力を身につけることです。ゼミⅡあるいはゼミⅢでこれまでに取り組んできた研究の成果、並びに、その成果を基にした新たな研究の成果を、学生自ら卒業論文としてまとめあげます。ゼミⅣでは、まず論文のテーマを検討し、主張と論拠の概要を確認します。次に、論文としての体裁となるように、論文の章立てを検討します。最後に、多くの時間をかけて文章化を行います。章ごとに論理的な文章構成や文章表現に留意しつつ、第三者が理解できる論文となるように、繰り返し議論していきます。</p> <p>【授業の方法】</p> <p>アクティブラーニングとして、プレゼンテーション、ディスカッションなどを行う予定です。</p> <p>ゼミⅣでは、就職活動に配慮しますが、卒業論文の完成に向けて、進捗状況を報告してもらいます。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要／○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎		○					
担当科目	基礎数学（確率・統計）、基礎数学（代数・幾何）、算数、基礎コンピュータⅠ/Ⅱ、物質科学、環境科学	関係科目	学部基礎科目(教養自然)、情報科目				
テキスト	開講時にお知らせします。						
参考書	開講時にお知らせします。						
成績評価方法	ゼミⅣは卒業論文の内容で評価します。第三者が理解できる論理的な文章を書き、卒業論文を完成させることとします。教員の許可を得てから、提出締切日までに、指定の提出先へ卒業論文を提出して下さい。指定の提出先は、履修要項あるいは教務課で必ず確認して下さい。教員に提出しても単位は取得できません。						
年間授業計画	(春学期) 4月～7月 通常のゼミ活動 以下はゼミにて相談。 5月 ゼミ遠足(近郊日帰り) 9月 合宿(近郊1泊)			(秋学期) 9月～1月 通常のゼミ活動 以下はゼミにて相談。 11月 ゼミナール発表会(学内) 3月 合宿(近郊1泊)			

ゼミ名	竹村第一ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新2年生 5,6名 新3年生 若干名	担当教員	竹村 和朗
選考方法	エントリーシートと面接						
研究テーマ	「異文化／よくわからないもの」について考える						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p><概要と目標> 本ゼミでは、その人にとってよくわからないものを「異文化」と呼び、考察の対象とします。こうしたものも、歴史的な由来や展開を調べ、内部の視点からくわしく見ていくことで、理解できるようになるかもしれません。ゼミ生は、ゼミでの発表や議論を通じて、「異文化」について考え・発表する方法を学んでいきます。ゼミ生一人一人が、自らの「異文化」を見つけ、それを自分の言葉で表現することができるようになることが、本ゼミの目標です。</p> <p>☆本ゼミでは、文章を読む力、レジュメを作る力、コメントする力が鍛えられます。 ☆「よくわからないもの」について考えてみるというよくわからないことに関心がある方を歓迎します。 ☆外国の文化に関心がある方も大歓迎。</p> <p><方法> ①文献講読 4月から6月にかけて、ゼミ生全員が文献を読み、レジュメを作り、発表をします。扱う文献は、ゼミ生の関心や希望にもとづき決めます。主体的な関わりを要する点で、まさにアクティブ・ラーニングです。 ②ゼミ発表会 7月からゼミ発表会に向けて準備を進めていきます。発表テーマはゼミ生が決め、班ごとに調査・研究を進めていきます。 ③個人研究 11月以降以降は、ゼミ生各自の関心にもとづき、文献講読や個人研究発表を行っていきます。</p> <p>※共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎		○	◎	◎	○		
担当科目	異文化間コミュニケーション論／多文化共生論 文化人類学／比較文化論 人間科学方法論		関係する科目	外国史 社会学 家族社会学 ジェンダー論			
テキスト	担当教員が用意します。						
参考書	担当教員が用意します。						
成績評価方法	本ゼミでは、文献講読（本の一章や論文を取り上げ、ゼミ生がレジュメを作って内容をまとめて報告し、他のゼミ生がそれを批判・検討すること）やゼミ発表会での研究発表、ゼミ内個人研究発表を行います。ゼミ活動への積極的な参加とその内容が、成績評価の対象となります。						
年間授業計画	(春学期) 4月～6月 文献講読 7月 ゼミ発表会の準備			(秋学期) 9月～10月 ゼミ発表会の準備 11月～1月 文献講読、個人研究発表			

ゼミ名	竹村第二ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新規募集なし	担当教員	竹村 和朗
選考方法	なし (竹村ゼミ III をとった学生のうち希望者のみ)						
研究テーマ	卒論を書く						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p><概要と目標> 卒業論文のような長い文章、「論文」を書くことは、大変な苦勞です。書く前には、何をどう書いたらよいか見当が付きません。テーマを決め、構成を定めるためには、本を読み、メモをとり、アイデアをひねり、自分の関心 (なぜ・何を書くのか) と向き合う必要があります。執筆には当然時間がかかり、誤植を直し、体裁を整える必要もあります。締切が近くなれば、心休まる日はないでしょう。</p> <p>それでもそうした苦勞を経て、自分の考えをまとめて言葉にし、一つの文章を書ききった時の達成感は、きっとあります。少しでも「やってみようかな」、「おもしろそう」と思ったら、手を挙げてください。一緒にがんばりましょう。</p> <p><方法> ①各自が関心のあるテーマを選ぶ。(4月～5月) ②テーマに関係する先行研究や資料を集め、まとめる。(6月～7月) ③論旨・構成を練る。(9月～10月) ④執筆する。(11月～12月) ⑤推敲、校正する。(1月)</p> <p>テーマは文化・社会に関わるものなら、何でも扱うことができます。なるべく具体的なもの、目で見ても触れられ、語られる物事や社会的現象がよいでしょう。教員は、テーマを選び、掘り下げ、調べることに関する助言をします。しかし実際にそれについて調べ、考え、言葉にするのは、学生本人です。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎		◎	○	◎	○		
担当科目	異文化間コミュニケーション論/多文化共生論 文化人類学/比較文化論 人間科学方法論		関係する科目	外国史 社会学 家族社会学 ジェンダー論			
テキスト	特になし						
参考書	特になし						
成績評価方法	書くプロセスと書いた内容から判断します。 (どのような調査をしたか、文章の論旨は明確か、など)						
年間授業計画	(春学期) 4月～5月 テーマ探し 6月～7月 先行研究・資料の収集・整理 夏季調査の計画			(秋学期) 9月～10月 夏季調査の報告、論旨・構想作り 11月～1月 執筆、中間報告、校正、提出			

ゼミ名	立石第一ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新2年生6名程度 新3年生3名程度	担当教員	立石展大
選考方法	面接・志望理由書						
研究テーマ	口承文芸と現代メディア						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 現代社会において伝承されている生活文化が、従来の口伝えからどのように変化をしているかの考察をとおして、現代社会の特徴を明らかにする。</p> <p>【ゼミナールの概要】 口承文芸とは、口伝えの伝承で、かつては昔話・伝説・世間話などが世代を越えて伝えられていた。例えば、農村などで、祖父母が孫に語り、それを聞いて育った孫が、自分が大人に成長した後、下の世代に語るという伝承である。 また、村を訪れる行商人や宗教者が語り伝えて、話が伝播することもあった。 もちろん、このような伝承・伝播は、現代ではほとんど見られなくなった。これは、他の娯楽が増え、マスメディアが発達するなどの社会の発展にもなるものであり、21世紀においては、口伝えのみの伝承を探すのは至難の業である。 しかし、かつて口承文芸が伝えていた内容は、メディアを変えて現代も伝えられている。例えば、昔話は絵本やテレビアニメ、マンガなどで表現される。河童などの妖怪も、既に口伝えの伝承は少なくなったが、それでもキャラクターとして、相変わらず日本人に馴染みのある存在であろう。 そして、現代のメディアにおいて表現される、かつての口承文芸は、その内容をより現代社会の価値観に沿わせて変化をする傾向を見せる。 本ゼミナールでは、現代のメディアにおいて語られる話の変化を分析することで、私たちの生活文化を考察していく。</p> <p>【授業の方法】 現代社会の伝承を主体的に考察するため、アクティブ・ラーニングを行う。書籍からの情報収集もおこなうが、フィールドワークによる聞き取り調査も取り入れる。</p> <p>共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	○	◎	◎	○	
ゼミ教員担当科目	日本文学、日本文学史、国語、日本語		関係する科目	日本文学・日本文学史			
テキスト	特になし。プリントを配布する。						
参考書	随時紹介する。						
成績評価方法	平常点・レポート・発表などを総合的に評価する。						
年間授業計画	(春学期) ① 口承文芸の基礎を学ぶ。 ② 各自の研究テーマの設定と情報収集。 ③ 秋学期のゼミ発表に向けた準備。			(秋学期) ① 春学期の設定テーマを基に、研究テーマを発展させる。 ② ゼミ発表会に向けて、準備を行う。 ③ 各自の研究テーマに沿って、レポート作成をおこなう。			

ゼミ名	立石第二ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	4年生対象ゼミのため募集せず	担当教員	立石展大
選考方法							
研究テーマ	口承文芸と現代メディア						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 第2学年と第3学年において学んだことを踏まえて、各自が卒業論文のテーマを設定し、情報を収集、分析、考察する。その上で研究の集大成となる卒業論文をまとめる。また、完成した論文内容をゼミ内の発表会において発表する。</p> <p>【ゼミナールの概要】 口承文芸とは、口伝の伝承で、かつては昔話・伝説・世間話などが世代を越えて伝えられていた。例えば、農村などで、祖父母が孫に語り、それを聞いて育った孫が、自分が大人に成長した後、下の世代に語るという伝承である。 また、村を訪れる行商人や宗教者が語り伝えて、話が伝播することもあった。 もちろん、このような伝承・伝播は、現代ではほとんど見られなくなった。これは、他の娯楽が増え、マスメディアが発達するなどの社会の発展にもなるものであり、21世紀においては、口伝のみの伝承を探すのは至難の業である。 しかし、かつて口承文芸が伝えていた内容は、メディアを変えて現代も伝えられている。例えば、昔話は絵本やテレビアニメ、マンガなどで表現される。河童などの妖怪も、既に口伝の伝承は少なくなったが、それでもキャラクターとして、相変わらず日本人に馴染みのある存在であろう。 そして、現代のメディアにおいて表現される、かつての口承文芸は、その内容をより現代社会の価値観に沿わせて変化をする傾向を見せる。 本ゼミナールでは、現代のメディアにおいて語られる話の変化を分析することで、私たちの生活文化を考察していく。</p> <p>【授業の方法】 現代社会の口頭伝承を主体的に考察するため、アクティブ・ラーニングを行う。書籍からの情報収集もおこなうが、フィールドワークによる聞き取り調査も取り入れる。 その上で、各自の考察を論文にまとめる。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	○	◎	◎	◎	○	
ゼミ教員担当科目	日本文学、日本文学史、国語、日本語		関係する科目	日本文学・日本文学史			
テキスト	特になし。プリントを配布する。						
参考書	随時紹介する。						
成績評価方法	卒業論文の内容と作成過程を総合的に評価する。						
年間授業計画	(春学期)			(秋学期)			
	④ 卒業論文のテーマ設定 ⑤ 卒業論文作成に向けた情報収集と分析。 ⑥ 中間発表			④ 中間発表を踏まえて、内容の改善と執筆 ⑤ 内容の最終チェックと完成 ⑥ 2年生と3年生に向けた発表会			

ゼミ名	時津第一ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新2年生4名程度	担当教員	時津 裕子
選考方法	① エントリーシート作成→②面談						
研究テーマ	私たちの行動の「なぜ」を心理学で解き明かそう						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 心理学と聞くと多くの人がイメージするのが、人の性格や心の病の問題でしょうか。しかし、ひとたび私たちの生活や社会を見渡せば、実にたくさんの「なぜ」が溢れていることに気がつくと思います。気をつけていても交通事故や医療ミスはなかなか無くならないし、一見するとあからさまな悪徳商法にも人はころりと騙されてしまいます。運転下手や方向音痴はどうすれば克服できるのでしょうか。記憶力を高めたり、外国語を身に着けるためのコツは？ ヒット商品やベストセラーになる「名作」の何に私たちは魅了されるのでしょうか？</p> <p>こういった、私たち人間の行動・社会に関わる「なぜ」を解く鍵は常に「心」が握っているのです。心理学はその「なぜ」に挑むための学問です。ゼミナールの目的や目標も、そうした「なぜ」を明らかにすることです。疑問の内容は、人の行動（製作物もOKです）や社会に関連するものであれば、自由に設定して構いません。</p> <p>【ゼミナールの概要】 活動内容 ゼミ活動の最終ゴールは4年次で取り組む卒業研究です。受講生の一人一人が設定した問題に挑み、最終成果として論文を執筆することになります。この第一ゼミナールでの活動はいわばその前哨戦となります。研究を行うための基礎力として、人の行動を研究する代表的な方法論である「観察、実験、調査」などの手法を学びます。また、集めたデータを読み解くための解析法や統計学についても学びます。そういった基礎トレーニングと並行して実践の機会（つまり、実験や調査をやってみる）も2年次から織り交ぜ、バランスよく進めていきたいと思えます。3年次では、卒業研究の個別テーマ選択も意識して進めていきます。ここからは与えられるだけの勉強ではありません。学ぶことが多く苦勞もするでしょうが、自ら切り開いていくゼミ活動は楽しいですよ。</p> <p>注意事項など</p> <ul style="list-style-type: none"> 原則として全授業回に出席することが前提です。やむを得ない理由で遅刻・欠席する時も事前連絡は必須です。長い付き合いになりますし、ゼミ仲間や担当教員との信頼関係を大事にしましょう。 1年次で心理学A・Bを履修しておくことを強く推奨します。2年次では実験心理学を必ず履修してください。認知心理学など、その他の心理系科目もできる限り履修することを勧めます。 <p>どのような学生に参加してほしいか 大学生活で打ち込めるものがほしい、こだわりを持って取り組みたいという人の参加を歓迎します。人から指示され教えられるよりも自分で考えて行動したい人、こだわって工夫できる人には過ごしやすいゼミになるのではないのでしょうか。反対に、言われたことをほどこにやる程度でよい、ゼミ活動にはそれほど時間も熱量も割けそうにない、という人にはお勧めできないゼミだと思います。研究したいテーマなどはまだ決まっていなくても大丈夫です。ゼミの中で一緒に考えましょう。心理学の研究活動には対人コミュニケーションスキルや数学的な素養も必要ですので、現在それらに自信がない人はゼミ活動の中で実力をつける気持ちで来てください。なお、1年次ですでに授業への出席率や単位取得率が極端に低い人は、ゼミ活動に十分な時間を割けなくなる可能性が高いため不向きです。</p> <p>【授業の方法】 テーマに沿って研究を計画し、実験・調査データを取得し、解析を通じて結論を導く過程は問題解決の実践にほかなりません。グループワークやディスカッションの機会も多く、授業内活動のほとんどはアクティブラーニングに相当します。共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要／○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	② 複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	○	○	○	○	
担当科目	心理学A・B、認知心理学、実験心理学		関係する科目	心理学A、心理学B、認知心理学、実験心理学 その他心理系科目			
ステキ	各回授業で必要資料を配布します。						
参考書	高野陽太郎・岡隆編『心理学研究法』有斐閣 2004 山田剛史・村井潤一郎『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房 2004 その他、随時紹介します。						
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題、実習レポートなど提出物の内容 (約30%) 実験・調査実習、ディスカッションなどグループワーク時の活動状況と貢献度 (約50%) プレゼンテーションに関わる技術の習得・創意工夫 (約20%) <p>上記を総合して評価します。いずれにおいても受講生の主体的・能動的取り組みを高く評価します。また、個々の受講学生内での成長度や知識・技術の向上度についても評価します（過去のあなた自身と比較した場合の成長度です）。</p>						
年間授業計画	(春学期) ① 基礎トレーニング(実験計画法、調査法、データ解析、論文検索と読み方など) ② 実験・調査実習(テーマを定めて、データを取得、分析します。結果について討論・発表しましょう)			(秋学期) ① 基礎トレーニング(春学期より継続) ② 実験・調査実習(春学期より継続) ③ ゼミ発表会準備 ④ 卒業研究テーマの検討(3年生中心)			

ゼミ名	時津第二ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新4年生対象のため 募集せず	担当教員	時津 裕子																				
選考方法																											
研究テーマ	私たちの行動の「なぜ」を心理学で解き明かそう																										
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 私たちの生活や社会を見渡せば、実にたくさんの「なぜ」が溢れていることに気がつくと思います。気をつけていても交通事故や医療ミスはなかなか無くならないし、一見するとあからさまな悪徳商法にも人はころりと騙されてしまいます。運転下手や方向音痴はどうすれば克服できるのでしょうか。記憶力を高めたり、外国語を身に着けるためのコツは？ ヒット商品やベストセラーになる「名作」の何に私たちは魅了されるのでしょうか？ こういった、私たち人間の行動・社会に関わる「なぜ」を解く鍵は常に「心」が握っているのです。心理学はその「なぜ」に挑むための学問です。ゼミナールの目的や目標も、そうした「なぜ」を自身の力で明らかにすることです。疑問の内容は、人の行動（製作物もOKです）や社会に関連するものであれば、自由に設定して構いません。</p> <p>【ゼミナールの概要】 活動内容 受講生の一人一人が設定した問題に挑み、最終成果として卒業論文を執筆します。第一ゼミナールでの活動を引き継いで目指す集大成という位置づけになります。研究課題に適した「観察、実験、調査」などの研究手法を選択し、取得したデータを解析の後に結論を導きます。第一ゼミナールで実施した基礎トレーニングで賄えない部分については、その都度新たに学習していくこととなります。卒業論文の完成後は、ゼミ内での発表会に向けて口頭発表の技術(プレゼンテーション・スキル)を高めます。 注意事項など 実験・調査の計画から実施、結果の分析と論文執筆には、少なく見積もっても授業時間内での活動以外に 100 時間相当の取り組みが必要です。これまで以上に報告・連絡・相談を密にして、活動レベルを高めていきましょう。 3年次終了時点での取得単位が極端に少ないなど、これまでの学習状況が芳しくない受講生については、テーマ選択が制限されてしまうおそれがあります(テーマに応じて必要な活動時間が変わってくるためです)。また、非常に残念ですが、卒業研究の遂行自体を断念せざるを得ない場合もあると思います。そうした事態に陥らず充実した研究活動を送るためにも、現在の学生生活でできる努力を重ねてください。</p> <p>【授業の方法】 自ら選択したテーマに沿って研究を計画し、実験・調査データを取得し、解析を通じて結論を導く過程は問題解決の実践にほかなりません。グループワークやディスカッションの機会も多く、授業内活動のほとんどはアクティブラーニングに相当します。</p>																										
到達目標	<p align="center">【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要／○重要)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">(1)常に半歩先立つ進歩性</th> <th colspan="3">(2)考えて行動する力</th> <th colspan="3">(3)ともに行動する力</th> </tr> <tr> <th>①問題を解決する力</th> <th>②論理的に考える力</th> <th>③複数の視点から考える力</th> <th>①コミュニケーションする力</th> <th>②他者を受け入れる力</th> <th>③倫理観と社会的責任</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td align="center">◎</td> <td align="center">◎</td> <td align="center">◎</td> <td align="center">◎</td> <td align="center">◎</td> <td align="center">○</td> <td align="center">○</td> </tr> </tbody> </table>							(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力			①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任	◎	◎	◎	◎	◎	○	○
(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力																							
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任																					
◎	◎	◎	◎	◎	○	○																					
担当教員	心理学 A・B、認知心理学、実験心理学		関係する科目	心理学A、心理学B、認知心理学、実験心理学 その他心理系科目																							
テキスト	各回授業で必要資料を配布します。																										
参考書	小塩真司・卓香菜子『心理学の卒業研究ワークブック』金子書房 2015 その他、随時紹介します。																										
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 研究計画の作成と遂行 (約 30%) 卒業論文の完成度 (40%) プレゼンテーションに関わる技術の習得・創意工夫 (約 30%) 上記を総合して評価します。いずれの項目においても、取り組み過程における主体性や粘り強さを高く評価します。																										
年間授業計画	4~5月：研究テーマの絞り込み、文献調査、予備調査・予備実験 6~10月：データ取得と解析 11~12月：卒業論文の執筆 1月：プレゼンテーション練習と発表会																										

ゼミ名	徳田第一ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新2年生 5名程度 新3年生 0名	担当教員	徳田 治子
選考方法	(1)エントリーシート(志望の理由、ゼミで学びたいこと等)をA4用紙1枚程度に記入し事前に提出する。 (2)面接(原則として対面で行う。新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、zoomを用いた面接を実施する場合もある)						
研究テーマ	より良く生きるための心理学						
ゼミナールの目標と概要	<p>《ゼミナールの目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる人間の心理や変化の可能性、またそれを支える環境や支援のあり方について学ぶ。 ・個別テーマの探求、ならびにゼミ生間の協同的な学びを通して、私たちがより良く生きるうえで心理学が果たすことができる社会的役割や責務について考察を深める。 ・インタビュー法を中心に心理学の研究手法の習得を通して、実証科学としての心理学研究のあり方について学ぶ。 <p>《ゼミナールの概要》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春学期は、ゼミ受講生の問題関心に寄り添いつつ、関連領域(発達心理学、青年心理学、ポジティブ心理学、質的調査法)に関する文献を共同で講読する。講読するテキストは、年度初めに教員から複数のテキストを提示し、受講生と相談の上決定する ・秋学期は、各自の学習度と進捗に応じて、個人テーマ研究についての概要報告を加えていく。文献検索の仕方、論文や統計データの読み方、インタビュー法や質問紙法、観察法を中心とした心理学研究法についても指導していく。 ・人生のモデルや憧れとする人を対象にライフストーリーインタビューを実施し、期末レポートとして提出する。 ・ゼミ発表会への参加については、ゼミ生との話し合いにより決定する。 ・ゼミ活動においては、活発な議論を通して、互いの考えを伝え合い、学び育ち合う関係をつくっていく。 ・チームで活動し、学び合うことに加え、卒論執筆を見据え、個人テーマを深めていくことを重視する。 ・ゼミ生の問題関心をさらに深めることを目的に、外部講師の招聘を予定している。 <p>《授業の方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッションなど協同で学習する機会を多く取り入れる。研究テーマに応じて関係機関との連携や見学を行う。 ・「共同授業形式で実施される「Mat ch plus」の受験を推奨する。また、受験結果に基づいた面談を実施する。 						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	◎	◎	○	○	
担当科目	児童学概論 A/B、青年心理学、児童心理学、生涯発達論		関係する科目	青年心理学、児童心理学、生涯発達論、児童学概論 A/B その他、心理学関連科目			
テキスト	開講時に指示する(教員から複数のテキストを提示し、受講生と相談の上決定する)。 (これまで用いたテキストについては、参考書の欄を参照のこと)						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・イローナ・ボニウェル(2015)『ポジティブ心理学が1冊でわかる本』(国書刊行会)(2015年度) ・イアン・レズリー(2016)『子どもは40000回質問するあなたの人生を創る「好奇心」の驚くべき力』(光文社)(2017年度) ・キャロル・デュエック(2016)『マインドセット:「やればできる!」の心理学』(草思社)(2018年度) ・ダニエル・コイル(2018)『THE CULTURE CODE 最強チームを作る方法』(かんき出版)(2019年度) ・速水敏彦(監修)(2012)『コンピテンス:個人の発達とよりよい社会形成のために』(ナカニシヤ出版)(2020年度) ・串崎真志(2020)『繊細な心の科学:HSP入門』(風間書房)(2021年度) ・永岑 光恵(2022)『はじめてのストレス心理学』(岩崎学術出版社 2023年度) 						
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・出席、ゼミでの発表、議論への参加態度などから総合的に評価します。 ・特別な理由がない限り、ゼミへの欠席は認めません。自ら学ぶ意志をもってゼミ活動に参加する姿勢を求めます ・自分の関心やテーマに主体的に取り組むとともに、自分以外の者のテーマにも積極的に関心を示す能動的な態度、“知的好奇心”、頭で考えるだけでなく、身体や心で感じ、自分と異なった人々と関わり、理解する姿勢を評価します。 						
年間授業計画	① 4~6月 指定したいいくつかのテキスト、もしくは、ゼミ生の研究テーマから文献を選択し、毎回発表者を決めて講読する。 ② 7月~11月 ゼミ発表テーマ、ならびに各自の興味関心に基づいて文献を整理し研究テーマを確定する。その後、フィールド調査をはじめ各種データ収集、分析を行い、成果を発表する。		(秋学期) ③12月~1月 ・ライフストーリーインタビューの計画と実施。 人生を聴く、話すという経験の意味についてインタビューにおける聞き方と問い方のスキルインタビューの実施 データ整理の仕方 ・期末レポートの作成				

ゼミ名	徳田第二ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新4年生0名	担当教員	徳田 治子
選考方法	募集なし						
研究テーマ	より良く生きるための発達心理学						
ゼミナールの目標と概要	<p>《ゼミナールの目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> 発達心理学、青年心理学、ポジティブ心理学を中心とした心理学研究の知見をベースに、生涯にわたる人間の心理や私たちがより良く生きるうえで心理学が果たすことのできる社会的役割や責務について考察を深める。 <p>《ゼミナールの概要》</p> <p>以下の項目に従い、個別テーマの研究計画を立て、卒業論文を執筆する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 調査テーマと対象 2) 興味、テーマの選定理由 <ul style="list-style-type: none"> ①個人的関心・興味：自分はなぜその対象に興味をもっているのか。可能な範囲で個人的な関心の理由を述べる。 ②社会的背景・意義：テーマの現代的、社会的意義について述べる。 3) 究極のテーマ：自分は、このテーマの探求を通して、究極的にどんなことを達成したいと考えているか。 4) 研究方法 5) 参考文献 <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ生の問題関心をさらに深めることを目的に、外部講師の招聘を予定している。 <p>《授業の方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の研究テーマに応じて関係機関との連施や参与観察、インタビューを実施し、実践的に価値のある知識の獲得を目指す。 						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要／○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	○	◎	○	◎	
ゼミ担当科目	児童学概論、青年心理学、児童心理学		関係する科目	青年心理学 児童心理学 その他、心理学関連科目			
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・スタイナー・クヴァール (2016) 『質的研究のための「インター・ビュー」』 (新曜社) ・ロバート・アトキンソン (2006) 『私たちのなかにある物語：人生のストーリーを書く意義と方法』 (ミネルヴァ書房) 						
参考書	白井利明・高橋一郎著 (2008) 『よくわかる卒論の書き方』 (ミネルヴァ書房)						
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点 (出席、ゼミでの発表、議論への参加態度等) ・期末レポート 						
年間授業計画	(春学期)			(秋学期)			
	各自のテーマを掘り下げ、具体的な研究計画の実施に向けた準備を進める。 4～7月 ・各自が設定した研究テーマにそって、研究内容や手法に関する文献を講読する。 ・夏期休業を利用し、各自で興味をもったフィールドの訪問や文献資料の収集を行う。			10～12月 ・それぞれの卒論執筆計画のもと、データの収集、分析を行い、卒論を執筆する。 1月 ・卒論を完成させる。 ・全体会で卒論の発表を行う。			

ゼミ名	長谷川第一ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新2年生 約5名 新3年生 若干名	担当教員	長谷川 万希子
選考方法	エントリーシートと面接						
研究テーマ	児童教育ワールド徹底研究！＜教育分野で活躍しよう＞						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】</p> <p>《目標》 本学の児童教育専攻で学ぶと、教育分野でどのような活躍ができるかを徹底研究する。</p> <p>①児童教育専攻の卒業生で、教育分野で活躍している先輩達の現在を調べる。</p> <p>②児童教育専攻で何をどのように学べるかを、理解する。</p> <p>③教育現場はどのように変化し、どのような課題が生じていて、教育分野で活躍するために何が必要となるか、を確認する。</p> <p>④多様な子どもの教育支援の場と方法を調べ、教育分野で活躍できる場を明らかにする。</p> <p>【ゼミナールの概要】</p> <p>教育分野で活躍するために、児童教育専攻の卒業生や教育分野の専門家に訪問・招聘・遠隔でインタビューをし、教育現場の実態と教育課題、教育分野で活躍するために学生時代に求められていること、将来活躍できる教育現場に対する視野を広め、問題意識を深める。</p> <p>【授業の方法】</p> <p>①各種教育機関訪問・関係者招聘・遠隔インタビュー</p> <p>○小学校教諭</p> <p>○塾講師</p> <p>○幼児教室指導者</p> <p>○特別支援教育担任</p> <p>○その他</p> <p>②子どもと関わる活動・ボランティア</p> <p>○子どもを支援する場(小学校・幼稚園・保育所・学童クラブ・放課後等居場所・児童館)、地域子ども対象イベント・海外子ども支援・他</p> <p>【このような学生にお勧め】</p> <p>①教員になりたい人</p> <p>②子どもに関わりたい人</p> <p>③福祉に関心がある人</p> <p>④ボランティアをやりたい人</p> <p>共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎
担当科目	社会福祉論 A, B、ボランティア論 A, B、健康と医療の社会学		関係科目	社会福祉論 A, B、ボランティア論 A, B、教育学 A, B、特別支援教育 A, B、その他教職(関連)科目			
テキスト	特になし(必要に応じて配布する)。						
参考書	特になし(必要に応じて配布する)。						
成績評価方法	ゼミの授業時間内の活動姿勢・態度：25%、他のゼミ生との協力姿勢：25%、ゼミ関連活動(学外での活動等)への取り組み姿勢：25%、円滑なゼミ運営のための報告・連絡・調整の実施 25%						
年間授業計画	(春学期) 1～10回： 子どもに関わる専門家・研究者等を訪問・招聘・遠隔インタビュー ○小学校教諭 ○塾講師 ○幼児教室指導者 ○特別支援教育担任 ○その他 11～15回： ○関連書籍講読 ○バングラデシュ子ども支援 ※外部講師を招聘する講義を予定			(秋学期) 1～5回：ゼミ発表の準備 6～8回：ゼミ論文執筆 9～11回：子どもにかかわるボランティア 12～15回：バングラデシュ子ども支援 ※外部講師を招聘する講義を予定			

ゼミ名	長谷川第二ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新2年生 約5名 新3年生 若干名	担当教員	長谷川 万希子
選考方法	エントリーシートと面接						
研究テーマ	児童教育ワールド徹底研究！＜児童福祉分野で活躍しよう＞						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】</p> <p>《目標》 本学の児童教育専攻で学ぶと、児童福祉分野でどのような活躍ができるかを徹底研究する。</p> <p>①児童教育専攻の卒業生で児、童福祉分野で活躍している先輩達の現在を調べる。</p> <p>②児童教育専攻で何をどのように学べるかを、理解する。</p> <p>③児童福祉の現場はどのように変化し、どのような課題が生じていて、児童福祉分野で活躍するために何が必要となるか、を確認する。</p> <p>④多様な子どもの児童福祉分野の支援の場と方法を調べ、児童福祉分野で活躍できる場を明らかにする。</p> <p>【ゼミナールの概要】</p> <p>児童福祉分野で活躍するために、児童教育専攻の卒業生や児童福祉分野の専門家に訪問・招聘・遠隔でインタビューをし、児童福祉現場の実態と児童福祉課題、児童福祉分野で活躍するために学生時代に求められていること、将来活躍できる児童福祉現場に対する視野を広め、問題意識を深める。</p> <p>【授業の方法】</p> <p>①各種教育機関訪問・関係者招聘・遠隔インタビュー ○児童養護施設(児童指導員) ○学童クラブ・放課後等居場所事業(児童指導員) ○放課後等デイサービス(児童指導員) ○母子生活支援施設(児童指導員) ○地域居場所事業 ○保育所 ○その他</p> <p>②子どもと関わる活動・ボランティア ○子どもを支援する場(小学校・幼稚園・保育所・学童クラブ・放課後等居場所・児童館)、地域子ども対象イベント・海外子ども支援・他</p> <p>【このような学生にお勧め】</p> <p>①児童福祉に関心がある人 ②子どもに関わりたい人 ③教員になりたい人 ④ボランティアをやりたい人</p> <p>共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	
担当教員	社会福祉論 A, B、ボランティア論 A, B、健康と医療の社会学	関係科目	社会福祉論 A, B、ボランティア論 A, B、特別支援教育 A, B、社会保障論 A, B、公的扶助論 A, B、家族社会学 A, B				
テキスト	特になし(必要に応じて配布する)。						
参考書	特になし(必要に応じて配布する)。						
成績評価方法	ゼミの授業時間内の活動姿勢・態度：25%、他のゼミ生との協力姿勢：25%、ゼミ関連活動(学外での活動等)への取り組み姿勢：25%、円滑なゼミ運営のための報告・連絡・調整の実施 25%						
年間授業計画	(春学期) 1～10回： 子どもに関わる専門家・研究者等を訪問・招聘・遠隔インタビュー ○児童養護施設(児童指導員) ○学童クラブ・放課後等居場所事業(児童指導員) ○放課後等デイサービス(児童指導員) ○母子生活支援施設(児童指導員) ○地域居場所事業 ○保育所(保育士) ○その他 11～15回： ○関連書籍講読/○バンングラデシュ子ども支援 ※外部講師を招聘する講義を予定			(秋学期) 1～5回：ゼミ発表の準備 6～8回：ゼミ論文執筆 9～11回：子どもにかかわるボランティア 12～15回：バンングラデシュ子ども支援 ※外部講師を招聘する講義を予定			

ゼミ名	松谷ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新2年生 8名 新3年生 0名	担当教員	松谷明美
選考方法	現ゼミ生と担当教員による面接						
研究テーマ	ヒトの言葉について						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 普段あたりまえのように使っている我々（ヒト）の言葉の現象を考えることで、ヒトの言語能力、意味解釈、言語運用などを探っていきます。</p> <p>【ゼミナールの概要】 言葉は人間に固有なものです。このゼミでは、「(音・文字で表される)言語」と「(ジェスチャー・身振り・しぐさ等で表される)非言語」を様々な(例えば、日本語圏と英語圏)角度から、比較・対照して、言葉が意味するもの、人間の本質(心理状態・身体状態・言葉そのもののしくみ)と周囲の環境・状況について考えます。また、どのようにヒトが言葉を身に付けるか(そのプロセス)についても考えます。</p> <p>【授業の方法】 ゼミ生各自が主に下記の視点から、興味を持つテーマを選び、先行研究をもとにデータ収集をして、分析を行います。そして、ゼミの中で話し合いをしながら、考察をします。</p> <p>① 日本人の身振り言語と外国人の身振り言語を比べる(テレビドラマ・映画・コマーシャル・雑誌などメディア・実際の調査・先行研究から) ② 大人の言葉と子供の言葉を比べる(テレビドラマ・映画・雑誌などメディア・実際の調査・先行研究から) ③ 若者の言葉と年配の言葉を比べる(テレビドラマ・映画・雑誌などメディア・実際の調査・先行研究から) ④ 男性の言葉と女性の言葉を比べる(テレビドラマ・映画・雑誌などメディア・実際の調査・先行研究から) ⑤ 異なった地域の言葉を比べる(テレビドラマ・映画・雑誌などメディア・実際の調査・先行研究から) ⑥ 母国語と外国語を比べる(テレビドラマ・映画・雑誌などメディア・実際の調査・先行研究から)</p> 共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。						
⑧到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	○	◎	◎	◎	○	○	
担当科目	英語、TOEIC 英語、言語学	関係する科目	人間科学概論・言語学・哲学・心理学・異文化間コミュニケーション・ヒューマンコミュニケーション				
テキスト	学生が取り組むテーマに合わせた文献と配布資料						
参考書	授業中に指示						
成績評価方法	ゼミ発表準備・報告書作成等を含む授業の参加度から総合評価						
年間授業計画	(春学期) 代表的な先行研究を読む ↓ ゼミ発表の大きなテーマを決める ↓ 関連する文献を読む ↓ 具体的なトピックに絞り込む ↓ 仮説を立て、研究計画を練る			(秋学期) 実際にデータ収集を行う ↓ 収集したデータをする ↓ ゼミ発表の準備を行う ↓ ゼミ発表の報告書を仕上げる			

ゼミ名	吉原第一ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新2年生 5名程度 新3年生 募集なし	担当教員	吉原 千賀
選考方法	面接						
研究テーマ	家族関係について「社会」と「心理」から考える						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p><目標> 「家族」は私たちにとって最も身近な人間関係である。そして、私たちが生まれ落ちてから死後に至るまで、家族との関係は時に形を変えながら私たちに影響を及ぼし続ける。では、「身近である＝よく知っている」と言えるのだろうか。自分の思い描く家族は本当に「ふつう」なのだろうか。このゼミでは、家族を相対化する視点を養いつつ、家族関係にかかわる各自の問題関心の発掘、発見およびそこに潜む現代社会がかかえる問題の追究・解明を目標とする。</p> <p><概要> ゼミでの学習は、まず「自ら問題を発見し、調べ、まとめて、発表する」という主体的な参加プロセスが重視される。そのうえで、ゼミ生同士がお互いに自らの考えを述べ、相手の意見や考えを理解しつつ、深め合える場にしたいと考えている。ゼミ活動を通して社会生活にとって最も重要である対人関係能力、コミュニケーション能力を養って欲しい。ゼミは学生主体の場であり、教員はそのサポート役と位置づけている。積極的なゼミ活動への参加、企画提案、貢献を強く求めたい。 *ゼミ受講生の問題関心やその理解を深めるため、テーマ等に応じて外部講師の招聘も予定している。</p> <p><過去のゼミ研究テーマ> 婚活、男性の子育て、結婚制度についての日本と諸外国との比較研究、性格と兄弟姉妹関係、里親、育児ストレス、子育て不安、中期親子関係と介護、児童虐待、ステップファミリー、父子家庭問題、少年犯罪と家族、共依存と家族、モンスターペアレント、母-息子関係、児童養護施設と子ども、若者の非婚・未婚化、配偶者選択、結婚式をやる意味、離婚と子ども、チーム育児、ワンオペ育児、より良い親になるために、など、毎年ゼミ生と話し合って決定している。</p> <p>【授業の方法】 ゼミナール発表会に向けてグループワークやフィールドワークを実施したり、家族にかかわるテーマでディベートを行ったりすることも考えている。</p> <p>共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
	◎	○	○	◎	◎	◎	◎
担当ゼミ科目	社会心理学、家族社会学、対人関係論、家族関係論、ライフコース論			関係する科目	社会学、ライフデザイン論、発達心理学など		
テキスト	年度はじめにゼミ生とともに話し合って決定する。						
参考書	ゼミを進める中で適宜、紹介する。						
成績評価方法	出席し、発言することが大前提であり、無断欠席をはじめとする他のメンバーへの迷惑行為は厳禁である。日頃のゼミ活動全般への参加態度、貢献度などを総合的に評価する。						
年間授業計画	(春学期) ゼミ生の問題関心に応じて家族関係にかかわる基本的かつ重要文献をいくつか選定して輪読する。資料収集・文献検索の方法を習得する。			(秋学期) 詳細は、ゼミ生の問題関心、研究進度に応じて決定する。			

ゼミ名	吉原第二ゼミナール (Seminar)		学部	人間科学部	募集学年	募集なし	担当教員	吉原 千賀
選考方法	—							
研究テーマ	家族関係について「社会」と「心理」から考える							
ゼミナールの目標・概要・方法	<p><目標> 「家族」は私たちにとって最も身近な人間関係である。そして、私たちが生まれ落ちてから死後に至るまで、家族との関係は時に形を変えながら私たちに影響を及ぼし続ける。では、「身近である＝よく知っている」と言えるのだろうか。自分の思い描く家族は本当に「ふつう」なのだろうか。このゼミでは、家族を相対化する視点を養いつつ、家族関係にかかわる各自の問題関心の発掘、発見およびそこに潜む現代社会がかかえる問題の追究・解明、4年次では更にそれらを卒業論文としてまとめることが目標となる。</p> <p><概要> これまでのゼミで培った様々なスキルや経験、知識を自らの研究テーマへと展開させるとともに、2、3年生に対して指導的立場に立つことにより、「教える」ということから新たな学びを得て欲しい。 *ゼミ受講生の問題関心やその理解を深めるため、テーマ等に応じて外部講師の招聘も予定している。</p> <p><過去の卒論研究テーマ> 結婚活動について 離婚問題～離婚後も続いていく問題～ 日本のチームワーク意識 人びとが生きるために 日本の育児～父親のあり方の変化～ きょうだいは本当に「良い」のだろうか～ひとりっ子はかわいそう?～ 家族計画～社会問題との関わり～ 現代社会における仕事と子育て～両立の困難～ 専業主婦家庭の母親、共働き家庭の母親 現代の親の幼稚化～その問題点と解決案～ HIV ウイルスと向き合う日本人 コミュニケーションと人間関係 就活生における自己呈示 “ふつう”に縛られたステップファミリー——“きずな”で結ばれた家族への道—— 子供の職業と親の影響 祖父母と孫の関係—生き方・向き合い方— ビハーラと医療のこれから など、各自の関心にもとづいて決定する。</p> <p>【授業の方法】 ゼミナール発表会に向けてグループワークやフィールドワークを実施したり、家族にかかわるテーマでディベートを行ったりすることも考えている。</p>							
到達目標	(1)常に半歩先立つ進歩性		(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任	
	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	
担当科目	社会心理学、家族社会学、対人関係論、家族関係論、ライフコース論			関係する科目	社会学、ライフデザイン論、発達心理学など			
テキスト	各自の卒業論文のテーマに応じて適宜、紹介する。							
参考書	各自の卒業論文のテーマに応じて適宜、紹介する。							
成績評価方法	日頃のゼミ活動全般への参加態度、貢献度、ならびに卒業論文への取組み姿勢、完成度などを総合的に評価する。							
年間授業計画	(春学期) 卒論テーマの決定、文献リストの作成 ↓ 文献リストに挙げた文献を読んで先行研究の検討 ↓ レビュー論文を執筆 ↓ 卒論構成の検討				(秋学期) 春学期までの内容について中間報告 ↓ 中間報告時のコメントをもとに、卒論構成を決定。章ごとに執筆と修正を繰り返す。 ↓ 12月：卒論完成、提出 ↓ 1月：レジュメを作成し卒論発表会（2、3年生ゼミと合同）で報告			

ゼミ名	鈴木岳人ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新2年生 10名程度 新3年生 若干名	担当教員	鈴木岳人
選考方法	面接						
研究テーマ	自然科学に「言葉で」迫る						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>皆さんは文科系の学生であるという認識で大学に入ってきているであろう。そのため数学や物理などはあまり重点的に取り組んでこなかったかもしれないし、それらを敬遠してしまうなんていうこともあったかもしれない。それにはどうも大量の数式を使うというイメージが影響しているのではないかと。しかしここで述べておきたいのは、確かに数式による表現は必要ではあるものの、実は細かい数式を使わなくても自然科学は言葉で重要なポイントが理解できる、ということである。そしてそのように言葉で理解することが自然科学にはむしろ重要であると言えるかもしれない。本ゼミでは各テーマについて、極力簡単な言葉で自然科学の本質に迫っていくことを目指したい。</p> <p>初年度ということもあり、具体的なテーマは学生たちの興味に合わせて決めていきたい。森羅万象何でも良いのであるが、そうはいってもある程度具体例があった方が良いと思うので、以下に現時点でのアイデアを述べておく：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 半導体・超伝導・ブラックホール・重力波・・・聞いたことぐらひはあるかもしれない物理用語であるが、実際どのようなものなのか？ ● 人工知能・・・最近話題ではあるが、そもそもどんな原理で動いている？ ● 野鳥観察・・・近くのと田堀公園は野鳥観察で有名な場所。自然現象の観察の手始めとしては適切だと思う。 ● 気象・地震・・・地球規模での複雑な現象を、どのように簡単に理解するか？ <p>これらはあくまでも例であり、文化・スポーツ・芸術にまつわる話でも実は自然科学という観点からとらえ直すことはいくらでもできる。例えば言語を分類するとか、野球において効率良くボールを飛ばすとかというテーマにおいても、十分自然科学的な視点は養える。こういった視点を持つことは、社会に出た時にも必ず有効となる。あるいは教職課程で理科を履修している人にも大変有益であろう。将来理科を教える際、確固とした自然科学観を持っていることは大きなアドバンテージとなる。</p> <p>【授業の方法】</p> <p>テーマを決め、それに関連する文献を読んで理解を深め、最後に自分なりの解釈を加えた一つの筋道だったお話をまとめるということを考えている。特にアクティブ・ラーニングの観点から自分の力で考えること・話をまとめることを重視する。日本語を使うというのは当たり前のように完璧に使いこなすことは意外と難しい。起承転結のあるストーリーを自分で考えまとめるという経験も、社会では要求されるものである。なお、<u>共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨する。また、受験結果に基づいた面談を実施する。</u></p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要／○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	
担当科目	地球科学、宇宙科学、理科、科学史	関係する科目	地球科学、宇宙科学、理科				
テキスト	適宜指示する。テーマによっては Newton などに詳しく説明されていることが多いので、とりあげる可能性がある。						
参考書	適宜指示する。						
成績評価方法	出席状況（義務である）や貢献度を見て総合的に判断する。						
年間授業計画	(春学期) テーマ決め 文献決定 輪読 周辺分野の勉強 発表会準備			(秋学期) 発表会準備 発表会 そこでの反省も踏まえてレポートの執筆			

ゼミ名	三津田第一ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	新2年生 若干名 新3年生 若干名	担当教員	三津田 悠
選考方法	面接						
研究テーマ	人間と社会をめぐる探究——「生きづらさ」からの出発						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【授業の目標】</p> <p>(1) 自分自身や他者の「生きづらさ」に目を向け、その社会的背景を多様な視点から考察できる。 (2) 自分が納得のいくまで考えてみたい、語りつくしたいテーマやトピック（問い）を見つける。 (3) テキストをじっくりと（楽しみながら）読みとき、書き手の議論を精確に理解しようとする。 (4) 自分が考えていることを言語化し、筋道立てて説明することができる。 (5) 他者が話していることに耳を傾け、より深く正確に理解しようとする。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>私たちは日々生活するなかで、人間関係に悩んだり、世間の厳しさに打ちのめされたりすることがあります。そうした「生きづらさ」の経験を出発点として、その「生きづらさ」がどのようなメカニズムによって生み出されているのかを（<u>社会学的な見方・考え方を手がかりに</u>）さまざまな角度から考察していきます。今年度はキーワードとして「友だち」「恋愛（非モテ）」「親ガチャ」「HSP」「（発達障害者の）カモフラージュ」を挙げておきますが、皆さんご自身が考えてみたいテーマやトピック——好きなことでも、何となくモヤモヤしていることでも、何でも構いません——を研究することが可能です。最終的には、ご自身が突き詰めて考えてみたい「問い」を見つけ、調査・研究を進めることをとおして、人間と社会についての思考を深めていくことを目指します。<u>テキストの読解を重視しますが、本を読むことがあまり好きではない方、読書に苦手意識がある方も大歓迎です。</u>「読む楽しさ」を体験しましょう。</p> <p>【授業の方法】 ※講読テキストの候補については下記「テキスト」「参考書」欄を参照してください。 まずは「生きづらさ」に関連するテキストを読みながら、文献を読むことに慣れていきましょう。次に（あるいは並行して）各自が突き詰めて考えてみたいテーマやトピックについて調査・研究し、途中経過を定期的に報告していきます。調査・報告・討論からなるアクティブ・ラーニングを繰り返しながら、自らの思考を深めていきましょう。</p> <p>【その他（注意事項）】</p> <p>(1) 共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。 (2) 参加者の関心・意欲次第で、外部講師の招聘やフィールドワークを実施します。 (3) 2023年度に「栗原第一ゼミナール」で行なっていた研究を継続することも可能です（相談に応じます）。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 （◎特に重要／○重要）						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	○	○	◎	○	○	
担当ゼミ教員	社会学 AB、ヒューマン・コミュニケーション論 AB、Current Sociale Problems		関係する科目	ヒューマン・コミュニケーション論、社会学 その他（人間科学部の全科目が探究の手がかりとなり得ます。）			
テキスト	<p>テキストの候補を以下に挙げておきますが、参加者の希望次第で変更します（最終的に、話し合ってから決定します）。</p> <p>(1) 土井隆義, 2019, 『「宿命」を生きる若者たち——格差と幸福をつなぐもの』岩波書店。 (2) 菅野仁, 2008, 『友だち幻想——人と人の「つながり」を考える』筑摩書房。 (3) 草柳千早, 2011, 『「脱・恋愛」論——「純愛」「モテ」を超えて』平凡社。</p>						
参考書	<p>参加者の関心・意欲次第で、以下のテキストに挑戦するかもしれません。</p> <p>(1) 奥村隆, 2024, 『他者という技法——コミュニケーションの社会学』筑摩書房。 (2) ゲオルク・ジンメル, 1999, 『ジンメル・コレクション』北川東子編訳・鈴木直訳, 筑摩書房。</p>						
成績評価方法	<p>テキストの読解、報告、討論への取り組み姿勢・内容のほか、自身の研究テーマに関する調査・研究やゼミ発表会への取り組み姿勢・内容を総合的に判断して評価します（通年で評価します）。</p>						
年間授業計画	<p>（春学期）</p> <p>(1) 教員および参加者の関心を共有しながら、講読するテキストを決定する。 (2) テキストを読解し、内容について討論する。 (3) 関心のあるテーマやトピックについて調査・研究を行ない、途中経過について報告・討論する。 ※その他、参加者の関心・意欲次第で、フィールドワークやゼミ発表会の準備に取り組む。</p>			<p>（秋学期）</p> <p>(1) ゼミ発表会を念頭に、各自で、あるいはグループに分かれて、調査・研究を行なう。 (2) 調査・研究の途中経過について報告・討論する。 (3) (ゼミ発表会終了後) テキストの講読、あるいは各人の関心に基づいた調査・研究を行なう。 (4) 各自、今年度実施した調査・研究の成果を——卒論へと展開することを意識しながら——レポートにまとめる。</p>			

ゼミ名	三津田第二ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部	募集学年	原則として募集なし	担当教員	三津田 悠																				
選考方法	—— (原則として募集なし)																										
研究テーマ	卒業論文指導——納得のいくまで問い、論じるために																										
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【授業の目標】</p> <p>(1) 自分が納得のいくまで考えてみたい、語りつくしたいテーマやトピックから学術的な「問い」を作り出す。 (2) 自分の「問い」に対して自分なりに納得のいく答えを出せるよう努める。 (3) 自分の議論に必要な資料や文献、先行研究を収集し、適切に利用できる。(※特に剽窃には注意すること) (4) 論理的でわかりやすい文章によって、自分の議論を筋道立てて展開できる。 (5) 互いの議論をより充実したものにするために、積極的にゼミで報告し、他者の報告に対してコメントする。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>これまで専門ゼミ(ゼミⅡおよびゼミⅢ)で探究してきたテーマやトピック——好きなことでも、何となくモヤモヤしていることでも、何でも構いません——から卒業論文にふさわしい学術的な「問い」を作り出し、その「問い」に自分なりに決着をつけることを目指して卒業論文を書き進めていきます。卒論執筆は、自分が問いたいことを突き詰めて考え、じっくりと論じることができる、多くの人にとっておそらく人生で初めて最後の機会となるでしょう。自分なりに納得のいく成果を得られるよう、積極的な参加を期待します。教員はその取り組みを最大限支援します。</p> <p>【授業の方法】</p> <p>各自が1人で執筆を進められるように、ゼミの時間では研究計画や論文の構成に関する指導を中心に行いません。参加者は一定のペースで研究の進捗を報告し、教員は報告に対するフィードバックを行いません。他の卒業論文執筆者に加えて、ゼミⅡおよびゼミⅢ参加者の2年生・3年生が聞き手として参加することもあります。聞き手となる人は、報告者の議論をより充実したものにするためには何が必要かを考えながら報告を聞き、積極的にコメントしてください。執筆者はフィードバックやコメントを踏まえて自らの議論を修正・改善しつつ卒論を書き進めます。調査・報告・討論、そして執筆からなるアクティブ・ラーニングを繰り返しながら、自らの議論を深めていきましょう。</p> <p>【その他(注意事項)】</p> <p>2023年度に「栗原第一ゼミナール」で行なっていた研究を継続することも可能です(相談に応じます)。</p>																										
到達目標	<p align="center">【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">(1)常に半歩先立つ進歩性</th> <th colspan="3">(2)考えて行動する力</th> <th colspan="3">(3)ともに行動する力</th> </tr> <tr> <th>①問題を解決する力</th> <th>②論理的に考える力</th> <th>③複数の視点から考える力</th> <th>①コミュニケーションする力</th> <th>②他者を受け入れる力</th> <th>③倫理観と社会的責任</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td align="center">◎</td> <td align="center">◎</td> <td align="center">○</td> <td align="center">○</td> <td align="center">◎</td> <td align="center">○</td> <td align="center">○</td> </tr> </tbody> </table>							(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力			①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任	◎	◎	○	○	◎	○	○
(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力																							
	①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任																					
◎	◎	○	○	◎	○	○																					
担当科目	社会学 AB、ヒューマン・コミュニケーション論 AB、Current Sociale Problems	関係科目	ヒューマン・コミュニケーション論、社会学 その他 (人間科学部の全科目が探究の手がかりとなり得ます。)																								
テキスト	特に指示しません。各自の研究に必要な文献を収集し、読解してください。ただし、必要に応じて、文献の一部を持ち寄って(参加者全員で)検討することも可能です。																										
参考書	卒業論文の執筆に役立つ文献を挙げておきます(その他、授業内で適宜指示します)。 (1) 石黒圭, 2024, 『この1冊できちんと書ける!【新版】論文・レポートの基本』日本実業出版社。 (2) 戸田山和久, 2022, 『最新版 論文の教室——レポートから卒論まで』NHK 出版。																										
成績評価方法	ゼミⅣの単位取得には卒業論文の提出が必須です(提出なしの場合、原則として単位は認定できません)。卒業論文完成までに至るプロセス(取り組みへの積極性)を重視し、論文の内容を踏まえて、総合的に評価します。																										
年間授業計画	(春学期) (1) ゼミⅡおよびゼミⅢでの学びを振り返りながら、探究する「問い」を(暫定的に)設定する。 (2) 関連する(いずれ必要になる)であろう資料、文献、先行研究を調べ、一覧を作成する。 (3) 論文の構成、プロットを考える。 進捗報告と討議・フィードバックを繰り返し、ときには問いや構成を組み替えながら、論文を書き進める(夏休み前に執筆に着手するのが望ましい)。	(秋学期) 春学期の作業を踏まえて、原稿の完成を目指す。定期的にゼミの場で報告・フィードバックを行なう。それらの活動とは別に、希望があれば教員による個別指導や、卒業論文執筆者が互いの草稿を検討する機会を設ける。 多くの人が生まれてはじめて論文を書くのだから、最初は「書けない」としてもある意味で当たり前である。遠慮したり恥ずかしがったりするべき理由など存在しないので、困ったときは迷わずに教員やゼミ参加者に相談するのが望ましい。																									

ゼミ名	崔ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部《教職課程》	募集学年	新2年生 若干名 新3年生 若干名	担当教員	崔 玉芬
選考方法	エントリーシートと面接による総合評価						
研究テーマ	心理学の視点から教育を考える						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【授業の目標】 崔第一ゼミナールは、心理学の視点から学校現場で起きている様々な問題について考察することを通して、主体的な学び、議論する学習を実現する。常に先を見て努力を重ね、目標に向かって着実に接近していくことができるようになるために、自ら課題を発見し、問題を解決する力、考える力を育てることを目的とする。</p> <p>【授業の概要】 崔第一ゼミナールは2年生と3年生で構成される。 基礎文献の輪読を行い、研究の基礎知識を身につける。グループに分かれて、グループ別に独自テーマを設定し、研究を行う。また、定期的にゼミ内で発表を行い、担当教員や他のゼミ員からのアドバイスを受けながら、ゼミ活動を進める。 <活動内容とアドバイザー制度> 本ゼミでは、「将来のことを見据えたうえで、進歩し続ける人材育成」「学問領域で深い探求心をもった人材育成」を目標としているため、質問紙調査、インタビュー調査、グループ学習を行う。また、本学のアドバイザー制度の趣旨に基づき、3年生を対象に就職活動に対する相談、支援を行う。 <社会とのつながり> 本ゼミでは、教育の経験豊かな外部講師を招き、学校教育の現状について解説を行う。教育現場の現状や起きている問題などについて、事例を挙げながら詳しく説明する。</p> <p>【授業の方法】 質問紙調査、インタビュー調査等の研究方法を使用する。グループディスカッション、グループ学習、調査についての発表会など、アクティブラーニング形式で行われる。 共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	○	○	
担当教員	教育心理学、教育相談の基礎、生徒指導論、教職インターンシップ	関係する科目	教育心理学、教育相談の基礎、生徒指導論、教育インターンシップ				
テキスト	授業時に指示する。 必要に応じてレジュメを配布する。						
参考書	授業時に紹介する。						
成績評価方法	受講態度、グループ活動への取組みなどを総合的に評価する。 ①受講態度 無断欠席厳禁。毎回のゼミへの出席は当たり前のこと。勉強会や討論会への参加が求められることがある。 ②グループ活動への積極的な取り組み 主体的・積極的かつ協働的に課題に取り組むことや、積極的な発言、調査の実施などを重視する。						
年間授業計画	(春学期) ・4月～6月 輪読。1回目のゼミで発表担当者を決めて、興味関心ある文献を輪読する。 ・7月～9月 グループに分かれて、各自の興味関心に基づいて文献を整理し、研究テーマを決める。質問紙調査やインタビュー調査の内容を決める。			(秋学期) ・10月～11月 質問紙調査やインタビュー調査を実施する。データを整理し、結果を分析する。 ・12月～1月 調査結果に基づいて期末レポートを作成する。研究報告会を行う。			

ゼミ名	鈴木第一ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部《教職課程》	募集学年	新2年生 5名 新3年生 若干名	担当教員	鈴木 隆弘
選考方法	面接						
研究テーマ	教育と社会						
ゼミナールの目標と概要	<p>【目標】 このゼミでは、子どもの実態から教育について学ぶことをめざします。日本社会や世界がかかえる課題が教育においてどのようにあらわれるかについても検討します。たとえば、①社会の課題について。 ②学校の課題について。 ③社会・学校の変化について。 以上3点をふまえ、現代の社会を生きる市民として、あるいは教員として求められるスキルを身につけることをめざします。</p> <p>[過去のゼミ発表テーマ] 学生と共に考えるゼミを目指して運営しますので、ゼミ生の構成・考え・やりたいことに従ってテーマが決定されます。過去の発表テーマは以下の通りです。水道の授業、玉川上水の歴史、修学旅行、牛乳工場の見学、体罰と学校、組体操と運動会、理想の休職、校則の問題など。近年は、農作業・園芸等も行っています。やりたいことが形にできるゼミを目指しています。</p> <p>【概要】 次のようなテーマを実施する予定です。 ○教育の変化。 GIGA スクール構想など、IT 技術の発展に応じて学校と社会はどうあるべきか。 ○社会問題と教育の役割。 貧困問題・環境問題・人権の課題など、また「持続可能な開発目標」(SDGs) とそれを踏まえた教育の在り方についての研究。 ○子供の現在。 子供の変化について。情報化の進展は子供に変化を与えたのでしょうか。(教職課程履修者には以下のようなテーマでも実施します。) ○小学校の生活科、中学校社会科、高等学校公民科、また特別活動・総合的な学習の時間を中心にした授業づくりの方法。 特に、環境教育・開発教育・人権教育・法教育・ESD (SDGs) など新しい教育分野に関する研究をします。 ○授業研究、授業方法研究。○授業分析。○授業実践。</p> <p>【授業方法】 ○文献の輪読及びフィールドワークを適宜行います。外部講師を招くことがあります。 ○教員を目指す学生に対しては、教員採用対策・小論文指導・模擬授業等を行います。 ○ゼミ合宿が実施された場合参加は原則義務としています。 共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	
担当科目	生活科指導法、社会科指導法、生活、社会 社会科・公民科教育論/指導法 特別活動		関係する 科目	生活、社会、理科などの小学校教員養成科目 社会科・公民科教育法などの中・高教員養成科目 その他学部基礎科目全般			
テキスト	受講生と相談の上、開講時に指定します。						
参考書	受講生と相談の上、適宜、指定します						
成績評価方法	理由のない欠席は認めません。 発表の内容、議論の参加具合によって、総合的に判断し、評価します。						
年間授業計画	(春学期) 2年生：テキストの輪読やフィールドワーク 3年生：テキストの輪読やフィールドワーク *合宿を実施する場合があります。			(秋学期) 2年生：テキストの報告及び調査、ゼミ発表 3年生：テキストの報告、調査、ゼミ発表、卒論のテーマ決定			

ゼミ名	鈴木第二ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部《教職課程》	募集学年	募集なし	担当教員	鈴木 隆弘
選考方法	—						
研究テーマ	教育と社会						
ゼミナールの目標と概要	<p>【目標】 以下のテーマに従い研究、並びに卒論作成を行います。</p> <p>○「授業づくりを中心とした学校教育研究」 教育実習などで体験した自らの体験を振り返り、授業実践・授業づくりを中心として、学校教育の課題と地域における学校の新しい可能性について研究します。対象は、社会科・生活科・公民科を中心としますが、特別活動、あるいは学校教育全般です。</p> <p>○「地域課題と日本社会」 地域、特に市区町村レベルにあらわれた地域の課題を私たちはどのように解決できるのか。その視点から、学校だけでなく、市民一般の役割について研究します。教職課程履修者以外の卒論テーマとなります。</p> <p>【概要】</p> <p>○子どもの成長する場として地域を捉え、地域あり方、地域と教育の関係、現在の教育問題などについて検討する。 ○子どもが学ぶ場としての地域と学校の関係などについて分析を捉え、分析する。 ○授業内容研究／方法研究 ○授業分析 ○学校の抱える問題点と授業（教科教育に限りません）の関係について</p> <p>【授業方法】</p> <p>○研究のために、文献の輪読及びフィールドワークを適宜行います。外部講師を招くことがあります。 ○教員を目指す学生に対しては、模擬授業等を行うこともあります。 ○フィールドワークは、ゼミ合宿などで行うことがあります。 ○ゼミ合宿の参加は、卒論に向けた中間発表があるため、原則、義務とします。 ○適宜、教員採用試験対策並びに就職指導を行うことがあります。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要／○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	
担当教員	生活科指導法、社会科指導法、生活、社会 社会科・公民科教育論/指導法 特別活動	関係する科目	生活、社会、理科などの小学校教員養成科目 社会科・公民科教育法などの中・高教員養成科目				
テキスト	受講生と相談の上、開講時に指定します						
参考書	受講生と相談の上、適宜、指定します						
成績評価方法	理由のない欠席は認めません。 発表の内容などに加え卒論を中心に判断し、評価します。						
年間授業計画	(春学期) ○卒論テーマの検討 ○卒論に向けた報告 ○（教育実習及び教員採用試験対策など） <ゼミ合宿もしくは夏休み明け> 卒論中間報告			(秋学期) ○卒論に向けた研究 ○卒論作成			

ゼミ名	松丸明弘第一ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部《教職課程》	募集学年	新2年生5~7名 新3年生募集なし	担当教員	松丸 明弘
選考方法	面接						
研究テーマ	社会科・地理歴史科の各科目の基礎知識と教育方法						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 中学校や高等学校で教育実習をして、さらに教員採用試験などを受験しようということになると、教科・科目についての知識が必要不可欠です。教育実習に行くと、もっと前から勉強しておけばよかったと感じます。本ゼミナールは、教育実習や教員採用試験に必要な社会科・地理歴史科の専門科目に関する基礎知識と教育方法の修得を目標としています。</p> <p>【授業の方法】 必要な専門的知識を身につけるために、問題演習形式で授業をしながら基礎知識の獲得をめざします。また、教育方法の観点からは、ICT教育活用事例を学びながら、授業などでICTの活用を自分たちで考えていきます。ほかにも、アクティブラーニングを取り入れた教材をつくり、実際に自分たちで試みてもらいたいと考えています。</p> <p>【現在の状況】 現在、2年生はおらず、3年生が1人だけです。共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨します。また、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	○	○	◎	◎	○	
担当科目	社会科・地歴科教育論、社会科・地歴科指導法、総合的な学習の時間、教育実習	関係する科目	外国史、日本史、地理、社会科・地歴科教育論、社会科・地歴科指導法				
テキスト	授業の際に適宜紹介します。						
参考書	授業の際に適宜紹介します。						
成績評価方法	出席、授業への取り組み、レポートの内容などで総合的に評価します。						
年間授業計画	(春学期) ・教育実習で担当する科目についての知識や教育方法の技術の修得			(秋学期) ・教育実習で担当する科目についての知識や教育方法の技術の修得			

ゼミ名	松丸明弘第二ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部《教職課程》	募集学年	募集なし	担当教員	松丸 明弘
選考方法	—						
研究テーマ	社会科・地理歴史科の各科目の基礎知識と教育方法						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】</p> <p>皆さんは、中学校・高等学校で「地理」、「世界史」、「日本史」などの授業を受けてきたと思います。これらの科目について、どうしても好き嫌いのある生徒がいます。社会科、地理歴史科、公民科の科目は、暗記することが多いので大嫌いと言ってしまう生徒がいます。教師になれば、こうした科目に好き嫌いのある生徒を教えることとなります。このような環境の中で、苦手な生徒にも勉強してもらえるような新しい教育方法を紹介し、また自分たちで考えてもらおうと考えています。</p> <p>最後にテーマを決めてゼミ論文の執筆を行います。</p> <p>【授業の方法】</p> <p>教育方法の視点から自分たちなりにアクティブラーニングを取り入れた新しい方法を導入して、教材をつくり、実際に自分たちで試みてもらいたいと考えています。</p> <p>最初は、いくつかの方法論を紹介します。皆さんには授業を受ける生徒になってもらいます。図版をみながら考える討論授業、歴史上の人物や事件を取り上げてのカルタづくり、シミュレーションゲーム、ロールプレイング、ディベート、寸劇などの方法での授業のいくつかを実際に体験してもらい、その上で自分なりの授業を考えてもらいます。</p> <p>ゼミ論文の執筆については、何回かの中間報告を経て、お互いに意見交換をしながら、よりよい論文を書くことができるように指導していきます。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要／○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
◎	◎	◎	◎	○	○	○	
担当科目	社会科・地歴科教育論、社会科・地歴科指導法、総合的な学習の時間、教育実習		関係する科目	外国史、日本史、地理、社会科・地歴科教育論、社会科・地歴科指導法			
テキスト	授業の際に適宜紹介します。						
参考書	授業の際に適宜紹介します。						
成績評価方法	出席、授業への取り組み、論文の内容などで総合的に評価します。						
年間授業計画	(春学期)			(秋学期)			
	① 論文のテーマを決定する。 ② 執筆計画を作成する。 ③ 資料を収集する。 ④ 論文を執筆する。	① 研究内容について中間発表を行う。 ② 参考意見を踏まえて論文を作成する。 ③ 授業形式の最終発表を行う。 ④ 論文を完成する。					

ゼミ名	松丸啓子第一ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部《教職課程》	募集学年	新2年生 6名	担当教員	松丸 啓子
選考方法	小論文・面接						
研究テーマ	<哲学すること>入門						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>「哲学」というと、何やら難解な抽象的議論を展開するものだと誤解している人は多いと思います。さらに、「哲学を学ぶ」というと、ソクラテスやプラトンに始まり、デカルトやカントをへて、ハイデガーやヴィトゲンシュタインへといたるような、有名な哲学者たちの書いた書物を何はともあれ苦労しながら読み、理解することだと捉えている人が大多数かもしれません。しかし、このゼミでは、そのような「他人」の考えた、出来上がってしまっている「哲学」を勉強するのではなく、自分が〈哲学すること〉を始めます。</p> <p>その一つのきっかけとして、まず永井均の『子どものための哲学対話』を輪読し、議論していきます。そうして、〈哲学すること〉が少し楽しくなってきたところで、今度は“自分”について〈哲学すること〉を課題にします。今まで、素朴な疑問として問うてきたことが、実はかなり〈哲学すること〉そのものへと通じていることに気付いてほしいと考えています。</p> <p>学習方法としては、何よりも、自分を取り巻く環境の中で今何が起きているのか、それにはどのような意味があるのか、と素朴な疑問を手放さずに、常日頃から問うていくことが大切です。テキストの講読も、そうした問いかけをするための手助けとして行います。</p> <p>【授業の方法】 本ゼミナールにおいては、参加者各自が指定テキストの研究報告を分担し、順番にプレゼンテーションを実施していきます。また、外部講師による特別講義を実施する場合があります。共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨し、受験結果に基づいた面談を実施します。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1) 常に半歩先立つ進歩性	(2) 考えて行動する力			(3) ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
○	○	◎	◎	◎	◎	○	
担当ゼミ教員	教育原理、道徳教育論、		関科係目する	広義には、あらゆる科目と相互に関連しています。			
テキスト	永井均『子どものための哲学対話』(講談社、1997年) 永井均『<子ども>のための哲学』(講談社、1996年)						
参考書	随時、ご紹介します。						
成績評価方法	出席状況・研究内容及び報告・議論への参加・レポートにおける自己表現等の観点から、総合的に評価します。特に、主体的に考える態度を重視します。						
年間授業計画	(春学期) ① ガイダンス ② 人間はなんのために生きているのか。 ③ ネクラとネアカ 一生まれのよさー ④ 人生体験マシン ⑤ 善と悪を決めるもの ⑥ うそはついてもいいけど、約束をやぶってはいけない？ ⑦ へんなしごとの意味 ⑧ なぜ音楽評論家は必要か？ ⑨ 言葉の意味だれが決める？ ⑩ 元気が出ないとき、どうしたらいいか？ ⑪ 「強さ」について ⑫ ゼミ発表会準備(1) ⑬ ゼミ発表会準備(2) ⑭ ゼミ発表会準備(3) ⑮ 春学期のまとめ			(秋学期) ① ガイダンス ② ゼミ発表会準備(4) ③ ゼミ発表会準備(5) ④ ゼミ発表会準備(6) ⑤ 友だちは必要か？ ⑥ いやなことをしなければならないとき ⑦ うまく眠るコツ ⑧ ニンゲンのココロ ⑨ 物は見えるからあるのか、あるから見えるのか？ ⑩ 青い鳥はいつ青くなったのか？ ⑪ ニュートンはリンゴが木から落ちるのを見て引力を発見した!？ ⑫ この世の中は約束によってできた？ ⑬ ぼくが生まれるために必要なこと ⑭ 死について ⑮ 秋学期のまとめ			

ゼミ名	松丸啓子第二ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部《教職課程》	募集学年	募集なし	担当教員	松丸 啓子
選考方法	小論文・面接						
研究テーマ	<哲学すること>入門						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>「哲学」というと、何やら難解な抽象的議論を展開するものだと思われている人は多いと思います。さらに、「哲学を学ぶ」というと、ソクラテスやプラトンに始まり、デカルトやカントをへて、ハイデガーやヴィトゲンシュタインへといたるような、有名な哲学者たちの書いた書物を何はともあれ苦勞しながら読み、理解することだと捉えている人が大多数かもしれません。しかし、このゼミでは、そのような“他人”の考えた、出来上がってしまった「哲学」を勉強するのではなく、自分が〈哲学すること〉を始めてもらいます。</p> <p>その一つのきっかけとして、まず永井均の『子どものための哲学対話』を輪読し、議論していきます。そうして、〈哲学すること〉が少し楽しくなってきたところで、今度は“自分”について〈哲学すること〉を課題にします。今まで、素朴な疑問として問うてきたことが、実はかなり〈哲学すること〉そのものへと通じていることに気付いてほしいと考えています。</p> <p>学習方法としては、何よりも、自分を取り巻く環境の中で今何が起きているのか、それにはどのような意味があるのか、と素朴な疑問を手放さずに、常日頃から問うていくことが大切です。テキストの講読も、そうした問いかけをするための手助けとして行います。</p> <p>【授業の方法】</p> <p>本ゼミナールにおいては、参加者各自が指定テキストの研究報告を分担し、順番にプレゼンテーションを実施していきます。また、外部講師による特別講義を実施する場合があります。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】 (◎特に重要/○重要)						
	(1) 常に半歩先立つ進歩性	(2) 考えて行動する力			(3) ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
○	○	◎	◎	◎	◎	○	
担当科目	教育原理、道徳教育論		関係科目	広義には、あらゆる科目と相互に関連しています。			
テキスト	永井均『子どものための哲学対話』(講談社、1997年) 永井均『<子ども>のための哲学』(講談社、1996年)						
参考書	随時、ご紹介します。						
成績評価方法	出席状況・研究内容及び報告・議論への参加・レポートにおける自己表現等の観点から、総合的に評価します。特に、主体的に考える態度を重視します。						
年間授業計画	(春学期)			(秋学期)			
	① ガイダンス ② 人間はなんのために生きているのか。 ③ ネクラとネアカ 一生まれのよさー ④ 人生体験マシン ⑤ 善と悪を決めるもの ⑥ うそはついてもいいけど、約束をやぶってはいけない？ ⑦ へんなしごとの意味 ⑧ なぜ音楽評論家は必要か？ ⑨ 言葉の意味だれが決める？ ⑩ 元気が出ないとき、どうしたらいいか？ ⑪ 「強さ」について ⑫ ゼミ発表会準備(1) ⑬ ゼミ発表会準備(2) ⑭ ゼミ発表会準備(3) ⑮ 春学期のまとめ			① ガイダンス ② ゼミ発表会準備(4) ③ ゼミ発表会準備(5) ④ ゼミ発表会準備(6) ⑤ 友だちは必要か？ ⑥ いやなことをしなければならないとき ⑦ うまく眠るコツ ⑧ ニンゲンのココロ ⑨ 物に見えるからあるのか、あるから見えるのか？ ⑩ 青い鳥はいつ青くなったのか？ ⑪ ニュートンはリンゴが木から落ちるのを見て引力を 発見した!? ⑫ この世の中は約束によってできた？ ⑬ ぼくが生まれるために必要なこと ⑭ 死について ⑮ 秋学期のまとめ			

ゼミ名	早坂ゼミナール (Seminar)	学部	人間科学部《教職課程》	募集学年	新2年生 5名程度 新3年生 0名	担当教員	早坂 めぐみ
選考方法	エントリーシート、面接						
研究テーマ	社会を読み解き、社会を変えるための教育社会学						
ゼミナールの目標・概要・方法	<p>【ゼミナールの目標】 空気を読まずに、テキストを読む。理想よりも現実をみる。建前でなく本音で語る。根拠をもって主張する。自身の子ども時代や学校での経験などをふりかえり、疑問や違和感の正体を探る。教育と社会、そして自身のあり方を問い直す視点を獲得する。</p> <p>【ゼミナールの概要】 本ゼミナールは、教育社会学の文献講読と自主的な研究活動によって、学生が相互に学び合うゼミである。卒業論文へとつながる個人研究の実施とともに、ゼミナール発表会での報告に向けたグループ研究、ゼミ発表に基づくゼミ論文の執筆を主に行う。教員志望か否かは問わず、教育に広く関心のある学生に向いている。日頃から地道に読み、考えをまとめ、他者とよく語ることを推奨している。</p> <p>【授業の方法】 教科書の輪読と議論を中心に進めるが、受講者と相談し、フィールドワーク、インタビュー、質問紙調査等の社会調査を実施することがある。秋学期には文献研究と並行し、全学年のゼミ生が自身の問題意識に基づく論文作成を行う。</p> <p>【その他】 外部講師を呼ぶ場合がある。今回が4期生の募集となる。自由に議論することを重視しているので、新ゼミ生にも学部や学年の垣根を超えて、積極的に議論や研究活動に参加することを期待する。 共同授業形式で実施される「Match plus」の受験を推奨する。また、受験結果に基づいた面談を実施する。</p>						
到達目標	【汎用的スキルの修得と態度面の発達】(◎特に重要/○重要)						
	(1)常に半歩先立つ進歩性	(2)考えて行動する力			(3)ともに行動する力		
		①問題を解決する力	②論理的に考える力	③複数の視点から考える力	①コミュニケーションする力	②他者を受け入れる力	③倫理観と社会的責任
○	○	◎	◎	◎	◎	○	
ゼミ教員	教育学 A/B、教育制度、教育実践研究 A/B、ゼミ I、教育実習	関係する科目	人間科学概論、人間科学方法論、教育学、社会学、家族社会学など				
テキスト	相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子 (2023) 『これからの教育社会学』有斐閣						
参考書	社会文化学会編 (2020) 『学生と市民のための社会文化研究ハンドブック』晃洋書房 その他、適宜紹介する。						
成績評価方法	出席状況(欠席を認めない。やむを得ない欠席は事前に連絡すること)、報告内容、議論への参加度、ゼミへの貢献度(調査・分析・ゼミ論文の執筆・ゼミナール発表会を含むゼミ行事への参加度)等を総合的に評価する。						
年間授業計画	(春学期) 1.オリエンテーション 2.あなたは誰?教育社会学の考え方入門 3.試験と学歴から考える教育 4.格差と不平等から考える教育 5.教育の場としての家庭 6.ジェンダーと子育て 7.学校のなかの家族 8.見えない教育問題 9.善と悪の間から 10.「子どものため」の陥穽 11.ゼミナール発表会に向けた準備①、卒論進捗報告 12.ゼミナール発表会に向けた準備②、卒論進捗報告 13.ゼミナール発表会に向けた準備③、卒論進捗報告 14.ゼミナール発表会に向けた準備④、卒論進捗報告 15.まとめ			(秋学期) 1.オリエンテーション 2.ゼミナール発表会に向けた準備⑤、卒論指導 3.ゼミナール発表会に向けた準備⑥、卒論指導 4.ゼミナール発表会に向けた準備⑦、卒論指導 5.ゼミナール発表会に向けた準備⑧、卒論指導 6.ゼミナール発表会に向けた準備⑨、卒論指導 7.ゼミ論文の執筆①、卒論指導 8.ゼミ論文の執筆②、卒論指導 9.ゼミ論文の執筆③、卒論指導 10.ゼミ論文の執筆④、卒論指導 11.「子どものため」の陥穽 12.マイノリティの子どもの排除と包摂 13.移民の子どもの多様な学びの場 14.ともにつくる教育と社会へ 15.まとめ			